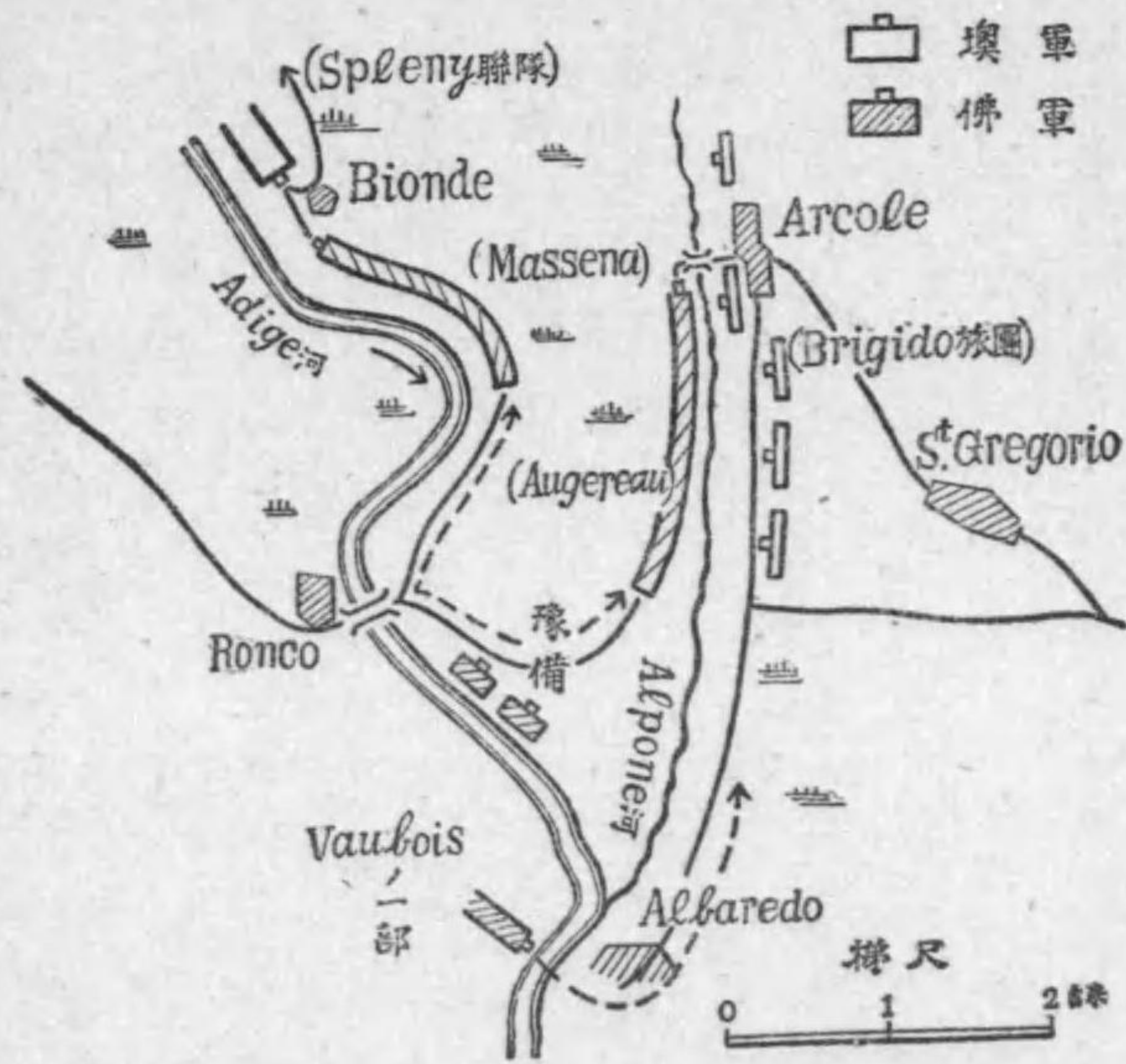


Arcole附近カラ左岸ニ渡リ敵ノ左側ニ向ハシメ、親カラ正面ノ戰場ニ急行シタ、然ルニ戰勢甚ク振ハス、苦戰逡巡ノ狀カ見ヘタカラ、奈翁ハ叱咤激勵今日ノ將卒ハ曩キニロヂ(Lodi)ノ橋梁ヲ強行通過セル將卒ニ若カサルカト怒髮冠ヲ衝キ諸兵ノ先頭ニ立チテ猛進シタ、嘗テロヂノ橋梁通過ニ先登ヲシタランヌ(Lannes)將軍ハ負傷ニ屈セス奈翁ニ先ンシテ三度傷キ、副官ムイロン(Muiron)ハ身ヲ以テ奈翁ヲ掩ヒ砲彈ニ斃レタ、奈翁ノ危險モ亦タ風前ノ燈火ノ如キ有様トナツタ、多クノ幕僚ハ身ヲ以テ軍司令官ヲ掩護シ、無理ニ乘馬セシメテ後方ニ向ケ、馬ニ一鞭ヲ與ヘテ狂奔セシメタ、狂奔セル乘馬ハ堤上ノ軍隊中ヲ馳驅シテ遂ニ路傍ノ沼澤中ニ陥リ、哀レ堂々タル軍司令官モ亦タ沼澤中ニ埋没セントスルノ危キニ迫ツタ、埃軍ノ一部隊ハ退却スル佛軍ヲ追フテ堤道ヲ前進シ奈翁ノ位置ヨリ前方迄進出シタカ、混雜中、軍司令官タルコトニ氣カ着カナカッタノハ幸福テアツタ、佛軍ハ軍司令官ノ委棄セラレアルヲ知ツテ大ニ驚キ之ヲ救出スヘク返戰大ニ努メ以テ辛ウシテ奈翁ヲ危地ヨリ救出シタ、然シ、攻撃ハ一時挫折セラレテ中止ノ姿トナリ、下流ヨリ渡河セル一部隊ノ成果ヲ待ツノ已ムヲ得サルニ至ツタ、

ARCOLE附近ノ戰鬪(第一日、十一月十五日)



オージロー (Angereau) 師團カ斯克、失敗シタ間ニ、マッセナ (Massena) 師團ハアディジ (Adige) 左岸ニ沿フテ前進シビオンデ (Bionde) 附近ノ敵ヲ攻撃シテ之ヲ西北方ニ撃退シ以テ有利ナル形勢ヲ維持シタ、

アルバレド (Albaredo) ヨリアディジ (Adige) 河ヲ渡河シタ佛ノ一部隊ハ少数ノ敵ヲ驅逐シツツ、アルコール (Arcole) ノ左側ニ迫ツタ、オージロー (Angereau) ハ即チ再ヒ勇ヲ鼓シテ攻撃ヲ開始シ突撃縦隊ヲ以テ橋梁ヲ強行通過シ、今回ハ首尾能ク敵ヲ北方ニ撃退シタ、然ルニ埃ノ大軍ハアルコール (Arcole) 北方千數百米ニ在ルサン、ボンチオ (St. Bonifacio) 附近ニ進出シ戰團隊形ヲ取り、恢復攻撃ヲ企圖スル模様カ見エ、依テ此處ニ夜ヲ撤スルハ甚タ危険テアルト爲シ、苦戦ノ後、辛ウシテ奪取シタルアルコール (Arcole) ヲ棄テ再ヒ右岸ロンコー (Ronco) ニ退却シタ、

奈翁ノ企圖ハ此ノ第四回目ニ於テモ思ヒ通りニ進捗セス、奇襲ノ目的ハ達セラレナカツタノテアル、明日ハアルビンチー (Alvini) モ應急ノ手段ヲ廻ラシ、茲ニ眞面目ノ戰鬪カ起ルテアロウ、然ラハ佛軍ノ爲メニハ尙ホ危険ヲ増大シツツアル情況テアル、

奈翁ハ依然前決心ノ通り續テ明十六日モ當面ノ敵ヲ攻撃スヘク夜中諸準備ヲ整ヘタ、明クレハ十六日拂曉、佛ノ諸隊ハ再ヒ河ヲ渡リテ困難ナル攻撃ノ途ニ就イタ、マッセナ (Massena) ハ前日ト同様、左方ヨリ進ミ、當面ノ劣勢ナル敵ヲ苦モナク撃破シ遠ク之ヲカルディエロ (Caldiero) (Ronco) 西北約九吉米方面ニ迄テ壓迫シタ、然ルニオージロー (Angereau) 師團ノ方面ニ於テハ前日ニマサル大慘劇カ演セラレ、奏功ノ望殆ント覺束ナク見エタ、此間奈翁ハ下流アルバレド (Albaredo) 方面ヨリ一部隊ヲ敵ノ側背ニ迂回セシメヨウト試ミタケレドモ敵ニ妨ケラレテ遂ニ實施セラレナカツタ、オージロー (Angereau) ハ再三攻撃ヲ繰リ返シタケレトモ、敵ハ前日ニ比シ甚タ増加シテオルカラ、毎度失敗ニ終ツタノミナラス、アルビンチー (Alvini) ハ佛軍ノ動搖スルニ乘シ一部隊ヲアルボン (Alpone) 河ノ右岸ニ移シオージロー (Angereau) ニ向ツテ攻勢ヲ取ラセタ、奈翁ハ此ノ危急ノ情況ヲ見ルヤ、陰ニ歩兵ノ小部隊ト若干ノ砲トヲ以テ敵ノ來進スルヲ待チ俄然急射撃ヲ以テ之ヲ退却セシメ、先ツ事無キヲ得タノテアル、此日ノ戰鬪ハ斯ノ如クシテ勝敗決セスシテ日没ト爲ツタ、奈翁ハ三度軍ヲ右岸地區ニ退ケ、更ニ困難ナル情況ノ解決ヲ圖ルニ決シタ、

兩軍ハ更ニ雌雄ヲ決スヘク第三日モ亦タ激戦ヲ交エタ(第三日戦闘圖參照)  
 戦闘ハ佛軍ノ攻撃運動ヲ以テ開始セラレタ、アデージ(Adige)橋梁ノ對岸ニ於ケル  
 一部ノ埃軍ハ相應ノ妨害ヲ試ミタ後、北方ニ撃退セラレタ、佛軍ニ於テハ前日ノ失  
 敗ニ鑑ミオージロー(Augereau)ヲシテアデージ(Adige)河トアルボン(Alpone)河トノ  
 合流點附近ヨリアルボン(Alpone)ノ左岸ニ進出セシメ、マツセナ(Massena)ハ其ノ半  
 旅團ヲ以テ敗敵ヲ追撃シツツ西北方ポルシル(Porcil)(Ronco)西北六吉米ニ向ヒ、主  
 力ハ右方ノ戦闘ニ參加セシメ以テ此方面ノ戦闘力ヲ大ニ増加シタ、又タ東南方レ  
 グナーゴ(Lengasco)ノ守兵タリシニ二大隊モ敵ノ左側ヲ攻撃スヘク前進シテ來タ、於  
 是各團隊相協力シテアルコール(Arcole)ニ向テ總攻撃ヲ強行シタ、然シ埃軍モ奮闘  
 大ニ努メタノミナラス、アルボン(Alpone)河ノ左岸ニ於テハ先ツ逆襲ヲ以テ挺進セ  
 ル佛軍ノ一部ヲ撃退シ、次テ埃軍ノ大縦隊ハアルボン(Alpone)河ノ右岸地區カラ攻  
 勢ニ出テタ、之ニ對シ同河右岸ニ在リシ佛ノ各隊ハ各方面ヨリ猛烈ニ逆撃シ、又タ  
 ペルシル(Percil)ニ向ヒタルマツセナ(Massena)師團ノ半旅團モ還リ來ツテ攻撃ニ  
 參加シ大ニ之ヲ撃破シ多クノ損害ヲ與ヘタ上ニ、三千人ヲ捕獲スルノ大功ヲ收メ

千七百九十六年伊太利戰役

Arcole附近ノ戦闘(第二日、十一月十六日)



タ、然シ爾後アルボン (Alpone) ノ左岸ニ於ケルオージ・ロウ (Augereau) ノ方面ハ敵モ亦大兵ヲ向ケテ殊死シテ戦ヒ、兩軍共ニ大ニ疲勞シ、互ニ苦戦ヲ極メ、又タ奈何トモスルノ餘裕ナキ窮境ニ陥ツタ、

午後三時頃戰場ハ濃霧ニ蔽ハレタ、奈翁ハ此變化ヲ利用シタ、彼ハ尙ホ胸中ニ奇計ヲ案出スルノ餘地ヲ有シテオツタノテアル、奇計トハ何カ、彼ハ一騎兵將校ニ喇叭手數十騎ヲ率ヒテ敵ノ左翼ヲ迂回シテ其ノ背後ニ出テ突然襲撃ノ譜ヲ合奏セシメ以テ大騎兵團ノ襲撃ヲ装ハシメタ、此兒戲的奇計ハ成効シテ埃軍ニ動搖カ起ツタ此ノ機ニ乘シテオージ・ロウ (Augereau) ハ猛烈ニ正面カラ攻撃ヲ再興シ、終ニ埃軍ヲ退却セシムルニ至ツタ、斯クシテ三日三夜ノ長キニ亘レルアルコール (Arcolo) ノ激戦ハ佛軍ノ勝利ニ歸シタノテアル、佛軍將卒ノ歡喜ヤ幾何ソ、

此後埃軍ノ損害ハ七、八千ヲ下ラナイ、佛軍ニモ之ニ下ラサル損害カアツタテアロウ、

奈翁ハ再三、再四ノ失敗ヲ重ネタル後、所謂最後ノ五分間ニ於テ、僅ニ敵ノ主力ヲ撃破シ得タ、其ノ苦戰奮闘ノ狀モ察スルニ餘リアル次第テアル、然ルニ彼ハ尙ホ身神ヲ安ンスルノ暇ナク、復タ復タ、憂慮スヘキ悲報カ到着シタ、曰ク「ボー・ボア (Vaubois) 師團ハ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケリボリ (Rivoli) ノ陣地ヲ撤シテミンチオ (Mincio) 河ノ西岸ニ移ツタ、敵ハベローナ (Verona) 方面ニ南下中テアル」、

此ノ情報ニ接シテハ依然トシテ無爲ナルヲ許サナイ、奈翁ハ復モヤ、此ノ疲勞ノ極ニ達セル將卒ト尙ホ整頓ヲ了ラサル軍隊トヲ鞭撻シテ更ニ此ノ敵ニ向ハナケレハナラヌ、其ノ苦衷實ニ察スルニ餘リアリテハナイカ、

奈翁ハアルビンチー (Albinzi) ノ軍ニ對シ單ニ騎兵ヲ以テ追撃ニ任セシメ、殘餘ヲ擧ケテダビドビッチ (Davidovich) ノ軍ニ向ヒテ轉進シタ、然ルニダビドビッチ (Davidovich) ハボー・ボア (Vaubois) ヲ追撃シテ徐々前進ヲ續行シタカ、アルビンチー (Alvinzi) ノ敗報ヲ得ルヤ、十九日ヲ以テ北方ニ向ヒ退却ヲ開始シタ、爲メニ奈翁ハ之ヲ殲滅スルノ機ヲ失シタケレトモ、其ノ後尾ノ部隊ニ追及シテ甚シキ打撃ヲ與ヘタ是ノ時ニ當リマンツア (Mantua) ノ攻圍部隊ハ大部主力ニ招致セラレ、單ニ數千ノ監視部隊ヲ殘置シアルニ過キナカツタ、之ニ反シ守備兵ハウルムゼル (Wurmser) ノ率ユル二萬ノ大兵ヲ有シテオル、然ルニウルムゼル (Wurmser) ハ敢テ適時ノ出撃ヲ企圖ス

ルコトナク、二十三日ニ至ツテ始メテ出撃ヲ試ミタカ、此ノ時ハ佛軍ニ於テモ攻圍部隊ヲ増加シタ後テアツタカラ、直ニ撃退セラレ、再ヒ要塞内ニ遁入シ斯クシテ此ノ火ノ出ル如キ活劇ハ其終リヲ告ケタノテアル、

懸賞問題 (提出期限四月三十日迄)

第三回ガルダ (Garla) 湖附近ノ諸戦團(自十一月上旬至十一月中旬)ニ依リ得タル教訓

懸賞問題第三回ガルダ (Garla) 湖附近ノ諸戦團(自十一月上旬至十一月中旬)ニ依リ得タル教訓ニ就テ

(此ノ問題ニ對スル答案中、東武生ノ作業ヲ優等ト認メ賞品ヲ贈與セリ)

今回ノ諸君ノ答案ヲ見ルニ多クハ抽象的ノ所見テアツテ問題ノ諸戦團中ノ何レノ戦團又ハ情況ニ對シテノ陳述テアルカ明確ニ分ラヌモノカ少クナイ從テ前回ニ比シ進境ニ在ルコトヲ認ムルコトカ出來ナイノハ遺憾テアル然シ何レモ多端ナル公務ノ餘暇ヲ利用セラレ熱心ニ答解セラレタコトニ就テハ予等ノ大ニ感謝スル所テアル、本記事餘白ノ制限モアルカラ今回ハ諸君ノ所見ヲ茲ニ紹介スルヲ止メ、予ノ卑見ヲ極メテ簡單ニ述ヘ以テ參考ニ供シヨウト思フ、  
一 兩軍ノ作戦計畫ニ就テ 大體ニ之ヲ觀察スレハ埃軍ハ優勢ノ兵力ヲ擁シテ外線作戦ヲ爲シ、佛軍ハ之ニ反シ劣勢ノ兵力ヲ以テ内線作戦ヲ取ツタノテアル當時ニ於ケル通信、交通機關ノ不完全ナル状態ヲ以テシテハ奈翁ノ如キ機敏ナル將帥ニ對シテ外線ニ立ツハ各個撃破ノ危険極メテ大テアル、從テ之カ指導統

帥ニハ十二分ノ慎重ヲ以テ實施セラレナケレハナラヌ、然ルニ地形ハ相互斷絶シテ連絡ハ頗ル困難ヲ極メ、殊ニ季候ハ恰モ雨期テアツテ、サナキタニ困難ナル行動ヲ一層不便ナラシメルノテアルカラ、寧ロ内線ニ立ツ佛軍ノ爲メニ有利ナル情況テアルト云ハネハナラヌ、奈翁ハ此ノ状態ヲ利用シ、逸ヲ以テ勞ヲ待ツノ策ヲ取ツタノテアル然シ奈翁トシテハ其内線作戰ノ原則トシテ分進セル奥軍カ未タ合一セサルニ乘シテ各個擊破ノ策ヲ取ルヘキハ勿論ノコトテアルカ、彼ハ最初、大體ノ計畫トシテ弱勢一萬ナルボーボア(Vaubois)ヲシテ優勢一萬八千ナルダビドビッチ(Davidovich)軍ヲ擊破セシメントシタ、之レハ奥軍ノ價値ヲ劣等ナモノト判斷シタ結果テモアロウカ、然シ確實ナル公算ヲ期シ得ラレマイト思フ、殊ニ自カラ直接之ヲ指揮スルナラハ兎モ角、佛軍諸將ノ中テ、比較的凡庸ナル、働キノナイボーボア(Vaubois)ヲシテ之ニ當ラシメタノハ益、以テ其結果ヲ疑ハシムルモノト謂ハサルヲ得ヌ、果然奈翁ノ計畫ハ彼我觸接ノ初期ニ於テ已ニ齟齬スルニ至ツタ、

二 カルデイエロ(Caldiero) 附近ノ戰鬪ニ就テ 此戰鬪ハ佛軍カ能ク奮闘シタニ拘

ハラス、終ニ退却ノ已ムナキニ至ツタノテアル、佛軍ノ爲メニハ惜ムヘキ至リテアル、之レハ兵力ノ劣勢、天候ノ關係(東風雪ヲ交エテ面ヲ打チ殆ント眼ヲ開クコトカ出來ナカツタト云フ)等敗因ヲ爲ステアロウカ、奥將アルビンチ(Alvintz)カ戰鬪場裡ニハ極メテ強カツタコトモ大因ヲ爲シタノテアル、然シ戰術上特ニ注意ヲ要スルハ奥軍増援隊タル十數大隊ノ全部若クハ大部ヲ決勝點ニ使用セスシテ三方面ニ殆ント等分シテ使用シタコトテアル、幸ニシテ佛軍ハ已ニ其全力ヲ展開シタトキテアツタカラ、此兵力分割ノ弊モ危險ニ陥ラスシテ濟ムタカ、少クモ戰勝ノ效果ヲ減殺シタコトハ爭ハレマイト思フ、

三 アルコール(Arcole)方面ヘノ轉進ニ就テ カルデイエロ(Caldiero) 附近ノ激戰ニ負ケタ佛軍トシテハ勢ヒベロナ(Vrona)ノ要塞ヲ利用シテ攻勢防禦ヲ爲スカ或ハ北方ノ敵ヲ顧慮シテ遠クガルダ(Garda)湖西方ノ地區ニ退却スルカガ、凡將ノ取ルヘキ策テアル、然ルニ百折屈セサル奈翁ノコトテアルカラ、更ニ手ヲ換エテ奇襲ノ策ニ出テタノテアル、此點ニ就テハ彼ノ企圖心ニ感服スルノ外ハナイ、

四 アルコール(Arcole)附近ノ戰鬪ニ就テ 地形ノ不利ナル爲メ、第一日ノ戰鬪ニ

失敗シ、第二日ノ激戦ニモ奏效セス、殆ント凡人ノ眼ヨリハ見込ナキ戦闘ヲ更ニ第三回ニ於テモ繰リ返シ、苦戦奮闘彼我絶大ノ努力ヲ費シ最早何レモ失神ノ状態ニ陥ツタ、然ルニ奈翁ハ未タ失神ハシナカツタ、彼ニハ尙ホ企圖心カアツタノテアル、言フ勿レ、此役奈翁ハ「小供ダマシ」ノ如キ喇叭ノ響キヲ以テ僥倖的勝利ヲ得タリト、實ニ此危急存亡ノ秋ニ當リテノ喇叭ノ一聲ハ決シテ兒戲テハナイ、當時ニ於ケル彼我ノ心理状態ニ想到シタナラハ一大豫備隊ヲ決勝點ニ注入シタト同様ナル價值ヲ有スルモノテアルト云フ所以ヲ知り得ルテアロウ、凡ソ時ノ古今ヲ論セス、洋ノ東西ヲ問ハス、實戰場裡ニハ此種實例ニ乏シクナイノテアル、

五 ダビド、ゴチ (Davidovich) ニ對スル轉進 アルコール (Arcole) ノ戦闘ニ於テハ埃軍モ實ニ能ク奮闘ヲシタ、流石ニアルベンチ (Alvintz) ハ勇將ノ名ニシムカナイ從ツテ佛軍モ今ヤ其疲勞ノ極度ニ達シ、其大損害ノ結果ト相合シテ戦闘力ハ著シク減シテオル、此軍隊カ直ニ戦闘ノ役ニ立トウトハ思ハレヌ位テアル、然ルニ奈翁ハ更ニ之ヲモ鞭撻シテ直ニ自己ノ背後ニ迫ラントスルダビド、ゴチ (Davidovich) 軍ニ轉進セシメタノテアル、軍隊ヲ斯ノ如ク、犬馬モ管ナラサル如ク驅使シ得ル

ノ術ハ實ニ奈翁ノ偉大ナル所以テアル、當時若シ奈翁以外ノ將帥テアツタナラハ如何ニ嚴命ヲ下シタ所テ軍隊ハ大部落伍シテ實際ノ使用ニ堪エナカツタロウト思フ、實ニ將帥ノ信望ハ部下ヲシテ人力以上ニ活躍セシムルノ魔力ヲ有スルモノテアル、

然シ奈翁ヲシテ斯ク迄テ危険ナル状態ニ陥ラシメタノハ種々ノ原因モアルカ、ボーボア (Vaubois) ノ無能ニシテ脆クダビド、ゴチ (Davidovich) カラ撃退セラレタノカ大因テアル、而カモ無能ナルボーボア (Vaubois) ニ此大役ヲ授ケタル奈翁モ亦タ其責任ヲ負ハナケレハナラヌ、即チ最初ノ計畫ニ伴フ實施ノ方法カ其當ヲ得ナカツタ爲メ、此際ドイ藝當ヲ演スルノ餘儀ナキニ至ツタトモ言フコトカ出來ル、奈翁ノ大天才ヲ以テシテモ尙ホ且ツ斯ノ如ク指摘シ得ヘキ點カ往々ニシテ存在スルノテアル、作戰ノ指導モ亦タ難イ哉、

要之、第三回ガルダ (Garda) 湖附近ノ諸戦闘ニ依リテ特ニ痛快ヲ感シ吾人ヲシテ血液ヲ沸カシムルモノハ奈翁カ百折千挫不屈ノ精神テアル、所謂最後ノ五分間ノ忍耐テアル、不利危殆ノ状態ニ在リテ常ニ企圖心ヲ失ハヌコトテアル、吾人ハ刻下ノ

大戰ニ於テ獨軍カ孤軍奮闘常ニ企圖心ニ富ミ恰モ奈翁時代ノ佛軍ノ如ク往ク所トシテ殆ント成功セサルハナキ有様ト對照シテ轉タ今昔ノ感ニ堪エメ次第テアル、

## 二 自一七九七年至一七九九年概況

一七九七年ヨリ一七九九年ニ至ル間ニ於テハ軍事上、研究ノ趣味アル事項ハ比較的少ナイ、從ヒテ殆ント此間ノ事實ニ就キ兵書ニ掲ケラレテアルモノハ稀レテアル、依テ順序上、少シク之ヲ述ヘヨウト思フ、實ハ著眼ノ仕様ニ依リテハ相應ニ研究事項ヲ發見スルコトカ出來ルノテアル、

一 羅馬法皇ノ壓服 羅馬法皇ハ嘗テ奈翁ノ一喝ニ會ヒテ直ニ屏息シタカ、内心ハ素ヨリ不平ニ堪エヌ、何時カ機會カ有ツタラハト窺フテオツタ、恰モ奧將アルビンチ(Alvizi)カ大舉シテ南下スルノ報ヲ耳ニスルヤ、今度コソハ如何ニ奈翁テモ其ノ疲勞セル劣勢軍ヲ以テシテハ到底勝算ハナイト素人的ノ輕忽ナル誤斷ヲ下シタ、ソコテ忽チ奈翁ニ對スル前約ニ背キ、再ヒ反抗ノ旗ヲ揚ケタ、其ノ煽動ノ方法モ、ヤハリ餅屋ハ餅屋テ、迷信的方法ヲ以テ或ハ殉教者ノ遺骨カラ血カ流レタトカ、或ハマリアノ聖像ハ涙ヲ垂レテオルトカ言ヒ觸ラシテ盛ニ對佛ノ熱ヲ高メタ、

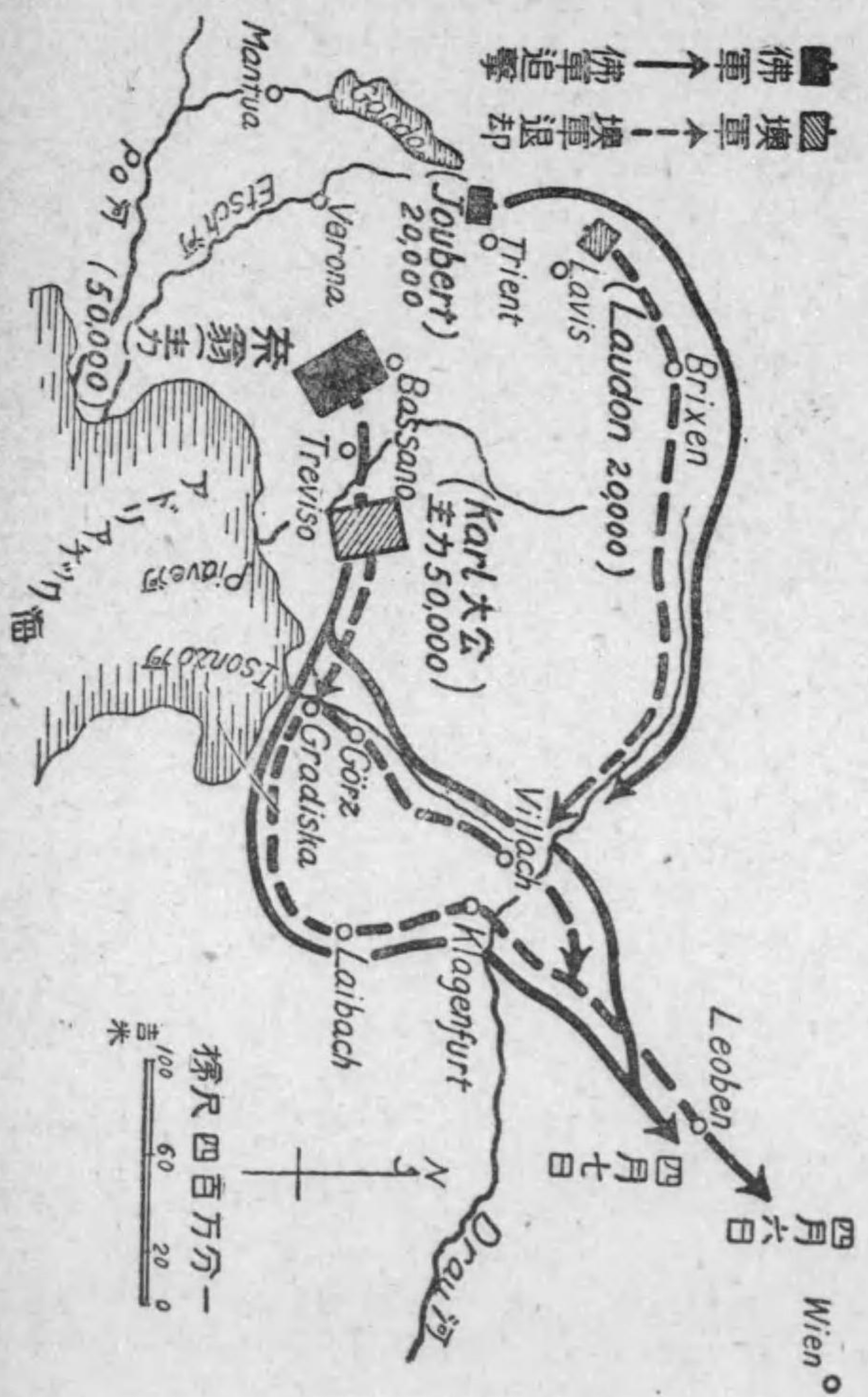


奈翁ハアルピンチ (Alpinzi) ノ軍ヲ激戦ノ後卒ウシテ撃破シタ後、彼我戦勢ノ恢復ニ努力シツツアル間ヲ利用シ心身ノ大ナル疲勞ヲモ意トセス、小癩ナ振舞ヲスル法皇ヲ懲ラシムル爲メ、手兵僅ニ三千ヲ率ヒテ法皇領ニ進入シ、先ツ脅威的ニ若干ノ砲撃ヲ試ミルト、所謂神助ヲ保有セル法皇勢ハ恰モ木ノ葉ノ如ク散亂シタ、一度ナラス再度迄、反旗ヲ揚ケタ法皇ノコトテアルカラ嘸カシ手嚴シキ制裁カ加ヘラルルコトト思ヒノ外、奈翁ハ全ク反對ノ處置ニ出テタ、即チ捕虜ハ優遇シ、僧侶ハ慰撫セラレ、殆ント敵トシテ取扱ハレナカッタ、而シテ奈翁ハ佛國ノ使命ハ決シテ侵略ヲ目的トスルモノテナイ、只タ新タナル共和國ヲ建設シ人民ヲ安ンセシムルニ在ルコトヲ示シタ是ノ意外ノ處置ニ就テハ佛國政府モ大ニ反對テ、一層峻烈ナル制裁ヲ加ヘンコトヲ望ンテオツタカ、奈翁ハ之ニ耳ヲ傾ケナカッタ、蓋シ彼ハ實ニ伊太利統一ナル遠大ノ理想ヲ已ニ此ノ時カラ抱イテオッタノテアル、

二 一七九七年戰役埃ノカール太公對奈翁 前年來ニ於ケル幾十回ノ激戦ニ依リ敗者タル埃軍ハ勿論、勝者タル佛軍ニ於テモ亦タ其ノ損害ト疲勞トハ實ニ名

一七九七年戰役概見圖

自三月上旬至四月中旬



自一七九七年至一七九九年概況

狀スヘカラサルモノテアツタ、故ニ一月末以來暫クハ兩軍共ニ其ノ戰鬥力ノ充實ヲ圖ルヘク多忙テアツタ、從ツテ自然休戰ノ狀態ヲ以テ一ヶ月餘ヲ經過シタカ三月上旬ニ於テハ兩軍共ニ略、其ノ戰勢ヲ恢復シ、右ノ概見圖ニ示スカ如キ位置ニ整備セラレタノテアル、

即チ兩軍ノ主力(各約五萬)ハピアーブ(Diavo)河ヲ夾ンテ相對シ、又々各二萬ヨリ成ル一軍ヲ以テガルド(Gardo)湖北方ニ於テ近ク相對峙スルニ至ツタ、

埃軍ハ屢、伊太利方面ニ於テ敗北ヲ重ネ悲憤遺ル方ナク、如何ニモシテ奈翁軍ヲ挫カンモノト焦慮シツツアツタカ、恰モカール(Karl)太公ハ獨逸方面ニ於テ大ニ佛軍ヲ擊破シ名聲噴々タルニ至ツタ、ソコテ、埃國政府ハ此ノ年少氣銳二十五歳ナル將軍ヲ新タニ伊太利軍司令官ニ任命シタ、實ニ彼ハ四人目ノ伊太利軍司令官テアル、此將軍カ是カラ其ノ手腕ノ眞價ヲ試験セラレヘク愈、日下開山タル橫綱ニ對スルコトトナツタノテアル、

奈翁ハ前述ノ如ク再度法皇領ヲ制壓シテ三月上旬ヲ以テ主力ノ位置ニ歸還スルヤ直ニ埃軍ヲ攻撃スルノ計畫ヲ策定シタ、其ノ要旨ハ主力ヲ以テ埃軍ノ主力

ヲ壓迫シテ之ヲ北方チロール(Tiro)州ニ在ル敵ノ一部トノ連絡ヲ斷チビルラハ(Villach) (概見圖中央)方面ノ隘路内ニ壓迫殲滅セントスニ在ツタ、

佛軍ハ三月十日ヲ以テ攻勢運動ヲ開始シタ、然ルニ新進氣銳ノ將軍ヲ戴ケル埃軍モ一向ニ振ハス、敢テ眞面目ノ戰鬥ヲ交ユルノ勇氣モナイ、佛軍カ進メハ、直ニ退却シ、停止スレハ又々停止スルト言フ有様テ、逐次東方ヘ退却シタ、奈翁モ豫期ニ反シタル埃軍ノ行動ニ却テ氣味悪ルク感シ或ハ過度ニ押シテ行ケハ或ハ土俵際ニ打捨ラルルコトアラシク氣遣ツタ、從ツテ奈翁得意ノ猛烈ナル追擊ノ壯舉ニ出ツルコトナク、只タ敵ニ隙ヲ與ヘサランコトニノミ注意ヲ拂フタ、此ノ石橋ヲ叩ク式ノ前進ニ依リテ大ニ其ノ行動カ遲滯シタノテアル、

奈翁モ埃軍ノ間斷ナキ退却ニ依リ漸ク其ノ爲スナキヲ覺リ追擊ハ次第ニ活潑ト爲リ北クルヲ追フテ現時伊埃ノ戰場ト爲レルイソンゾ(Isorno)河谷ヲ北上シテ三月二十日頃ニハビルラニ(Villach)附近ニ達シタ、依テ茲ニ暫ク停止シテ、支作戰方面ニ於ケルヂュベール(Joubert)ノ到著ヲ待ツコトト爲ツタ、然ルニヂュベール(Joubert)ハ主力トノ連絡カ絶エタ爲メ其ノ行動大ニ遲延シタ、ソコテ奈翁ハ

其ノ到著ヲ待ツコトナク同月末ヨリ再ヒ追撃前進ヲ開始シ四月七日ニハ埃都  
 ウイーン (Wien) ヲ去ル僅カ百吉米餘ニ在ルレオベン (Leoben) 附近迄進入シタ、埃  
 國モ今ヤ力盡キテ奈何ントモスル能ハス、已ムヲ得ヌ媾和ヲ申出テタ、ソコテ、レ  
 オベン (Leoben) ノ假條約カ結ハレ、次テ同年十月カムポホルミオ (Campo-formio) 本  
 條約ノ締結ヲ見ルニ至ツタ、佛國ハ之ニ依リテ奈翁ノ名ト共ニ頓ニ隆盛ヲ加ヘ  
 タノテアル、

奈翁カカール (Karl) 太公ニ對シテ大ニ慎重ノ態度ヲ取ツタコトニ就テハ彼ノ  
 平生ニ似合ハヌ臆病ノ様ニモ見エルカ、是レハ吾人ニ取リテ大ニ味ヒヲ持タ  
 シムルコトト思フ、實ニ名聲噴々タル將帥ハ獨リ部下ノ信頼ヲ受ケ、志氣ヲ鼓  
 舞スルニ與テ力アルノミナラス、敵ヲシテ注意ヲ倍セシメ、從ツテ志氣ヲ沮喪  
 セシムル等大ナル影響ヲ及ホスモノナルコトノ適例テアル、奈翁ノ名將ヲ以  
 テシテモ彼レ太公ト戰ヲ交エヌ前カラ此ノ如ク過度ニ注意ヲ拂フタテハナ  
 イカ、之ニ就テハ奈翁自カラモ後日ニ至ツテ自白シテオル、曰クカール (Karl) 太  
 公ハウルムゼル (Wurmser) マアルビンチ (Alvinzi) ニ比シ最モ平凡ナル庸將テア

ル、若シ予ニシテ彼レノ行動ニ對シ大ナル顧慮ヲ拂ハサリシナラハ必ス前諸  
 將ノ當時ヨリハ、以上ノ打撃ヲ與ヘ得タテアロウ、實ニ彼レノ從來ノ名聲ハ此  
 ノ大打撃ヨリ免レシメタリト、

要スルニ此事實ハ統帥上、輕々ニ看過スヘカラサル要素テアル、

三 一七九八年一七九九年埃及遠征 奈翁ハ一七九六年ノ春カラ翌一七九七年  
 ノ春迄テ全一ケ年餘ノ間、前後幾十回ノ苦戰ヲ切り抜ケ大ナル成功ヲ以テ埃軍  
 ヲ擊滅シ、空前ノ威名ヲ轟カシタ後、勇姿堂々トシテ巴理ニ凱旋シタ、サナキタニ  
 激シ易キ佛國人ハ、歡喜熱狂シテ此ノ偉人ヲ迎ヘ恰モ神ノ如クニ崇敬ノ意ヲ表  
 シタ、然レトモ彼ハ故意ニ謙遜ノ態度ヲ以テ自己ノ名聲ヲ銜フ様ナコトヲ爲サ  
 ス、成ルヘク人目ニ立タヌ様ニ心掛ケテオツタ、

其ノ親戚故舊ノ如キハ潜ニ彼ニ勸告スルニ、總裁政治ノ不評判ナルヲ指摘シ此機  
 ニ乘シテ政權ヲ掌握センコトヲ以テシタ、奈翁タルモノ豈ニ之ヲ覺知セザラン  
 ヤラアル、然シ彼ハ時未タ熟セスト思意シタ、ソコテ物々タル野心ヲ抑ヘニ抑ヘ  
 テ陽ニ閑雲野鶴、功成リ名遂ケタルカノ如ク裝ヒ、故意ニ紅塵萬丈ノ都ヲ去ツテ

郊外閑静ノ地ニ質素ナル居宅ヲ構ヘタ、然シ奈翁ノ性質トシテ凡テ事ヲ焦ツタ  
 コトハ何時モ免レナイ、櫻井鷗村ノ著書中ニ記サレテオル如ク「コルシカテハ急  
 リ過キタ爲、穩健ナバオリト衝突シテ失敗シタシ、本國テ名ヲ成サウト急ツテロ  
 ベスビエール黨ニ結ンタ爲ニ、危ク首ヲ斬ラレサウニナツタシ、軍隊ノ司令官ニ  
 ナリタイト急ツタタメ、バラノ係蹄ニカカツテ、オ下リノ女ヲ宛テカワレ不幸  
 ナ結婚ヲシタ、後ニハ急ツテエルバ島ヲ逃ケ出シタタメ僅カ百日天下テ、ワーテ  
 ルローノ大敗ヲ招イタ」ノテアル實ニ彼ハ到底永ク閑地ニ在ツテ悠悠々自適シ得  
 ルカ如キ人テナカツタ、

奈翁ハ一日慨然トシテ言フタ、予ハ最早爲スヘキ事業ヲ此地ニ有セヌ、例令、予ノ  
 名聲盛ナルモノカアツテモ、衆人ヲシテ皆ナ予ニ服從セシムルコトハ出來マイ  
 故ニ只タ荏苒トシテ徒ラニ歲月ヲ空費シタナラハ、一切ノ事皆廢壞シ去ルテア  
 ロウ、歐洲ハ狭小テアル、六億ノ人口ヲ有スル亞細亞ノ大陸トハ比較ニナラナイ、  
 故ニ予ハ此地ニ赴キ大ナル榮譽ヲ持チ來ラネハナラヌ」ト傲語シタ、殊ニ彼ハ英  
 國ヲ膺懲スルノ一法トシテ埃及遠征ノ計畫ヲ立テ之ヲ政府ニ具申シタ、蓋シ彼

ハ先ツ埃及ヲ征服シ英國本土ト印度トノ連絡ヲ斷絶シ次テ地中海ノ制海權ヲ  
 モ獲得シテ印度遠征ノ基礎ヲ固メントスルニ在ツタノテアル、目下ノ歐洲戰亂  
 ニ於ケル獨ノカイゼルカ今ヤ巴爾幹ヲ制壓シ、逐次埃及方面ニ手ヲ伸ハサント  
 シツツアルノモ奈翁ノ考ヘト同一テアロウ、  
 奈翁ヨリ獻策ヲ受ケタル佛國總裁ハ心中其ノ危險極マル計畫ニ不賛成テアツ  
 タ然シ自己ノ位置ニ不安ヲ感シツツアル總裁等ハ奈翁ヲ一時タリトモ本國ヨ  
 リ去ラシムルハ自己ノ安全ヲ保チ得ル妙案テアルト考ヘタ、ソコテ總裁等ハ此  
 ノ意味ニ於テ大ニ賛意ヲ表シ奈翁ノ計畫ヲ是認シタ、或人奈翁ニ問フテ曰ク「御  
 身ハ何故ニ斯ノ如キ冒險極マルコトヲ實行シヨウト思フノカ」答ニ曰ク「佛國ハ  
 尙ホヨリ善良ナル政府ヲ要スルモ、未タ其ノ時機ニ達シナイ」ト以テ彼カ一面ニ  
 於テハ此焦心ノ情ヲ晴ラサントスルノ一道樂トモ思ヒ得ラレルテハナイカ、  
 奈翁ハ五月十九日精兵三萬五千ヲ四百隻ノ船ニ乗セテ、僅カニ二十七隻ノ軍艦  
 カラ護衛セラレ、名聲噴々タル海上ノ軍神ネルソンノ繩張り内ヲ敢テ航過スヘ  
 ク佛國南岸ノツローン(Toulon)港ヲ出帆シタ、此行ニハ科學上カラ埃及及ヒ東方

諸國ノ文明ヲ研究セシムル目的ヲ百餘名ノ專門學者ヲモ伴フタ、

奈翁ハ途中マルタ(Malta)島ニ上陸シテ其ノ要塞ヲ攻略シタ後、若干ノ兵ヲ此島ニ殘置シナイル(Mi)ノ河口附近ニ在ルアレキサンドリア(Alexandria)ニ向ヒ、七月一日ヲ以テ無事同地ニ到着スルヤ直ニ攻撃ヲ以テ同地ヲ占領シタ、時恰モ夏季テアル、炎熱ハ燒クカ如ク沙漠タル平野ニハ殆ント水ヲ得ルニ途ナク、軍ヲ遣ルニハ甚タシク困難ヲ極メ、兵卒ノ志氣ハ衰ヘル、諸勇將ニ至ルマテ、其ノ苦痛ヲ訴フルニ至ツタ、然レトモ奈翁ハ決シテ屈セル色ヲ表ハサス、率先躬行シテ部下ヲ激勵シ辛ウシテ全軍ノ結合ヲ維持シタ、埃及ノ會長マメルークノ率ユル騎兵團ハ慄慄ニシテ善ク戦ツタカ奈翁ハ之レト數次ノ激戦ヲ交エ、殊ニ七月中旬ピラミットノ下ニ於ケル大戦ニ於テ殆ント根本的ニマメルークヲ擊攘シ、二十五日ニハ首府カイロ(Kairo)ニ進入スルコトカ出來タ、

ネルソン大提督ハ、初メ佛ノ運送船團ヲ追躡シタカ不幸ニシテ發見スルコトカ出來ス、一度ハ先キ廻ハリヲシテアレキサンドリア(Alexandria)ニ來テ見タカ、佛軍ノ隻影ヲモ見ナカツタ依テ再ヒ伊太利方面ニ引キ返シタ爲メ佛軍ヲシテ其間ニ無事ニ上陸セシムルノ猶豫ヲ與ヘタ、然シ二度目ニアレキサンドリア(Alexandria)ニ來著スルヤ、佛ノ小艦隊ヲ發見シ七月末之ヲ港内ニ打チテ全滅セシメタ、奈翁ハ之ニ依ツテ全然其ノ退路ヲ絶タレタ、然シ剛毅不屈ノ奈翁ハ益、其ノ決心ヲ堅固ナラシメ亞歷山大王ノ故智ニ倣ヒシリア方面ヲ征服スルニ決シ、先ツ將卒ニ銳氣ヲ養ハシムヘク、休息ヲ爲サシメ翌一七九九年二月一萬六千ノ兵ヲ提ケテ遠ク征途ニ上リアークル(Acre)附近迄達シタ、然シアークル(Acre)ノ守將シドニスミスハ剛勇ニシテ巧ミニ戰ヲ交エタ爲、佛軍ハ二ヶ月ヲ要シテ拔ク能ハス、加之惡疫ニ斃ルルモノモ甚シク増加シタ、依テ奈翁モ已ムヲ得ス軍ヲ收メテカイロ(Kairo)ニ歸ツタ、

然ルニ奈翁ノ埃及遠征中、佛國ノ政界ニ大ナル變動カ惹起セラレタ、總裁ノ權威ハ頓ニ衰ヘ、政令ハ行ハレサルニ至ツタ、外寇ハ四圍ニ起リ、北部伊太利ニ於テ奈翁ノ扶植シタル佛軍ノ勢力ハ再ヒ埃露連合軍ノ爲メニ擊破セラレテ、主客全ク顛倒スルニ至リ、政府批難ノ聲ハ日ト共ニ高マツタ、

奈翁ハ埃及ニ於テハ思フ様ニ發展セス、艦隊ノ全滅ニ依リテ本國トノ連絡モ絶

エテオルト言フ、極メテ不愉快ナル此苦境ニ在リテ本國ニ於ケル政變ヲ耳ニシタ、彼ハ時コソ來タレト欣ンタ、埃及ノ不遇ノ如キハ固ヨリ眼中ニナクナツタ、ソコテ部下ハ全部埃及ニ殘置シ此年九月僅少ノ從者ノミヲ連レテ、陰カニ船ニ乘リ、再ヒ危險ナル海上ヲ佛國ヘト向ツタ、途中其ノ故郷タルコルシカニ上陸シテ大ニ島民ヨリ歡迎ヲ受ケ、更ニ大望ヲ抱イテツローン (Toulon) ニ上陸シ、國民ノ大歡呼ヲ受ケツツ、巴理ニ還リ、直ニ佛國政府ヲ倒シテ所謂三頭政治ヲ創設シ、自カラ其第一統領ト爲リ、今ヤ一舉シテ天下ノ大權ヲ掌握シタ、彼ノ聲望ハ斯クシテ愈、一世ヲ歴スルニ至ツタノテアル、

奈翁ノ埃及遠征ハ誠ニ痛快ニシテ青年ノ血ヲ湧カシムルモノカアル、吾人モ其ノ壯舉ニハ驚クノ外ハナイ、然シ茲ニ大ニ考慮ヲ持タネハナラヌ、奈翁カ斯克迄ノ大冒險否ナ吾人ヨリ見レハ暴舉ト思ハル事ヲ敢行シタルニ拘ハラヌ不思議ニモ海上ヲ無難ニ往來シタ、佛人ハ之ヲ神ノ業ト爲シ、奈翁ヲ以テ所謂「活キ神様」ト爲シタ、然シ若シ彼力途中テネルンノ一撃ヲ受ケタナラハ後世、此ノ動作ニ對スル批難ハ甚シカロウト思フ、苟モ國ノ大事ヲ決スルニハ慎

重熟慮スルヲ要スルハ勿論テアル、故ニ四圍ノ事情ニシテ已ムヲ得サル場合ニハ如何ナル冒險テモ、如何ナル難關テモ全然國運ヲ賭シテ起タネハナラヌカ、奈翁ノ埃及遠征ノ如キハ敢テ必シモ斯ク冒險ヲ爲サネハナラヌ場合テナイ、一面カラ見レハ奈翁ノ鬱憤ヲ晴ラス爲メニ行ハレタノテアル、故ニ吾人トシテノ著眼スヘキ所ハ此壯舉ヲ企テタコトヲ詮索スルノテハナク、寧ロ彼カ炎熱ノ地ニ惡戰苦闘ヲ爲シ奈翁ノ偉大ニ依リテ部下ノ解體ヲ防キ、斯ノ如キ戰爭ヲ遂行シ得タ點ニ在ラネハナラヌ、

三 一八〇〇年伊太利戰役アルプス、踰越マレン

ゴ會戰(一八〇〇年伊太利戰役一覽圖參照)

一八〇〇年ニ於ケル奈翁戰役ハ有名ナルアルプスノ嶮ヲ踏破シ、埃軍ノ意表ニ出テタル頗ル痛快ナル事實テアル又タ教訓モ甚タ多イ、故ニ稍、詳細ニ亘リテ述ヘヨウト思フ、讀者諸君ハ申ス迄モナイカ、其ノ小説的偉跡ニ快ヲ叫フコトナク、其ノ眞味ヲ窺フコトニ努メラレンコトヲ望ム、

奈翁ハ國民ノ衆望ヲ負フテ第一統領ト爲リ、文武ノ實權ヲ一身ニ專有シ宛然王者ノ威權ヲ備フルニ至ツタ、然シ奈翁自身トシテハ埃及遠征モシリニアニ失敗シ、伊太利モ再ヒ埃國ノ勢力下ニ奪還セラレ、其ノ建設シタ共和國モ瓦解セラレタノテアルカラ彼レノ武將タル面目ハ大ニ傷ツケラレテオル譯テアル、故ニ此際其ノ權力ヲ振り廻ハシテ大々的ニ武威ヲ輝カサントスルノ意思ハ張リツメテオツタノハ當然テアル然ルニ當時民意ハ漸ク連年ノ戰ニ倦ミ平和ヲ希望スルノ色カ見エテオツタ、人心ノ收攬ニ妙ヲ得タル奈翁ハ、更ニ民望ヲ高ムルヘク、直ニ平和ノ施設ニ

着眼シ、國富ヲ増進スルニ努メント欲シ、先ツ列國ニ向ツテ媾和ヲ申込シテア  
ル、其ノ奧國皇帝ニ贈ツタ書ノ要旨ハ次ノ如クテアツタ、

十八ヶ月ノ不在ノ後予ハ歐羅巴ニ歸還スルヤ、圖ラサリキ再ヒ貴邦ト佛國トノ  
干戈相交エラレラントハ、

佛國國民ハ今ヤ予ヲ召喚シテ第一統領ノ職ヲ與ヘタリ、然レトモ予ハ敢テ虛榮  
ニ憧憬スルモノニアラス、予ノ最大ノ希望ハ流血ノ慘ヲ未然ニ防遏セントスル  
ニ在リ、陛下ノ威信ハ予ヲシテ陛下赤心ノ命スル所ニ從ハシムルヲ疑ハス果シ  
テ然ラハ兩國國民ノ幸福、利益ハ其ノ増進ヲ見ルコト期シテ待ツヘキナリ、

奧國政府ハ如何ニ答ヘタテアロウカ、奧國ハ敢テ此提議ヲ斷然拒絕ハシナカツタ  
カ伊太利ニ於ケル豐饒ナル土地ヲ手放スニ忍ヒス、萬事現狀維持ノ條件ヲ基礎ト  
シテ談判ヲ繼續センコトヲ以テシタ、爾後、數回ノ交渉ヲ重ネタケレトモ、談判ハ終  
ニ不調ニ歸シタ、

英國皇帝ニ對シテモ亦タ、次ノ如ク言ヒ送ツタ、

國民ノ意ニ從ヒ第一統領ノ職ニ就キタル予ハ、先ツ親シク皇帝陛下ニ對シ予ノ

志ノアル所ヲ通知スルノ光榮ヲ有ス

悲惨ナル戰爭ノ勃發シテヨリ今ヤ八星霜ヲ經過セリ、吾人ハ尙ホ此ノ忌ムヘキ  
鬭爭ヲ繼續セサルヘカラサルカ、國家ノ安寧ト獨立トヲ維持センカ爲メニ、互ニ  
干戈ヲ交フルハ已ムヲ得サルノ事ニ屬スト雖、唯タ戰爭ノ虛榮ノ爲メ國民ノ安  
寧ト幸福トヲ鬭爭ノ犠牲ニ供スルハ極メテ憂フヘキナリ、吾人ハ如何ニカシテ  
戰爭ヲ停止シ媾和親善ノ方法ヲ發見セント欲ス、夫レ平和ハ最大ノ名譽ニシテ  
又タ最大ノ恩惠ナリ、然ルニ何カ故ニ列強ハ之ヲ理解セサルカ、是レ予カ陛下ノ  
深慮ニ訴フル所以ナリ、佛英兩國ハ各其ノ兵力ヲ濫用セハ尙ホ久シク戰爭ヲ繼  
續スルヲ得ン、然レトモ是レ即チ全世界ノ不幸ナリ、故ニ予ハ此ノ戰爭ヲ終ルト  
終ラサルトハ實ニ幸、不幸ノ岐ルル所ナルヲ斷言ス、

英國ニハ奈翁ニ絶對ニ反對ナルピットカ宰相テアツタ、彼ハ直ニ回答シテ曰ク、  
歐洲ノ平和ヲ破レル責任ハ皆ナ佛國ニ在リ、奈翁ノ編成セル憲法及ヒ其ノ政略  
ハ歐洲ニ害毒ヲ流スモノナリ、依テ英國政府ハ佛國ニブルボン王朝ノ復興ヲ見  
ルニアラスンハ斷シテ其ノ提議ニ應スル能ハス、



ト傲慢不遜ナ口吻ヲ以テシタ、奈翁ハ此答ニ怒ツタカ或ハ欣ンタカ、ソレハ後ノ經過ヲ了解セラレルテアロウ、

奈翁ハ英國ヨリ媾和ノ拒絕ニ會スルヤ、反ツテ時到レリト爲シ、此ノ機ヲ利用シテ更ニ武威ヲ宣揚セント企テタ、其ノ際國民ニ對シテ次ノ如ク告ケタ、

我カ親愛ナル佛國人ヨ、汝等ハ必ス平和ヲ希望スルナラン、政府モ亦タ之ヲ望ムコト汝等ヨリモ更ニ切ナルモノアリ、故ニ媾和ノ爲メ極力努メタルニ拘ハラス、英國ハ之ヲ拒絕セルノミナラス、其ノ憎ムヘキ陰險ナル政略ノ機密既ニ暴露セリ、其ノ機密トハ何ソヤ、即チ佛國ヲ破壊シ其ノ海軍及ヒ諸港ヲ破碎シ以テ歐洲ノ地圖ヨリ佛國ヲ削除セントシ然ラサレハ佛國ヲ小弱國ト爲シ而シテ獨リ歐洲諸國ニ於ケル通商ノ利ヲ壟斷シ以テ自國ヲ富強ナラシメント欲ス、之カ爲メ彼レハ莫大ノ金穀ヲ散シ、他ノ諸國ヲ買收シ以テ佛國ノ敵タラシメント煽動ニ汲々タリ英國ヲ屈セシムルハ實ニ汝等ノ力ニ在リ須ラク金穀武器ヲ貯ヘ以テ國家ノ擁護ニ努メサルヘカラス、今ヤ汝等ノ干戈ヲ起スハ黨與ノ爲メニアラス又タ虛主ノ爲メニアラスシテ實ニ其ノ最モ愛スヘキ故國ノ獨立ヲ保護センカ

爲メナリ、佛國ノ名譽ヲ發揮センカ爲メナリ、

ト旨イ哉言ヤ、佛國人民ハ此告諭ヲ讀ンテ大ニ振ヒ何レモ國難ニ赴カントスルニ至ツタ、斯ク英佛ノ反目モ百年後ニ於ケル今日ニ於テハ互ニ相協力シ國ヲ擧ケテ獨國ニ對抗シツツアルニアラスヤ、而カモ英國ノ眞意ハ百年前ト同様ニ海上ノ全權ヲ握ルニ在リ、佛、露、將タ日本迄テ其ノ英國ノ大目的成就ニ助力シツツアルカノ感カスルノテアル、國際關係ノ變轉ハ恰モ秋ノ空ト同様テアル今日ノ友、明日ノ敵タラサルヲ保シ難シ、吾人ハ決シテ他ニ依頼スルカ如キ心ヲ生シテハナラス、

一八〇〇年初期、佛、埃兩軍ノ大勢、伊太利方面ニ於テハ佛ノマッセナ(Massena)將軍ノ指揮スル約三萬ノ兵カ埃軍カラ追ヒ込マレテ伊太利ノ大部ヲ奪還セラレ僅カニ海岸ニ沿フタルゲヌア(Genua)サボナ(Savona)テンダ(Tenda)ノ線ニ退縮シテ手モ足モ出テサル窮境ニ陥ツテオル、之ニ對スル埃軍ハ約八萬ノ大勢ヲ以テアレ、サンドリア(Alessandria)附近一帶ノ廣地域ニ冬營ヲ爲シ、尙ホ別ニ二萬ノ兵ハ伊太利ノ各地ニ分離シテ警備ニ任シメラス、(Melas)將軍ハ之カ總指揮官テアル、又タ獨逸方面ノ戰場ニ於テハ佛ノモロー(Moreau)將軍カ十二萬ノ兵ヲ率ヒテライン(Rhein)

河左岸ニ陣シ、埃將クライ(Mary)ノ指揮スル略同等ノ埃軍ト河ヲ隔テテ相對シテ  
オツタ、

當時伊太利軍ハ敗北ノ結果志氣沮喪シ軍紀モ亦タ甚タ紊亂シテオツタ、奈翁ハ此  
ノ頽勢ヲ救フ爲メニ勇將マッセン(Massena)ヲ此ノ指揮官ニ選ンタノテアル、然ルニ  
マッセン(Massena)ノ任地ニ到着シタ頃ニハ、レモアン(Lemoine)師團ハ全部逃亡シ、諸  
將官モ多ク其ノ隊ヨリ去ツテオツタ、其慘狀ハマッセン(Massena)カ陸軍大臣ヘノ報  
告文ヲ見テモ知ルコトカ出來ル、

予ハ多クノ幹部ヲ有スルモ軍隊ハ殆トナシ僅少ノ軍隊ハアレトモ戦闘ニ耐ユ  
ヘキ兵卒ハ殆ント有セス、而カモ此ノ僅少ノ兵卒スラモ給養スルヲ得ス、軍ノ現  
員ハ逃亡、疾病ノ爲メ一日ト減少シツツアリ、各兵卒ハ殆ント著ルニ衣ナク靴  
ヲ穿タス、饑渴ニ迫リテ志氣全ク沮喪シアリ速ニ本國ヨリ人、馬、糧食、資金ヲ送附  
セラレンコトヲ望ム、然ラサレハ軍ハ日ナラスシテ全滅スルナラン、

然レトモマッセン(Massena)將軍ハ著任後、銳意、努力シテ非凡ノ手腕ヲ現ハシ果斷以  
テ事ヲ處シ大ニ改良ノ實ヲ舉ケタ、即チ諸指揮官ノ交迭ヲ斷行シ軍隊ノ志氣ヲ振

起セシメ或ハ護國兵ヲ編成シテ騒亂ヲ鎮定シ、槍掠船隊ヲ潜航セシメテ商船ヲ捕  
獲シ以テ糧秣ヲ補給シ收支決算ヲ監督スル等其ノ努力ハ非常ナモノテアツタ、  
奈翁ハ新タニ大軍ヲ編成スルノ必要ヲ感シ此年一月以來大ニ豫備軍ノ徵集ヲ開  
始シタ、然シ此ノ豫備軍ノ徵集ニ際シテハ敵ヲ欺ク爲メ、故意ニ其ノ編成地ヲ佛國  
南部ニ於ケルディジョン(Dijon)ニ定メテ置イタカ、其實ハ陰ニ全國各地ニ亘リテ徵  
集セシメ、反問ヲ放ツテ、言ハシメテ曰ク、「佛國ハ大ニ豫備軍ヲ編成スルト吹聴シテ  
オルカ、其ノ實ハ極メテ微弱ナモノニ過キナイ、現ニディジョン(Dijon)ニハ殆ント集  
合部隊ヲ見ナイ」ト、埃國ノ間諜モ之ヲ聞イテ成ル程ト思ヒ、誤ツタ報告ヲ本國ニ齎  
ラスニ至ツタ、埃國政府モ此ノ誤報ニ依リ、佛軍ヲ以テ爲スナキモノト判斷シ、大ニ  
樂觀シテオツタ、然ルニ奈翁ハ、着々トシテ戦備ヲ整ヘ、次ノ如キ作戰大方針ヲ策定  
セントシタ、

判決 一部ヲ以テ伊太利方面ニ作戰セシメ主力ハ獨逸方面ヨリ直ニ埃都ニ  
向ヒ攻勢ヲ取ラントス、

理由 伊太利ニ於ケル勝敗ハ、獨逸方面ニ比シ極メテ小ナル影響ヲ及ホスノ

ミ、故ニ若シライン(Rhein)獨逸方面河畔ニ於テ失敗セハ、例令伊太利方面ニ於テ勝利ヲ得ルモ之ヲ償フ能ハス、却テ埃軍ハ直接巴里ニ向ヒテ突進シ得ルノ利アリ、之ニ反シテ獨逸方面ニ於テ勝利ヲ得ハ我ハ直路維納ヲ脅威スルヲ得ヘク、此際伊太利方面ニ於テ失敗スルモグヌア(Quana)方面ヲ喪失スルカ、或ハ稀ニ西方ツーロン(Toulon)ヲ攻圍セラルルニ過キササルヘシ而カモ之ニ對シテハ獨逸方面作戰軍ノ一部ヲシテ瑞西國ヲ南下シポー(Po)河谷ニ進入セシムルトキハ敵ノ行動ヲ扼止スルヲ得ヘシ

奈翁ノ判決ハ地形ノ觀察上、至當テアルコトハ言フ迄テモナイ、然ルニ實際ハ此ノ判決通りニ行ハナカツタ、却テ全ク反對ナ遣リ方ヲ爲シタノテアル、即チ奈翁ハ初メ以上ノ判決ノ通り、モロー(Moreau)軍ニ新ニ徵募シタ豫備軍ヲ合シ親カラ之ヲ指揮シテ獨逸方面ニ突進シヨウト思フタカ、モロー(Moreau)ノ勢力ハ今直ニ奈翁ノ直下ニ置クコトカ出來ナイ、然シモロー(Moreau)ニ總指揮權ヲ與フルコトハ奈翁ノ到底忍ヒ能ハサル所テアル、奈翁モ屢、人ヲ遣リテモロー(Moreau)ニ説ク所カア

ツタカ、意見カ合ハナイ、焦心セル奈翁ハ茲ニ斷然初志ヲ離シ、自カラ認メテ不利ナリトスル伊太利方面ニ豫備軍ヲ使用シ、自己ノ力量ニ信賴シテ回天動地ノ壯舉ヲ遂行スルニ決シタ、

埃將メラス(Melas)ハ冬營中ニ成ル可ク速ニ佛ノ殘骸ヲ最後ノ陣地カラ擊攘センコトヲ企圖シタ、其ノ參謀長ツァッハ(Zach)ハ陰ニ計略ヲ廻ラシ、サボナ(Savona)要塞司令官アサレト(Assaretto)ヲ誘ヒテ其ノ要塞ヲ埃軍ニ引キ渡スノ密約ヲ結ヒ、二月中頃ヲ以テ之ヲ決行スルコトト爲ツタ、然ルニツァッハ(Zach)ハ偶、病ニ罹リテ轉地シテオール間ニ、反對論者タルラデツキ(Radeski)大佐ハ此ノ機ニ乘シテメラス(Melas)ニ説テ曰ク、サボナ(Savona)要塞司令官ノ内應ハ未タ輕々ニ信用ハ出來ナイ、殊ニ天候ハ此頃甚タ惡ルク此大降雪テハ軍隊ノ行動ハ意ノ如クナラナイ、若カス、軍隊ヲ一應冬營ニ歸休セシメ、更ニ其ノ眞偽ヲ確メ、天候ノ恢復ヲ待ツテ事ヲ處シテモ晚クナイト、斯ク上申サレタメラス(Melas)ハ之ニモ理由カアルト思ヒ其ノ言ノ通りニ、軍隊ノ行動ヲ中止シテ冬營ニ歸還セシメタ、ツァッハ(Zach)ハ之ノ聞イテ大ニ驚キ馳セ歸ツテ復タメラス(Melas)ニ説イタカ「屢、命令ヲ變更スルノ不可」ナル理由ノ

下ニ採用セラレス、要塞ノ引渡モ立チ消エト爲ツタ、此ノ要塞司令官ハ後チ市民ノ密告ニ依リテ逮捕セラレタカ、途中テ逃亡シテシマツタ、

豫備軍ノアルペン(Alpen)(或ハアルプス)踰越アルペン山脈ヲ超越スルニハ概ネ四條ノ山路カアル、之ヲ東方カラ名稱ヲ舉ケルト、サン・ゴットハルド(St. Gothard)峠、其ノ西南ニシムプロン(Simplon)峠、其ノ西南ニサン・ベルンハルド(St. Bernhard)峠、最西南ニ在ルノカモンテ・セニス(M. Cenis)峠ヲアル、豫備軍司令官ベルチエ(Berthier)ノ偵察シタ所ニ依レハサン・ベルンハルド(St. Bernhard)及ヒサン・ゴットハルド(St. Gothard)峠ハ橋ヲ通スルモ他ハ更ニ不良ナリトノコトテアツタカ、流石ノ奈翁モ此ノ通路ノ選定ニハ大ニ苦慮シタ模様テアル、雪中ニ此大山脈ヲ數萬ノ軍ヲ以テ、而カモ大敵ヲ前ニ置イテ踏破シヨウトスルノテアルカラ、周到ナル偵察ト計畫トカ必要テアツタノハ勿論テアル、

四月下旬ニ入ツテ奈翁ノ決心カ定マツタ、其ノ豫備軍司令官ベルチエ(Berthier)ニ與ヘタ書中ニ奈翁ノ意圖カ現ハレテオル、其ノ要旨ハ次ノ通りテアル、

豫備軍ハ主力ヲ以テサン・ベルンハルド(St. Bernhard)ヲ通過スルヲ要ス、若シサン

ゴットハルド(St. Gothard)ヲ經由セント欲セハ獨逸方面ニ作戰スヘキモロー(Morcan)軍ノ勝利ヲ得タル後ニアラサレハ、軍ノ背後ハ甚タ危険ナリ、軍ノアルペン(Alpen)通過後、マイランド(Maiand)(或ハミラン Milan)(北部伊太利ノ中心地)ニ赴クヘキカ或ハゲヌア(Genua)ニ籠城シアルマッセナ(Massena)ヲ救援スヘキカハ時ノ情況ニ關ス是レマッセナ(Massena)ハ僅ニ三十日ノ糧秣ヲ有スルニ過キササルヲ以テ之カ救援ハ必シモ時機ニ合スルヤ保シ難ケレハナリ、

奈翁ハ初メ其ノ部將ヲシテアルペン(Alpen)通過ノ爲メ偵察ヲ命シタ、ヤカテ、此ノ偵察者ノ一人カ復命スルニ頗ル詳細ヲ極メタ、奈翁ハ、暫ク忍耐シテ之ヲ傾聽シテオツタカ、遂ニ一聲大喝シテ其判決ノ何レニ在ルヤヲ詰責的ニ問フタ、ソコテ偵察者ハ「然リ、然シナカラ辛ウシテ通過スルヲ得ント答ヘタ、奈翁即チ曰ク、好シ、然ラハ軍ヲ遣ルヘシ」ト決定ヲ與ヘタ、又タ他ノ偵察者ハ其ノ通過ノ不可能ナルヲ報告シタ、奈翁ハ憤然トシテ斯ク言フタ「不可能ナル文字ハ佛國ノ字書ニナイ」ト實ニ奈翁ノ性質ハ此ノ間ニ表ハレテオルテハナイカ、

奈翁ハ愈々進路ヲサン・ベルンハルド(St. Bernhard)峠ニ決スルヤ、概略次ノ如ク部署ヲ

定メタ、

モロー (Moreau) ノ率ユル軍ハ四月十日ヨリ同月二十日ニ至ル間ニ於テライン (Rhein) 河ヲ渡リ當面ノ埃軍ヲ東方レツヒ (Lech) 河 (Rhein 河ヨリ最近二百吉米ヲ隔ツ) 以東ニ擊退シ、瑞西ヨリ伊太利ニ進入スル豫備軍ノ左側背ヲ安全ナラシム、尙ホ其ノ一部ヲ瑞西ニ殘置シサン、ゴットハルド (St. Gotthard) 峠方面ヨリ南下シテ伊太利方面ノ作戰ニ協力セシム、

此ノ一部ハチユーリヒ (Zürich) 瑞西國內ニテサン、ゴットハルド (St. Gotthard) 峠北方ニ在リヨリ南下スルモノニシテモンセイ (Moncey) ノ率ユル一師團 (一萬五千人) ナリ

埃軍ニ於テハ次ノ如キ作戰計畫ヲ策定シタ、

伊太利方面ニ優勢ヲ占メツツアルメラス (Melas) 軍ヲシテ當面ノ弱敵ヲ擊攘シテ佛國內ニ進入セシメ、又タ英軍ハ此ノ間ニ於テ佛國西海岸ニ上陸シテ共ニ其ノ南部及ヒ西部ヲ擾亂シ、此ノ機ニ乘シテクライ (Kray) 軍 Moreau 軍ニ相對シアルモノヲシテライン (Rhein) 河方面カラ佛國ノ中心ニ向ツテ突進セシム、

埃軍ノ計畫ニ依レハ殆ント其ノ兵力ヲ二等分シテ、何レカ主作戰ヲ爲スノテアルカ不明テアル、要スルニ兵力使用ノ原則ニ違反シテオル、殊ニ奈翁ノ詭計ニ誤マラレテ佛ノ豫備軍ハ單ニ聲ノミ大ナルモノト妄信シ之ニ顧慮ヲ置カナカッタカラ、益、其ノ危機ヲ増大シタノテアル、

佛ノ豫備軍ハ奈翁ノ命令ニ依リテ陸續トシテゲンフ (Genève) 湖畔 (附圖西北隅) ニ集中中テアル然ルニ獨逸方面ニ於ケルモロー (Moreau) 軍ハ四月中旬ニナツテモ豫定ニ反シテ攻勢動作ヲ取ラナイ依然トシテライン (Rhein) 河畔ニ停止シテオツタ、奈翁ハモロー (Moreau) ノ行動抄々シカラサルニ焦心シ、屢、使ヲ邊シテ其ノ行動ノ速カラランコトヲ督促シ且ツ曰ク「實ニモロー (Moreau) 軍行動ノ遲滯ハ吾ニ豫備軍ノ側背ヲ甚シク危険ナラシムルノミナラス、延テ佛國ノ安危ニ係ハル」所以ヲ切言シタ、ソコテモロー (Moreau) 軍モ愈、四月下旬ニ入ツテカラ其ノ牛歩ヲ開始シタ、所ロカ案スルヨリ産ムカ安イノ諺ノ如ク埃ノクライ (Kray) 軍ハ眞面目ノ戰鬪ヲ交ユルコトナク、遠ク東方ウルム (Ulm) (Rhein 河ノ東方百五十吉米 Dnau 河畔ニ在リ) 方向ニ退却シ、モロー (Moreau) 軍ハ之ヲ追撃シタ、

豫備軍モ集中カ續行セラレ、五月十日ニハ已ニ其ノ先頭ヲ以テラウザンヌ(Lausanne)(Genf湖ノ北端)ニ達シタ、於是奈翁ハ豫備軍ノ區分ヲ次ノ如ク決定シタ、

前衛 ランヌ(Lannes)

八千人

ジュエーム(Duhense)軍團(一師團)

一萬五千人

ビクトル(Victor)軍團(三師團)

一萬五千人

ミュラー(murat)騎兵團

四千人

豫備軍合計

四萬二千人

モンセイ(Moncey)師團

一萬五千人

チユロウ(Turreau)軍

五千人

モンセイ(Moncey)師團ハモロー(Moreau)軍ノ一部ニシテ瑞西ヨリ南下ス、

チユロウ(Turreau)軍ハアルペン(Alpen)ノ諸山頸ヲ守備セシモノニシテモンセイ

ニス(Mont.Cenis)(最西南方ノ峠)方面ヨリ伊太利ニ進入スヘク部署セラレタモノ

ノテアル、

豫備軍ハ愈々前進ヲ開始スルニ當ツテ、其ノビクトール(Victor)軍團中ノカブラン(Chabran)師團(五千人)ヲ小サンベルンハルド(Kl. St. Bernhard)(南方)ヲ經テアオスタ(Aosta)(St. Bernhard峠南方)ニ於テ主力ニ合スル如ク分進セシメタ、

前衛タルランヌ(Lannes)將軍ノ率ユル八千ノ一團ハ數梯團ト爲ツテゲンフ(Genf)湖畔ヲ出發シタカ、其ノ行軍ノ困難ハ名狀スヘカラサル状態テアツタ、已ニ世人一般ニ知レルカ如クアルペン(Alpen)一帯ノ山地ハ頗ル峻峻テ、佛軍主力ノ通過シタサンベルンハルド(St. Bernhard)峠道ノ如キハ海拔八千尺ノ高地テ、所謂峻岩絶壁ヲ爲シ、夏時尚ホ雪ヲ絶タサル寒帯テアツテ、是迄テ人馬ノ通過ハ殆ント不可能トセラレテオツタ、故ニ如何ニ奈翁ノ剛毅テモ、其ノ困難危險ノ有様ハ思ヒ遣ラルル次第テアル、火炮ノ如キハ木材ヲ穿チテ其ノ間ニ砲身ヲ収メ以テ無理遣リニ人力ヲ以テ絶壁ヲ引キヅリ廻ハシ、絶大ノ困難ヲ以テ運搬シタト云フコトテアル話ハ餘談ニ入ルカ、アルペン通過ニ關スル或ル人ノ著書ノ一節ヲ紹介シテ、諸君ノ腦裡ニ一服ノ休憩ヲ與ヘヨウト思フ、

奈翁ハ全軍ノ殿リトナリ、例ノ灰色ノ外套ニクルマリ、脚ノ丈夫ナ驟馬ニ跨ツテ

我ヲ信スレハ必ス勝ツトイフ態度ヲ部下ヲ屬マシツツ押シ進ンタ、奈翁ハ己レ陣中ニ在ルナラハ、戰フテ必ス勝ツトノ信仰ヲ兵士ニ與ヘタ、コノ信仰コソ、奈翁ヲシテ常勝將軍タラシムルノ魔力トナツタノテアル、彼カアルプスヲ越ユルヤ其ノ馬ノ口綱ヲ取ツタノハアルプス山中ニ住ム若イ農夫テアツタカ、ヤカテハ天下ニ覇タラントノ野心ニ燃エテイル馬上ノ人ニ向ヒ、途々、自分ノ小サナ希望ヲ洩ラシタ、自分ハアルプステ少シノ地面ヲ得テ幾匹カノ羊ヲ飼ヒ、食ヒ扶持ヲ取ルタケノ畑ヲ作り、惚レタ女ト結婚シテ一生樂シク暮ラシタイモノタ、如何ニシテ敵ヲ破ルヘキカノ策略ニ心ヲ借メテイタ奈翁モ、此ノ山賊ノ可憐ナ望、ミニ耳ヲ借ササルヲ得ナイテ、之ニ土地ト家トヲ買フヘキ金ヲ與ヘタ、奈翁ノ帝國カ土崩瓦解シタ後ニモ、コノアルプス山中ノ口取ハ第一統領カ賜物ノ家テ愛妻、愛兒ト共ニ幸福ナル月日ヲ送ツタイタ、

何ト對照カ面白ク、意味深長テハナイカ、扱テ本題ニ立テ歸ロウ、先頭タルランス(Jannes)ハ非常ナル意氣ヲ以テ小敵ヲ驅逐シツツ前進ヲ續行シタカバルド(Bard)止阻堡(St. Bernhard)峠東南五十吉米ノ前面ニ達スルヤ、茲ニ前進ニ一頓挫ヲ來タシタ

元來此ノ小要塞ハ最モ險要ナ隘路内テ、而カモ岩石ノ上ニ築カレテ、行進路ハ悉ク縱射シ得ル様ニ二十餘門ノ砲ヲモ備ヘ附ケラレテオルノテ、尋常一様ノ手段テハ到底之ヲ抜クコトハ出來ナイ、猛將ランス(Jannes)ハ今ヤ他ニ手段、カナイト覺悟シ力攻以テ之ヲ抜クヘク斷乎トシテ士卒ヲ屬マシ、盛ニ突進肉迫ヲ試ミタカ、徒ニ死屍ヲ積ムノミテ其ノ一角ヲモ占領スルコトカ出來ナカツタ、攻撃ヲ續行シテ三日間、即チ五月二十一日ニ及ンタカ、到底短時日ニ抜クヘカラサル堅塞テアルコトヲ證明スルニ過キナカツタ、奈翁ハ此ノ苦戰ノ慘狀ヲ見テ、迂回スルノ策ヲ取ルヘク百方之カ偵察ニ努力シタ結果、一ノ樵路ヲ發見シタ、此ノ路タル元ヨリ險惡テ、一列行進ヲ辛ウシテ許スニ過キナカツタ、然シ巧ミニ敵ノ目視カラ免レテ徒歩兵ト騎兵丈ケハ迂回スルコトカ出來タカ、大砲ハ如何トモシカタイ、大ニ苦心ノ結果、窮スレハ通スルノ諺ノ如ク、夜暗ニ乘シテ要塞直下ノ道路上ニ陰ニ襲ヲ布カシメ、車輪ニハ布片ヲ纏ハシメ、全然音響ヲ發セシメヌ様ニシテ、徐々敵ノ直下ヲ通過セシメタ、然ルニ砲車ノ半部カ今ヤ通過シ終ラントスル頃、突如トシテ敵ノ射撃カ開始セラレタ、一同ノ心配ハ如何テアツタロウカ、然ルニ奈翁以下各將士カ結果如何ヲ氣

遣ヒツツアル間ニ砲車ノ全部ハ無事ニ通過シ終ツタノテアル、蓋シ當時ハ真ノ暗夜テアツタノト、各將卒カ豫メ覺悟シテオツタカラ沈着以テ事ヲ處シタトニ因ツテ、僅少ナル損害ニ止メ得タコトト思ハレル、

奈翁ノ行ツタ動作ニハ何時モ冒險極マルコト計リテアルカ、是レカ不思議ニモ多クハ成功シテオル、實ニ斷シテ行ヘハ鬼神モ避クルノ一例ト爲スニ足ルト思フ、然シ吾人ハ決シテ好ンテ斯ノ如キ冒險ヲ行フヘキモノテナイ、已ムヲ得スシテ行フモノテアル、又タ之ヲ行フトシタナラハ、詳密ナル計畫カ之ニ伴ハネハナラヌコトヲ肝銘スルヲ要ス、

〔將帥トシテノ奈翁ノ著者フオン、ウワルテンブルグ(Von. Warburg)伯ハ奈翁ノアルペン(Alpen)通過ニ對スル批難者ノ說ヲ辯解シテ曰ク「奈翁ノアルペン通過準備ハ十分ナル配慮ヲ缺キ其ノ企圖ハ輕卒ニ失セリ、其ノ能クバルド(Bard)堡寨ノ爲メ全計畫ノ失敗ヲ招カサリシハ僥倖ナリ」ト批難ハ決シテ當ヲ得タルモノニアラス即チ奈翁ハ此ノ堡寨ニ依リ豫期セサル抵抗ヲ受クルニ方リ決シテ其ノ計畫達成ニ關スル自信力ヲ變動セシメタルコトナク、又タ實際ノ結果ニ微

スルモ同堡寨ノ陥落セサルニ拘ハラヌアルペン山脈ノ通過ハ十分ニ成功セルコトハ吾人ノ知ル所ナリ云々ト、

右ノウワルテンブルグノ言ヘル如ク奈翁ノ冒險的行動ノ裏面ニハ必ス細密ナル思慮ト計畫トカ伴ハレテオルノテアル、

爾後、前衛タルランス(Lannes)ノ部隊ハ敵ノ一部隊ヲ壓迫シツツ南下シ五月二十一日ニハ山脈ノ出口タルイブレア(Ivrea)ニ達シ、茲ニ全軍ヲ集合セシメタ、斯クシテ危険、至難ナリシアルペン(Alpen)ノ超越モ前後十二日間ヲ費シテ完了スルコトカ出來タ、

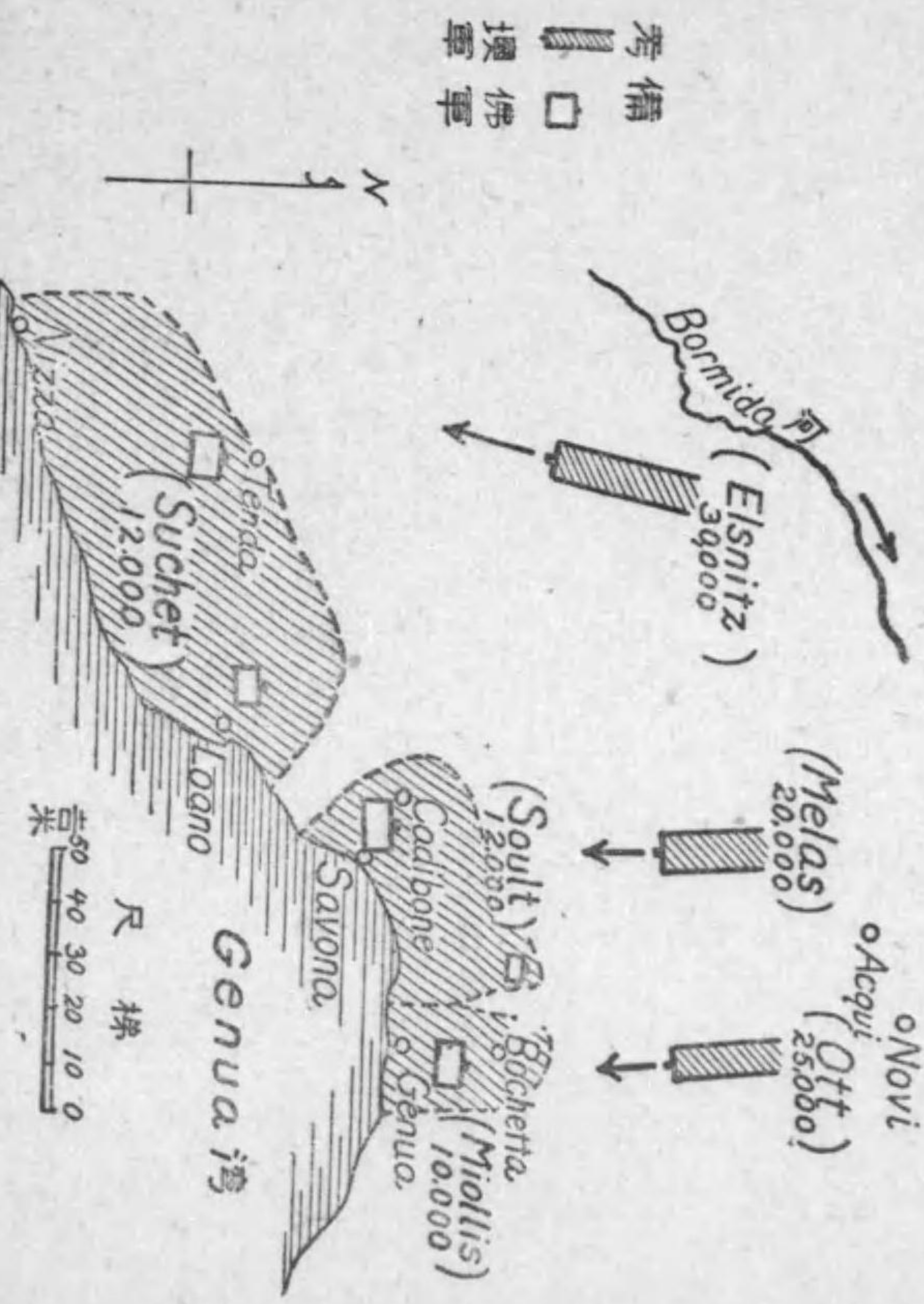
マッセナ(Massena)軍伊太利在來ノ軍方面ノ情況、四月初旬ニ於テハ概ネ次ノ状態ニ在ツタ、(左圖參照)

ミオリス(Miollis)將軍ノ率ユル約一萬ノ軍ハゲヌア(Genua)及ヒボヘッタ(Bochetta)間ニ位置シ其ノ周圍ノ地ヲ警備ス、

スール(Saul)將軍ノ率ユル一萬二千ノ軍ハサボナ(Savona)及ヒカディホン(Cadibone)附近ニ位置シゲヌア(Genua)ニ至ル間ノ沿岸及ヒ北方ニ對シテ警備ス、



四月上旬ニ於ケル佛軍マッセナ軍ノ位置



スーシエ (Suchet) 將軍ハ一萬二千ノ軍ヲ率ヒテテンダ (Tenda) 及ヒロアノ (Loano) 附近ニ位置シテニッツア (Nizza) ニ至ル間ノ沿岸及ヒテンダ (Tenda) 道方面ニ對シ北  
方ニ向ヒ警備ス、

之ニ對シ埃軍ハ三團ト爲リテ南進ヲ開始シオット (Ott) 軍(一萬五千)ハ四月六日ヲ以  
テゲヌア (Genua) ヲ直接攻圍シ得ルノ位置迄テ突進シ、メラス (Melas) エルスニッツ  
(Elsnitz) モ亦タ佛ノ前進部隊ヲ擊退シツツ前進シタ、佛ノスール (Soulé) ハメラス (Me-  
las) ト激戦ノ後、到底敵シ難キヲ自覺シサボナ (Savona) 要塞ニ一部(六百)ヲ殘置シ主  
力ヲ率ヒテ埃軍ノ包圍ヲ突破シテ血路ヲ開キゲヌア (Genua) 軍ニ合シタ、最左翼ニ  
在リシスーシエ (Suchet) ハエルスニッツ (Elsnitz) ノ優勢ナル部隊(三萬)カラ攻撃ヲ受ケ  
テ力戦大ニ努メタケレトモ遂ニ支フル能ハスシテ西方ニ退却シタ、於是佛軍ハゲ  
ヌア (Genua) トニッツア (Nizza) 方面トニ分斷セラルルニ至ツタノテアル、  
ゲヌア (Genua) 要塞ハゲヌア (Genua) 市ヲ圍繞スル三方面ノ各山地ニ分派堡ヲ設ケ、  
幾多ノ歲月ヲ費シテ完成シタル、所謂金城テアツタ、然ルニ佛ノ總指揮官タルマッセ  
ナ (Massena) 將軍ハ次ノ如ク痛快ナル判決ヲ下シタ、

一八〇〇年伊太利戰役(アルプス踰越マレンゴ會戰)

軍ハ志氣ヲ振起シ、スーシエ(Suchet)ト連絡スル目的ヲ以テ明八日主力ヲ擧ケテ出撃スルヲ要ス、

蓋シマッセナ(Massena)將軍ハ要塞ニ據リテ敵ヲ拒止スルハ容易テアルカ、不利ナル戰鬪ヲ交エタ儘、徒ニ城ヲ嬰守スルニ甘ンスルハ一般市民ニ對スル信用ヲ失墜スル計リテナク、佛軍ノ志氣モ直ニ舊時ノ状態ニ復歸スルテアロウ、故ニ一快戰ヲ城外ニ交エ今日ノ敗戰ノ恥辱ヲ澆キ且ツスーシエ(Suchet)軍ト連絡スルヲ努ムルコトカ必要テアルト考エタノテアル、

マッセナ(Massena)將軍ノ大膽ナル決心ハ予ノ大ニ敬服スル所テアル堅城鐵壁モ守ルニ人カナカツタナラハ何ノ役ニモ立タナイ、近ク歐洲大戰ノ實例ニ依ツテモ明ラカテアル、ナムール(Namur)要塞ハ二日目ニ陥落シタ、理想的ニ築設セラレタルアントワープ(Antwerp)ハ旬日ニシテ開城シタ然ルニヴェルダン(Verdun)要塞ハ獨軍ノ猛撃六ヶ月ニ及フモ尙ホ堅守シテ居ルテハナイカ、即チマッセナ(Massena)將軍ノ意氣アリテコソ、要塞モ大ニ價値ヲ發揮スルノテアル、彼レハ要塞ヲ飽ク迄出撃ノ據點ニ利用セントシタ、而シテ愈、已ムヲ得サルニ至ツタナラハ、終

ニハ城ニ據ツテ時日ヲ持タントシタノテアル、然シ我國軍人ノ立場カラ言ヘハ終ニハ城ヲ枕ニシテ全滅スル迄戰フノテアルカ、西洋ノ習慣ハ異ナツテオルカラ、其レ迄テノ要求ハ不可能テアルコトハ勿論テアル、

明クレハ四月八日佛軍ハ勇敢ナルマッセナ(Massena)將軍ノ指揮ノ下ニ勇氣百倍シ、市民ノ目前ニ於テ華々シク勇戰シ、昨日占領セラレタル要地ヲ首尾能ク奪還シ、一千有餘ノ捕虜ヲモ携ヘテ市民ノ歡呼ヲ受ケツツ凱旋ヲシタ、マッセナ(Massena)將軍ハ此ノ戰勝ニ乘シ更ニ當初ノ目的ノ一タルスーシエ(Suchet)トノ連絡ヲ圖ランカ爲メ、一部(八千)ヲ以テ要塞ヲ守備セシメ主力(一萬)ヲ以テ海岸ニ沿ヒ、サボナ(Savona)ヲ目標トシテ勇進ヲ開始シタ、埃軍ニ於テハ更ニメラス(Melas)カ其ノ主力ヲ以テ來援シタ爲メ、兵力ハ甚タ優勢ト爲リ、殆ント佛軍主力ノ三倍ニモ上ツタ、然シ佛軍ハ勇將ノ下ニ殊死シテ奮闘ヲ繼續シ、勝敗ハ容易ニ決セスシテ十日間ヲ經過シタカ、佛軍ハ終ニ衆寡敵セス、彈藥モ亦タ殆ント盡キ、遺恨ヲ吞ンテ再ヒゲヌア(Genua)ニ退却シタ、此間西方ニ退却シタスーシエ(Suchet)モ相應シテ攻勢ニ轉シ埃ノ一部隊ヲ擊破シタカ、間モナク優勢ナル埃軍ノ爲メ、反撃セラレ倉皇トシテ退却スルニ

至ツタ、

此クシテ佛軍ハ依然兩斷セラレ、ゲヌア (Genoa) 要塞ハ是ヨリ殆ント專守防禦ノ餘儀ナキ状態ト爲ツタ、

要塞カ爾後攻圍ヲ受クルコト尙餘ニ及ンタカ、未タ攻者ノ活動ヲ見ナイ、其ノ間、英艦隊カラ勸降書ヲ齎ラシタコトカアツタカ固ヨリ之ニ耳ヲ藉サナカツタ、恰モ五月二十四日奈翁カラ福音カ到着シタ曰ク予ハ大軍ヲ率ヒアルペン (Alpen) ヲ南下セントス、貴官ト握手スルノ日ハ當サニ近キニ在ルヘシト、マッセナ (Massena) 將軍ハ此ノ通報ニ接シテ大ニ心丈夫ニ感シタテアロウ、將軍ハ市民及ヒ部下ノ志氣ヲ振起スル目的ヲ以テ右ノ事項ヲ市民一般ニ公告シタノテアル、

マッセナ (Massena) 將軍ノ此ノ處置ハ軍ノ機密ヲ洩ラスモノテアツテ甚タ穩當ヲ失シタモノト謂ハナケレハナラヌ、若シ敵ニシテ此公告ニ依リテ適時ニ處置ヲ爲シタナラハ、元來困難ナル此ノ山越ヘテ、更ニ一層危険ナラシムルモノテアル、吾人カ高等司令部ノ命令ヲ通報ヲ作爲スルニ當ツテモ、決シテ軍ノ機密ニ亘ル事項ヲ示スヘキモノテナイ、例ヘハ軍ノ行動開始時日、或ハ某地ヘノ集中完了期

若クハ兵力等ノ如キハ直接必要ナル向ヘノミ、口授スルニ止メネハナラヌ、近ク歐洲大戰ニ於テモ、捕虜若クハ死傷者ノ懷中カラ大ニシテハ國軍ノ作戰大方針及ヒ其ノ計畫、小ニシテハ各軍ノ行動ニ關スル書類カ敵手ニ渡レルコトハ屢耳ニスル所テアル、要スルニ秘密ヲ嚴守スルノ方法手段ニ就テハ常ニ心懸ケテオラナケレハナラヌコトヲ一言シテ置クノテアル、

然シ佛軍ノ爲メニ幸ヒナ事ニハ、メラス (Melas) カ此ノ事ヲ信シナカツタノテアル、蓋シアルペン (Alpen) ノ嶮ハ、到底大軍ヲ通過セシムルコト不可能テアルト考ヘタノハ獨リメラス (Melas) ノミテハナカツタノテアルカラ、メラス (Melas) カマッセナ (Massena) ノ公告ヲ聞イテ虛構テアルト判斷シタノハ同情スヘキ點カアル、

ゲヌア (Genoa) 要塞ニ對スル攻撃ハ漸次ニ活潑トナリ五月二日ニハオット (Ott) ノ指揮スル三萬ノ兵ハ總攻撃ヲ開始シ英國艦隊ハ海上ヨリ盛ニ市内ヲ砲撃シテ、陸軍ノ攻撃ヲ援助シ、午後ニ入ツテカラ戰鬥ハ益々激シクナツタ、守將 マッセナ (Massena) ハ徒ニ敵ノ攻撃ヲ防クノミヲ以テ満足セス、部將 スール (Saut) ヲシテ西方ニ對シ、自カラハ北方ニ對シ、共ニ豫備隊ヲ提ケテ猛烈ニ逆襲ニ轉シタ、メラス (Melas) 此ノ銳鋒ニ當

リ難ク各方面共攻撃ハ失敗ニ終リ、舊位置ニ退却シタ、其ノ翌々日ハスール (Sault) カ四千ノ兵ヲ提ケテ再ヒ突出シ、五百ノ捕虜ヲ土産トシテ市民ヲ喜ハシタ、斯クシテ佛軍ハ連日勇將ノ下ニ健闘シテオツタカ、損害ハ一日ト増加シ、將官中テモマッセン (Massena) ノ負傷ヲ始メトシ、勇將スール (Soult) モ負傷後、敵ノ捕フル所ト爲リ、都合二十二名ノ内無事ナルハ僅カニ七名トナツタ、兵卒ノ損害モ莫大ナ數ニ達シ、今ヤ約半数(一萬ヲ残スノミテ此ノ外ニ四千人ハ病院ニ收容サレテオツタ、佛ノ豫備軍カ困難ノ後、アルペン (Alpen) ヲ通過シタル五月二十六日ニハ、マッセン (Massena) ノ許ニモ吉報カアツタ、曰ク「アルペン軍ハ五月二十日アルペンノ絶頂ヨリ南下シツツアリ」ト此ノ通報ハ、苦戦中ノグヌア軍ヲ如何ニ興奮セシメテアロウ、五月三十日海上ニ放テル潜伏船隊ハ二十隻ノ船ニ糧秣ヲ滿載シテ將ニ入港セントスル際、折悪シクモ英艦ノ爲メニ發覺セラレ、其ノ十九隻ヲ奪ハレタ、グヌア (Genua) ノ糧食ハ漸次缺乏ヲ告ケテ來タ、即チ悲シムヘキ陥落ノ期カ近ツキツツアルノテアル、知ラス埃軍ノ背後ニ奈翁ノ到着速キカ、抑モ亦タ要塞ハ先タツテ開城ノ餘儀ナキニ至ルテアロウカ、即チ是カラカ、眞ニ土俵際ノ勝負テアル、

當時糧秣ハ六月四日ノ正午ヲ以テ最後ノ分配ヲ爲シ終ルヘキ計算テアツタ、流石ノ勇將ノ激勵モ五月末頃トナツテハ效果カ少ナクナツタ、カンフル注射モ反應カ見エナクナツタ、志氣ハ銷沈シ、市民ハ恐怖シテ代表者ヲマッセン (Massena) ノ許ニ派シテ降伏ヲ切言シタ、已ニ來援スヘキ筈ナル奈翁軍モ、何等來著セントスル兆候モナイ、會戰ノアツタ模様モナケレハ、埃軍ノ動搖スル状態モナイ、知ラスマッセン (Massena) 將軍ハ此ノ悲況ニ對シテ如何ニ處斷シタテアロウカ、

埃將オット (Ott) ハ今ヤグヌア (Genua) ノ落城モ旦夕ニ迫レルヲ知り、油斷ナク攻圍ヲ續ケテオツタ、然ルニ五月三十一日、總司令官メラス (Melas) カラ突然意外ナル命令カ到着シタ、曰ク「速ニグヌア (Genua) ノ攻圍ヲ解キ、直ニ主力ヲ以テ北方トルトナ (Tortona) (Genua 北方五十吉米) ヲ、一部ヲ以テ東北方ピアセンツア (Piacenza) (Genua 東北約九十吉米) ヲ占領スヘシ」ト、此命令ヲ受ケタ、オット (Ott) ハ其ノ何ノ故タルカ分ラナイカ、方ニ陥落セントスル要塞ヲ、ミスミス、蘇生セシムルノハ、ツマリ、今迄テノ大ナル犠牲ヲ全ク無意味ナラシメルモノテアル、故ニ現下ノ情況ヲ報告シテ總司令官ノ再考ヲ求メルコトニ決心シタ、

案スルニメラス(Melas)カ其ノ解圍ノ目的ヲ示サナカツタノハ恐ラク奈翁軍、南下ノ情況カ敵軍ニ洩レルノヲ恐レタノテアロウカ、爲メニオット(Ott)ヲシテ大ニ疑惑ヲ抱カシメ、直ニ其ノ命令ヲ服行スルニ躊躇セシメタノハ當然デア、實ハ後述スル通り是レカ却テ埃軍ノ爲メニハ怪我ノ功名テアツタケレトモ原則トシテハオット(Ott)ニ丈ケハ其ノ眞目的ヲ示シ臨機處置ヲ決スルノ基準ヲ與ヘネハナラヌト思フ、

勇將マッセナ(Massena)ハ市民ヨリノ降伏勸告ニ對シ今ヤ斷然之ヲ排斥シ得サル情況ト爲ツタノテアルカ、一方豫備軍ノ來援モ遠カラサルモノト判斷シ得ルカ故ニ、言ヲ左右ニ托シテ、一日、一日ト延ハシツツアツタ、然ルニ時日ハ矢ノ如ク經過シテ六月三日ト爲ツタカ、待チ焦レタ援軍ハ未タ來ル模様モナク、糧食ハ愈、明四日正午ヲ以テ終リトナルノ窮境ニ迫ツタ、ソコテ、マッセナ(Massena)將軍モ已ムヲ得ス、軍使ヲ攻圍軍司令官オット(Ott)ノ許ニ遣シ、開城ノ談判ヲ爲サシメタ、其ノ條件トシテ、佛軍ハ軍旗ヲ翻シ武装ノ儘、ゲヌア(Genua)ヲ撤去スヘク、若シ肯ンセサレハ強力ヲ以テ進路ヲ開クヘキコトヲ以テシタ、

埃將オット(Ott)ハ此日、驚クヘキ他ノ情況ニ接シタ、曰ク奈翁ハ五萬ノ精銳ヲ提ケテアルペン(Alpen)ヲ越ヘテ伊太利平地ニ進入セリト、於是マッセナ(Massena)ヨリノ談判アリシヲ幸ヒ、其ノ傲慢ナル提議ヲ容レテ、速ニ奈翁ニ對スル行動ヲ開始シナケレハナラヌコトトナツタ、實ニ兩軍共ニ危機一髮ノ間ニ自軍ノ最大不幸ニ陥ラントスルヲ救フタモノト謂フヘク、マッセナ(Massena)ノ堅忍不屈ハ其ノ軍ヲ全滅カラ免カレシメタノテアル、

於是マッセナ(Massena)ハ病兵四千ヲゲヌア(Genua)ニ留メ、他ハ陸路西方ニツア(Nizza)ニ向ハシメ、自カラ海路ヲ取り以テスーシエ(Succhi)將軍トノ會見ヲ急イタ、埃將オット(Ott)ハ約十六大隊ノ歩兵ヲゲヌア(Genua)ニ留メ一旅團ヲ東北方ピアセンツァ(Piacenza)(Po河畔)ニ到ラシメ、爾餘ノ全力ヲ率ヒテ命令ノ如ク北方トルトナ(Tortona)ニ向ツタ、ゲヌア(Genua)ノ攻守ハ斯クシテ茲ニ一段落ヲ告ケタノテアル、

豫備軍方面ノ情況 五月二十六日ヲ以テ、アルペン(Alpen)山ノ出口タルイブレア(Ivrea)ニ進出シタル豫備軍ハ爾後如何ニ行動スヘキカハ大ナル情況判斷ニ價スルノテアル、諸君ハ先ツ自カラ判決ヲ下シタ後ニ經過ヲ研究セラルルヲ可トス、

此日奈翁ノ知り得タル主ナル情況ハ次ノ通りテアツタ、

- 一 イブレア (Ivrea) ニ於テランヌ (Lannes) ニ擊退セラレタ敵ハ約三千テ、西南方チューリン (Turin) (Ivrea 西南方五十吉米) 方向ニ退却セルコト、
  - 二 埃將メラス (Melas) ハ佛ノスーシエ (Suchet) ニ對シテパール (Var) 河畔ニ在ツタカ、今ヤチューリン (Turin) 方向ニ轉進中ナルカ如キコト、
  - 三 埃將ツカソビチ (Vukassovich) 軍(八千)ハサンゴットハルド (St. Gotthard) 峠(最東方) 及ヒシムブロン (Simplon) 峠方面ニ對シマイランド (Mailand) 西北方ニ位置シテオルコト、
  - 四 佛ノモンセイ (Moncey) 軍ハ主力ヲ以テサンゴットハルド (St. Gotthard) 峠ヲ、又タ一部(約五千)ヲ以テシムブロン (Simplon) 峠ヲ南下中テアルコト
- 奈翁ハ以上ノ情況ヲ判決シテ次ノ如ク斷定シタ、
- 軍ハ主力ヲ以テ直ニ東方マイランド (Mailand) ニ向ヒ前進シ敵ノ背後ヲ遮斷セントス、
- 若シ奈翁ニアラサル將軍ナラハ主力ヲ以テ先ツチューリン (Turin) ヲ衝キ、之ヲ

擊破シタ後、ゲヌア (Genoa) ノ救援ヲ急クノ處置ニ出テタカモ知レヌ、然シ奈翁ハ已ニ一七九六、七年ノ戰役ニ於テ屢、敵ヲ擊破シタケレトモ之ヲ殲滅スルヲ得ナカッタカラ、今度ハ全然敵ノ退路ヲ遮斷シテ一網打盡的ニ始末ヲツケテシマウ積リテ此快舉ニ出テタノテアル、尙副目的トシテハマイラント (Mailand) 平地ハ豊饒ノ地テモアルシ又タ、北部伊太利ニ於ケル政治的中心地テモアルカラ、之カ占領ハ大ニ伊太利ノ輿論ヲ喚起スルノ利モアル、背後連絡線ヲ脅威サレテモ、地方物資テ間ニ合フノト、又タサンゴットハルド (St. Gotthard) ニ變更スルコトモ出來ル、又タ最モ有力ナルモンセイ (Moncey) 軍(一萬五千)トモ合一シ得ルノ便モアル只タ、ゲヌア (Genoa) ノ救援ハ若干後レルノ害カアル、然シ是レハ道程ノ上カラノ計算テアルカラ、實際ニ於テハ何レカ速ニ救援シ得ルカラ定ムルコトハ出來ナイ、要スルニ奈翁ノ此ノ判決ハアルペン (Alpen) 通過ノ目的ニ副フヘキ名案デア、只タ凡庸ノ將カ此ノ眞似ヲスルト、飛ンテモナイ、結果ニ陥ルコトカアルト言フコトニ注意スルヲ要スルノテアル、

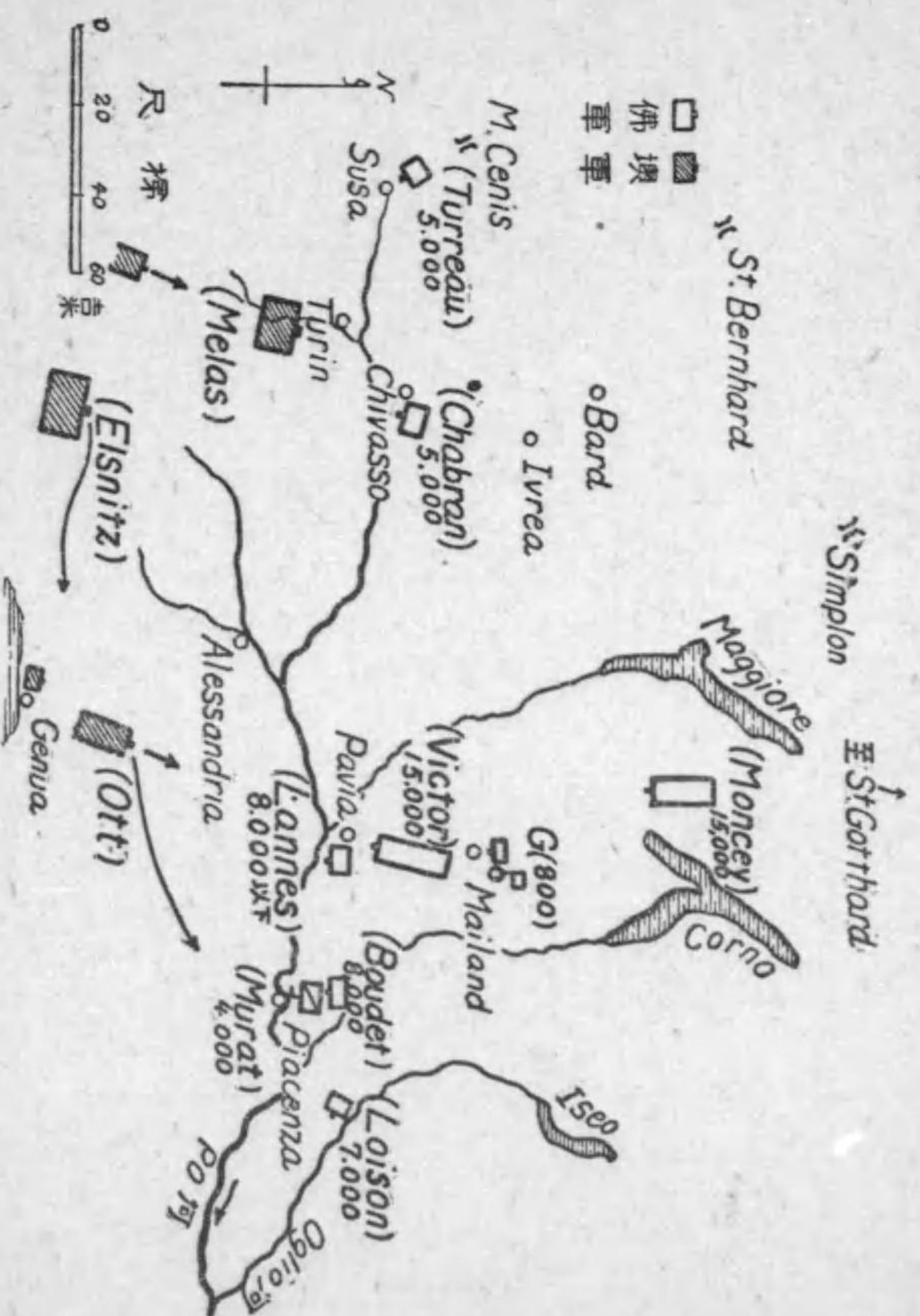
先頭タリシランヌ (Lannes) 軍團ハ連日ノ苦戰、疲勞、疲勞、モ意トセス、二十七日更ニ小敵ヲ

驅逐シツ南方ニ前進シ、チバソン (Chivasso) (Po) 河左岸ヲ占領シテ、主力ノ マイランド (Mailand) ニ向ツテスル轉進ノ掩護ニ任シタ主力ハ ミュラー (Murat) ノ騎兵團ヲ先遣トシテ二十七日カラ前進ヲ始メタ、ミュラー (Murat) ハ五月三十一日 チチノ (Ticinno) 河 (Mailand) 西方ニ達シタ、前岸ニハ優勢ナル敵カオツテ渡ルコトカ困難テアツタカ、此方面ノ塙將ハ 奈翁 ノ前進ニ對シ、永ク此地方ニ留マルヲ危險ナリト意思シ、軍ヲ撤シテ マイランド (Mailand) ヲ經由シ、更ニ東方ニ退却シタ、依テ ミュラー (Murat) モ無事ニ渡河ヲ完了シ、六月二日ヲ以テ マイランド (Mailand) ニ進入シタ、チバソン (Chivasso) ヲ占領シテ駐止掩護ニ任シタ ランヌ (Lannes) 軍團ハ敵ニ先チテ ポー (Po) 河ノ渡河點ヲ占領スル爲メ、六月一日ヲ以テ ポー (Po) 河ニ沿フテ東進ヲ開始シ、六月三日ニハ パビア (Pavia) (Mailand) 南方約三十吉米ニ到着シタ、カブラン (Chabran) 師團五千ハ ランヌ (Lannes) ニ代ツテ チバソン (Chivasso) ノ守備ニ任シタ、先是、佛軍ノ前進ニ一頓控ヲ與ヘタ バルド (Bard) 止阻堡ハ六月一日ヲ以テ陥落シタ、マイランド (Mailand) ニ進入シタ ミュラー (Murat) ハ其一部ヲ以テ直ニ塙軍ヲ東方ニ追撃セシメタ、

奈翁 ハ塙軍主力カ尙ホ ポー (Po) 河左岸ニ移ラサルヲ知ルヤ、全然之ヲ戰略的ニ包圍シテ殲滅セシムノ機アルヲ豫期シ各渡河點ヲ確實ニ占領シ以テ渡河ニ便ナラシメ、七日頃ニ マイランド (Mailand) ニ到着ノ豫定ナル モンセイ (Moncey) 軍ヲ合シ大舉シテ南下スヘク決シ、各隊ヲシテ其所命ノ位置ニ就カシメタ、六月五日ニ於テハ概ネ左圖ノ配置ニ在ツタノテアル

即チ西方カラ順序ニ述フレハ チュロウ (Turreau) 軍ハ依然 スーサ (Susa) 附近、カブラン (Chabran) 師團ハ チバソン (Chivasso) ニ、ランヌ (Lannes) 軍團ハ パビア (Pavia) ニ、ビクトル (Victor) 軍團三師團ハ マイランド (Mailand) ヨリ パビア (Pavia) ニ向ヒ行進中、ミュラー (Murat) 騎兵團及 ブーデ (Baudet) 師團ハ ピアセンツァ (Piacenza) ノ對岸即チ ポー (Po) 河左岸ニ、ロアゾン (Loison) 師團ハ オグリオ (Oglio) 河畔ニ、モンセイ (Moncey) 軍ハ其先頭ヲ以テ マイランド (Mailand) ヲ去ル約一日行程ノ地ニ達シ、奈翁 ハ其ノ近衛兵ト共ニ尙ホ マイランド (Mailand) ニ駐留シテオツタ、

六月五日ニ於ケル佛豫備軍ノ位置



奥軍ノ情況 初メ總司令官メラス (Melas) ハ奈翁軍ノアルペン (Alpen) 通過ニ就テ  
 ハ殆ント念頭ニ浮ハナカツタカ、漸次確實ナ情報ヲ得ルニ及ンテ、若シヤト思ヒ直  
 シ、其ノ方面ニ注意ヲ拂フ様ニナツタ、即チ奈翁カ恰モサン・ベルン・ハルド (St. Bern-  
 hard) 峠ノ絶頂ニ馬ヲ進メテ伊太利平地ヲ一ト呑ミニセントシタ五月二十日ニメ  
 ラス (Melas) ハ一部ノ兵 (約七千) ヲ率ヒテバル (Var) 河畔 (西方) ヲ去ツテ、北方、チユ-  
 リン (Turin) ニ向ツタ、奈翁軍カ山脈ノ出口タルイブレア (Ivrea) ニ集合シタル五月二  
 十六日ニ於ケル奥軍ハ概ネ次ノ如キ状態ニ在ツタ、(西方ヨリ述フ)。  
 エルスニッツ (Elsnitz) ノ指揮スル約一萬七千ノ軍ハ佛ノスーシエ (Suchet) ニ對シ、バー  
 ル (Var) 河畔ニ在リ、チユ-リン (Turin) 附近ニハ總テヲ合スレハ少クモ二萬以上ノ  
 兵アリ、メラス (Melas) モ亦タ此地ニ在リ、又タオット (Otti) ノ指揮スル二萬餘ハゲヌア  
 (Genua) ヲ攻圍シアリ、ブカソビチ (Vukassovich) ノ率ユル八千ハ主力ヲ以テマイラン  
 ド (Mailand) 西北方ニ在リテ北方ニ對シ、一部ヲ以テ西方ニ對シアリ、  
 奥將メラス (Melas) ハ此日有力ナル敵カ己ニイブレア (Ivrea) ニ集合シタコトヲ知  
 ツタ、此情況ニ於テ奥軍トシテ如何ニ情況ヲ判決スヘキカハ佛軍ニ於ケルト同様



ニ大ナル研究ニ價スルノテアル、

所見 此際埃軍トシテハ敵カチユーリン (Turin) ニ向ツテ前進シテクルカ、又ハ直ニ東方マイランド (Mailand) ニ轉進スルカ、抑モ亦タ直路ゲヌア (Genoa) ニ向ヒ救援ニ赴クノ策ニ出ルカニ論ナク、兎ニ角、目下分散シアル兵力ヲ何レカノ地點ニ集結スルコトカ最モ急務テアル、然ラハ何レニ兵力ヲ集結スヘキカ、是カ答解ニハ或ハチユーリン (Turin) 案モアルテアロウ、又ハ遠クポー (Po) 河ノ下流ピアゼンツア (Piacenza) 方面ノ案モアロウ、然シ前案ハ過度ニ西方ニ偏在シテオルカラ自カラ囊中ノ鼠トナル危険カアル、又タ後案ハ單ニ身ヲ完フシテ本國ニ退却スル目的ナラハ格別、苟クモ決戦ヲ交ユル意思カアルトスレハ不利テアル、即チ集合ノ機カ甚タシク後クレルカラ、敵ヨリ機先ヲ制セラルル恐れカアル故ニ予ハアレッサンドリア (Alessandria) (Genoa 北方六十吉米) 附近ニ集結セシムルヲ最良案ト思フ、同地ハ堅固ナル要塞地テ、目下各方面ニ分散セル埃軍ノ中心地テアルカラテアル、此地點ヲ速ニ集結ヲ終ルコトヲ努メ、集結カ完了シタナラハ、敵情ニ依リテ如何様ニモ其ノ行動ヲ律スルコトカ出來ル、以上ノ要旨ニ依リ大要ノ處置

ヲ示セハ次ノ通りテアル、

- 一 一部ヲチユーリン (Turin) 附近ニ殘置シ西方及ヒ北方ニ對シテ主力ノ轉進ヲ掩護セシム、殘餘ハ直ニアレッサンドリア (Alessandria) ニ向フ、
  - 二 バル (Var) 河畔ニハ一部ヲ殘置シ主力ハ速ニアレッサンドリア (Alessandria) ニ向ハシム、
  - 三 オット (Ott) ハ一部ヲ以テゲヌア (Genoa) 要塞ノ出撃ニ對セシメ、主力ハ直ニアレッサンドリア (Alessandria) ニ到ラシム、
  - 四 ヅカソフ (Zukassovich) 軍ハマイランド (Mailand) 平地ニ在リテ西方及ヒ北方ニ對シテ敵ノ前進ヲ拒止セシム、
- 然ルニメラス (Melas) ハ依然チユーリン (Turin) ニ駐留シ必ス來攻スヘシト豫期セル奈翁軍ヲ待ツテオツタ、所ロカ、全然其ノ豫想ニ反シ、我ニ後ロヲ見セテ、大膽ニモマイランド (Mailand) ニ向ツタコトカ知レタ、ソコテ、目下チユーリン (Turin) ニ集合シアル兵ヲ以テ佛軍ノ後ロヲ衝クヘク、健氣ナル決心ヲ爲シタ、然ルニ其ノ實行ハ甚タ緩漫テ、數日ヲ費シ、五月三十一日ニナツテカラ愈、出發スルコトトナツタ、所ロ

カ偶、サン、ゴットハルド(St. Gotthard)峠方面ヨリ優勢ナル佛軍カ南下シテ來ルコト、ツカソビッチ(Vukassovich)軍カ不利ナル戦闘ヲ交エツツアルノ情報ニ接シ、メラス(Melass)モ、事態容易ナラスト心配ヲ始メ、攻勢前進ヲ中止シ、先ツアレッサンドリア(Alessandria)ニ兵力ヲ集結スルコトニ決心ヲ變更シタ、此變更ノ結果、ゲヌア(Genua)攻圍軍司令官オット(Old)、バル(Var)河畔ニ在ルエルスニッツ(Elsnitz)ニ對シ、其主力ヲ以テアレッサンドリア(Alessandria)ニ引キ揚クヘキ命令カ發セラタノテアル、此命令ニ對シ、オット(Ott)ハ前述ノ如ク、佛軍ト開城談判ヲ完了シテ、先ツ都合好ク引キ揚クルコトカ出來タカ、エルスニッツ(Elsnitz)ハ其ノ當面ノ敵タル佛ノスーシエ(Suchet)カ増加隊ヲ得テ攻勢ニ轉シタニ依ツテ、思フ様ニ引キ揚クルコトカ出來ス、屢、戦闘ヲ交エツツ退却シタ爲メ、六月七日チエバ(Ceva)(Nizza)東北百十吉米ニ到着シタ際ニハ僅ニ八千ノ兵ヲ有スルニ過キナカッタ、

要スルニ奈翁軍カ埃軍ノ背後連絡線ヲ遮斷スルノ區署ヲ略ホ完了シタル六月五日ニハ、埃軍ハ逐次アレッサントリア(Alessandria)附近ニ向フ運動中ニ在ツタノテアル、奈翁軍ノ情況、六月六日愈、前進運動カ開始セラレタ、ランヌ(Lannes)軍團トビクト

ヌ(Victor)ノ先頭師團トハ、パビア(Pavia)附近ニテポー(Po)河ヲ渡リ、又タミュラー(Murat)ノ騎兵團モピアセンツア(Piacenza)ノ下流カラ不意ニ渡河ヲ完了シ、守備薄弱ナルピアセンツア(Piacenza)ヲ占領シタ、東方オグリオ(Oglio)河畔ニ追撃シタロアゾン(Loisson)師團ハモンセイ(Moncey)軍ノ一部ト交代シテ西南方クレモナ(Cremona)(Po)河左岸ニ向ツタ、

ミュラー(Murat)ハピアセンツア(Piacenza)ニ於テ埃軍ノ一傳令ヲ捕獲シタ、此ノ傳令ノ所持セル報告(Melas)ヨリ本國政府宛ハ重要ナル價值ヲ有スルモノテアツタ、其ノ要旨ニ依レハ、ゲヌア(Genua)要塞ノ陥落セルコト、及ヒ埃軍ハ奈翁軍ニ對スル爲メ、先ツアレッサンドリア(Alessandria)ニ集合スヘキコトカ分カツタ、奈翁ハ此ノ情報ヲ得テカラ大ニ其ノ活動ヲ爲シ得ルニ至レルヲ欣ンタ、蓋シ敵ハ目下各方面ヨリ集合中ニ在ルノテアルカラ、迅速果敢ニ動作シタナラハ、所在敵ヲ各個ニ撃破シ得ルノ公算カ大テアルカ故ニ、今日迄テ大ニ慎重ノ態度ヲ取り、ポー(Po)河ノ渡過ニモ大事ヲ取ツタカ、急ニ其ノ態度ヲ改メテ急進スルニ決シタノテアル、

モンテベロ(Montebello)ノ戦闘、曩ニ一萬二千ノ兵ヲ率ヒテゲヌア(Genua)方面カ

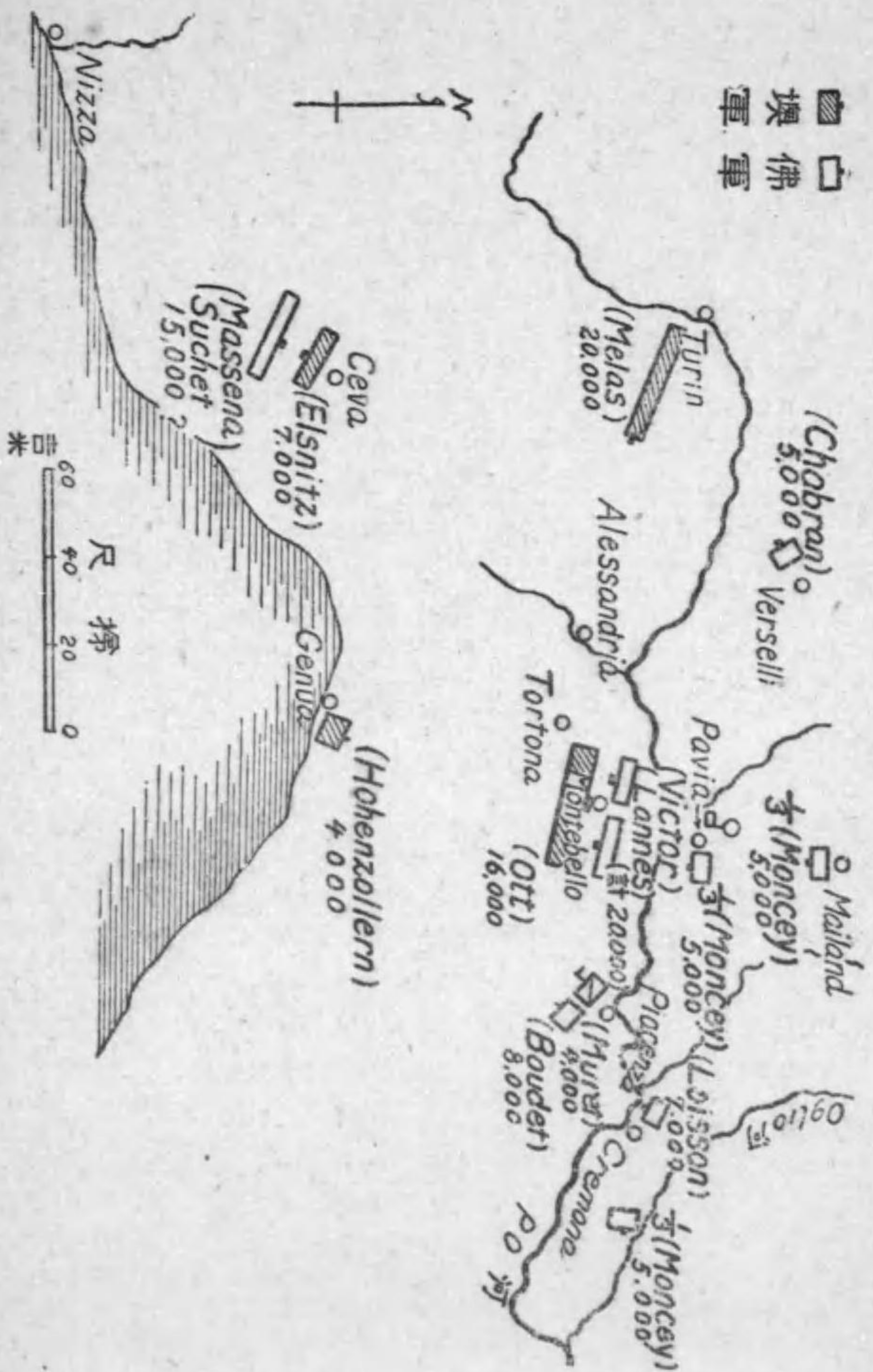
ラアレッサンドリア (Alessandria) に向ヒ北進中テアツタ、奥將オット (Ott) ハ途中、メラス (Melas) ノ命令ニ依リポー (Po) 河畔ノピアセンツァ (Piacenza) ヲ占領シ以テ奈翁軍ニ對シ渡河點ヲ確實ニ保持スヘキ目的ヲ以テトルトナ (Tortona) (Genoa 北方五十吉米) カラ東北方ニ向ヒテ轉進ヲ始メタ、然ルニ佛軍ニ在ツテハ前述ノ如クランヌ (Lannes) 軍及ヒシヤムバルラック (Chambaurhae) 師團 (Victor 軍團ノ先頭師團) ハ、パビア (Pavia) 附近カラ南下中テアツタ、ソコテ、此佛軍兩軍ハ六月九日ヲ以テモンテペロ (Montebello) (Pavia 南方二十吉米) ニ於テ衝突シタ、此戰團ハ奥軍カ展開ヲ完了シテ準備セルニ對シ初メ、ランヌ (Lannes) ハ後續團隊アルヲ頼ミテ、直ニ獨力ヲ以テ攻撃ヲ開始シタカ、激戰ノ後、優勢ナル奥軍ノ爲メ其ノ右翼ヲ包圍セラレ、退却ノ已ムヲ得サル窮境ニ陥ツタカ、ビクトル (Victor) 軍團カ逐次戰場ニ來援セル爲メ、形勢一變シ、奥將オット (Ott) ノ奮勵モ遂ニ其ノ功ヲ收ムル能ハス四千ノ損害ヲ以テトルトナ (Tortona) 方面ニ擊退セラレタ、

ランヌ (Lannes) 將軍ハ自己ノ弱勢ナルヲモ顧ミス、優勢ナル奥軍カ準備シテ嚴然ト構ヘアルニ對シ敢テ獨力ヲ以テ攻撃ヲ爲シタ、此ノ勇氣ハ實ニ貴重ナ素因テアル、徒ニ理屈ヲ並ヘテ、遂巡スルモノニ比シテ優ルヤ萬々テアル、然シ此ノ如キ情況ニ於テハ、我操典ニモ戒シメラレテアル如ク、先ツ慎重ニ展開ヲ完了シタル後、諸準備ヲ整ヘテ攻撃ノ舉ニ出ツルノカ至當テアル即チ、常ニ敵情ニ注意シ退却ノ色テモ見エタラ直ニ之ニ乘スルコトヲ心懸ケルト同時ニ敵カラ真面目ノ攻撃ヲ受ケテモ決シテ後レヲ取ラヌ丈ケノ準備カナクテハナラヌ、此意味ニ於テランヌ (Lannes) ノ採ツタ處置ハ少シク冒險ニ過キタ感カアル、然シ之レハ尙ホ酌量スヘキ件カアル、即チ、奈翁ハ成ル可ク速ニ前進シ各個ニ敵ヲ擊破スル爲メ、所在攻勢ヲ取ルヘシトノ訓令ヲ各將軍ニ與ヘラレテアツタノテアル、

奈翁 ハマイランド (Mailand) 逐次到着スルモンセイ (Moncey) ノ一部(五千)ヲ東方オグリオ (Oglio) 河畔ニ、他ノ一部(五千)ヲ南方バビア (Pavia) ニ、殘餘(五千)ヲマイランド (Mailand) ノ守備ニ任シタ、又タ西方チバツ (Chivasso) (Turin 東北) ニ在リシカプラン (Chabran) 師團ヲヘルセリ (Vercelli) (Chivasso 東方五十吉米) ニ移シタ、

左ノ概見圖ニ示ス如ク佛軍ハ奥軍ノ退路遮斷ニ關スル戰略的配置ニ就テハ巧ミニ考案セラレテオル、然シ奥軍ニ於テハメラス (Melas) ハ一兩日中ニハアレッサ

六月九日ニ於ケル兩軍ノ位置概見圖



ンドリア (Alessandria) ニ到着スル距離ニアルカラ大會戦ハ已ニ切迫セル情況テ  
 アル、然ラハ須ラク兵力ヲ集結シ以テ決戰場裡ニ充分ノ兵力ヲ使用スルコトニ  
 意ヲ用ヒナケレハナラヌ、此ノ見地カラ論スレハ奈翁ノ目下ノ配置カ頗ル危険  
 テアルト云フコトカ分ル、多クノ兵家カ此ノ點ニ於テ奈翁ヲ批難スルノモ原則  
 ノ上カラ見レハ至當テアルト思フ、此ノ責罰ハ後日ノ會戦ニ現出シタノテアル、  
 要スルニ、フォン、ウワルテンブルグ (Von. Wartenburg) 伯カ言フタ如ク、奈翁ハ從來  
 ノ戦勝ニ依リ大ナル自信力ヲ有シテ、オッタ、從テ決戰場裡ニ兵力ヲ集ムルト謂  
 フ大原則ヲ輕侮スルニ至ツタノテアロウ、

モンテペロ (Montebello) ニ戰敗セル埃將オット (Ott) ハ漸次退イテアレッサンドリア  
 (Alessandria) ニ近接シタ、佛軍ニ於テハ大體ニ於テ前日ノ位置ニ停止シタ、埃及カラ  
 新ニ招致セラレタ、勇將デザー (Desaix) 將軍ハ此日ポー (Po) 河畔ニ到着シタ、依テ奈  
 翁ハモンニエ (Monnier) 師團及ヒブーデー (Boudet) 師團ノ指揮ヲ命シタ、

兩軍ハ爾後其ノ行動ヲ續ケ、六月十三日ニハ次ノ状態ニ在ツタ、

六月十三日ノ情況 奈翁ハビクトル (Victor) 軍團ヲ前衛トシテ、敵ノ集中地ト豫想

セラルルアレクサンドリア (Alexandria) ニ向ツタ、前衛ハ進ンテ、マレンゴ (Marengo) (Alexandria) 東南附近一帶平野ニ進出シタカ敵ヲ見ナイ、殊ニ優勢ナル埃軍騎兵ノ良戰場タル此平野ニ其ノ影ヲ見ナイノハ、正シク敵カゲヌア (Genua) 方向ニ退却セルナラント判断シタ、更ニアレクサンドリア (Alexandria) 附近ボルミダ (Bormida) 河ノ諸橋梁カ破壊セラレテオルト云フ誤報ニ接シ、益々其確信ヲ持ツニ至ツタ、斯クシテ前衛タルビクトル (Victor) 軍團ハマレンゴ (Marengo) 附近ニ於テ敵ノ後衛ラシキ一部隊ヲ撃退シテボルミダ (Bormida) 右岸ノ地區ヲ我カ勢力範圍ニ收メ、其夜、孤立シテマレンゴ (Marengo) 附近ニ停止シタ、佛軍主力ハ此夜遠ク東方サンギウリアノ (St. Giuliano) カラトルトナ (Tortona) 附近ニ亘ル間ニ宿營シ殊ニデゼー (Desaix) ニ一師團ヲ授ケテゲヌア (Genua) ノ通路ヲ遮斷スル爲メ南方ニ派遣シタ(左圖参照)是レハ敵カゲヌア (Genua) 方面ニ退却セルモノト判断シタ結果テアル、

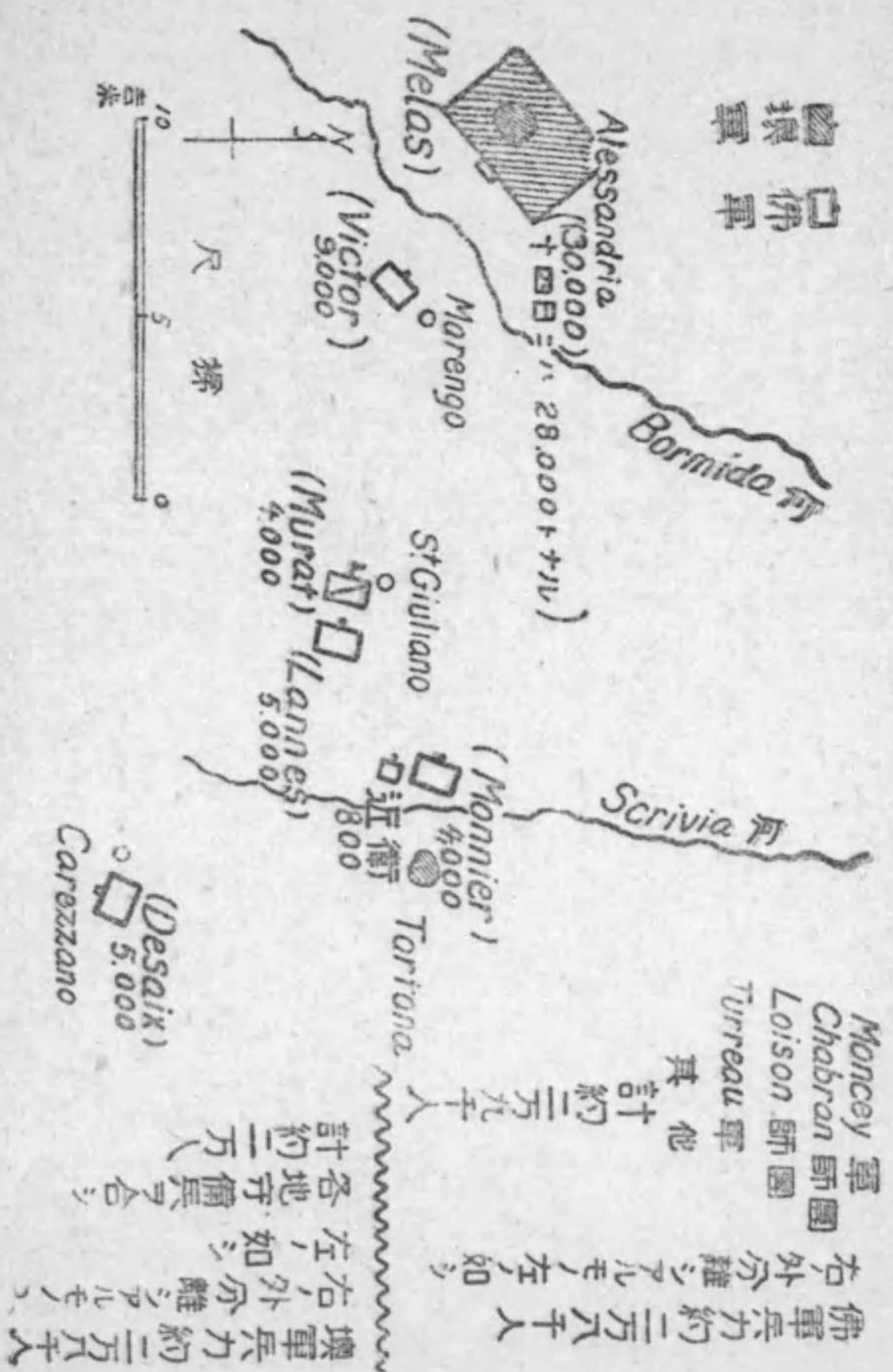
埃軍ニ在リテハ六月十二日中ニアレクサンドリア (Alexandria) ニ集合シ得タル兵力ハ約三萬人テアル、即チオット (Ott) ノ八千人、エルスニツツ (Elsnitz) ノ四千人、チュリン (Turin) ヨリ來レル一萬八千人ノ各隊カ集マツタ、

埃軍總司令官メラス (Melas) ハ向後ノ作戰大方針ヲ議スヘク十二日夜ニ軍事會議ヲ開イタ、此會議ニ於テメラス (Melas) ハ自己ノ意見ヲ述ヘテ曰ク、予ハ敵ト決戦ヲ交ヒ、以テ一舉ニ雌雄ヲ決セントスルノ意圖ヲ有ス、然レトモ四圍ノ情況ハ目下埃軍ニ不利ナルモノアリ故ニ遺憾ナカラ先ツゲヌア (Genua) ニ退却シ、海路ポー (Po) 河口附近ニ上陸シ、更ニ攻勢ヲ探ラントス、ト軍事會議ノ結果ハ略メラス (Melas) ノ意見ノ如ク、先ツ、全力ヲ擧ケテ突出シ一會戰ヲ試ミ、以テ血路ヲ開クニ一決シ、即時之カ準備ニ著手シ、翌十三日ハ大體ニ於テ前日ノ位置ニ在ツタカ、只タ其ノ一部隊カ佛ノビクトル (Victor) 軍團ノ爲メボルミダ (Bormida) 右岸ヨリ左岸ニ壓迫セラレタノミテアツタ、

斯クシテ十三日ノ夜ハ埃軍ハ出撃ノ用意ニ忙カシク、佛軍ハ敵主力ノ所在カ不明テ疑惑ノ内ニ經過シ、翌十四日ニハ奈翁ノ豫期ニ反シタマレンゴ (Marengo) 附近ノ激戦カ突發シタ、

十三日夜ニ於ケル兩軍ノ位置ハ概略左圖ノ通りテアル、

六月十三日夜ニ於ケル Marengo 附近兩軍ノ位置



右ノ概見圖ニ依ツテ佛軍分離ノ状態ヲ考察セハ其ノ如何ニ危険ナル状態ニ在ルカガ了解シ得ラルルテアロウ、前ニ所見ヲ述ヘタ通り、奈翁カ過度ニ埃軍ヲ輕蔑シタ結果、戦闘ニ勝ツト言フコトニ注意スルコト少ナク、只タ獲物ヲ大ナラシメンコトニノミ心ヲ奪ハレタ證據テアル、見ヨ、會戰場附近ニ在ルモノテスラ、數里ニ亘リテ分散シテオル、戰場外遠ク離レテオルモノハ全兵力ノ少ナクモ半數ニ上ツテオルテハナイカ、斯ノ如キハ會戰場裡ニ確實ナル勝利ヲ得ルノ原則ニ違背シテオルモノナルコトヲ忘レテハナラヌ、

埃將メラヌ(Melas)ノ決心即チゲヌア(Genua)方面ニ退却スルノ策ハ必シモ不可テハナイト思フ、然シ目下集結シ得タル兵力ヲ以テ敵ト一快戦ヲ交ユルコトナク、只タ、退却案ヲ採ラントスルハ同意シ難シ、苟モ己ニ有力ナル兵力ヲ掌握シタ以上、又タ奈翁カ斯克兵力ヲ分散シテオル情況ニ於テハ兎ニ角、決戦ノ目的ヲ以テ一度ハ衝突スルノ意氣カナクテハナラヌ、而シテ已ムヲ得サルニ至ラハ、始メテゲヌア(Genua)ニ退却シ後圖ヲ爲スヘキテアロウト思フ、然シ當時ノ眞情ヲ推察スレハ、攻勢ヲ採ル爲メニハ四圍ノ情況、自軍ニ不利ナルコトモ少ナクナカッタノテアルカラ、メ

ラス(Melas)ノ決心モ同情スヘキ點カナイテモナイ、只タ要ハ速決ニ在リ、徒ラニア  
レッサンドリア(Alessandria)ニ駐留シテ逡巡シツアルコトカ大禁物テアル、

又ター一説ニ依レハメラス(Melas)ハ、埃軍ノ事態容易ナラサルニ至レルハ、本國政府  
カ奈翁軍ノ行動ニ關シ適時ニ情報セサリシニ因ルト爲シタ、果シテ然ラハ、彼ハ罪  
ヲ他方ニ嫁シタモノテ、將軍タル價値ニ缺クル所アルモノト謂ハサルヲ得ナイ、

マレンゴ(Marengo)會戰ノ情況(戰圖參照)

埃軍ハ十四日朝ヨリマレンゴ(Marengo)平地ニ出撃スルニ決スルヤ大體次ノ如キ  
計畫ヲ立テタ、

オット(Ott)ハ八千ノ兵ヲ率ヒテ先ツカステルチェリオロ(Castel-Cerriolo) Marengo 東北  
約三吉米附近ニ進出シテ其ノ方面ニ敵ヲ牽制セシメ、主力ヲ以テ敵ノ左側ヲ攻  
撃セントス、此間約三千ノ部隊ヲスピネッタ(Spinetta) Marengo 東南一吉米半方向ニ  
派遣シ主力ノ右側ヲ掩護セシム、

愈、十四日ノ拂曉ト爲ツタ、埃軍ハ豫定計畫ノ通り、先ツオット(Ott)ノ指揮スル牽制部  
隊カボルミダ(Bornida)河ヲ越エ、直ニ東北方ニ轉向シテカステル、チェリオロ Castel

cerriolo)ニ向ツタ、次テ右側掩護部隊タルオレイリー(Oreilly)ノ指揮スル三千ノ兵  
力カマレンゴ(Marengo)ノ前面ニ展開シタ、主力縱隊モ亦タ續々トシテ逐次ニ第一  
線ニ増加シタ、之カ爲メ、佛軍前衛(Victor)軍團ノ前哨部隊タル約六大隊ハフォンタ  
ノン(Fontanone)河左岸ノ地カラ撃退セラレ、マレンゴ(Marengo)附近ノ主力ニ合シタ、  
奈翁ハ午前八時其ノ司令部ニ在リテ、突然意外ニモマレンゴ(Marengo)方向ニ當ツ  
テ激烈ナル砲聲ノ起ルヲ聞イタ、奈翁ハ如何ニ決心シタカ、彼ハ、敵主力トノ衝突テ  
アルトノ判断ノ下ニ、ビクトル(Victor)軍團ヲシテマレンゴ(Marengo)ヲ死守セシメ、直  
ニ主力ヲ前進セシメ、敵ヲ逆撃スルニ決シタ、而シテ南方ニ派遣セルデゼー(Desaix)  
ニハ急使ヲ發シテ速ニ新戰場ニ來ルヘタ命令シタ、

埃軍ハ約三時間ヲ費シテボルミダ(Bornida)ノ渡河ヲ完了シタ、然ルニ偶々メラス  
(Melas)ノ許ニ情報カアツタ、曰ク、佛ノスーシエ(Suchet)ノ兵團ハ已ニアクイ(Acqui)  
(Alessandria)西南二十五吉米ニ前進シ來レ、リト、於是今ヤ戰局ヲ決スヘキ大戰ノ初  
期ニ於テ約二千ノ兵ヲ分割シ、再ヒボルミダ(Bornida)河左岸ニ移リ本軍ノ背後ヲ  
掩護セシメタ、

佛ノビクトル(Victor)軍團ハ敵ノ出撃ヲ知ルヤ其ノンヤンバルラック(Chambarhac)師團ヲシテマレンゴ(Marengo)ヲ右翼トシテ西南方ニ亘リ展開セシメ以テ左岸ニ在リシガルダン(Gardanne)師團ノ退却ヲ收容スルヤ、埃ノ大軍ハ間モナク猛烈ニ殺到シテ來タ、形勢ハ甚タ危急ニ迫ツタノテアル恰モ午前九時頃ケルレルマン(Kellermann)ノ騎兵旅團ハ戰場ニ到着シテマレンゴ(Marengo)西方地區ノ戦闘ニ参加シ又タシャンブー(Champeaux)騎兵旅團ハマレンゴ(Marengo)東北方ニリボー(Rivaud)騎兵旅團ハ更ニ其ノ東北方ニ到着シ右側ニ備ヘタ、次テランヌ(Lannes)兵團ハ急行シテ戰場ニ到着スルヤ先ツ其ノウーリチン(Wartin)師團ヲマクトル(Victor)軍團ノ右側即チマレンゴ(Marengo)ヲ左翼トシテ西面シテ展開シタ、然シ埃軍ノ展開ハ無論佛軍ニ比シテ速カテアル、又タ前夜來準備モ整ヘテアルカラ、中々馬鹿ハナラヌ、佛軍ノ苦戦ハ思ヒ遣ラルル程テ、若シ是レカ彼我所ロヲ代ヘタナラハ、東軍ハ必ス已ニ敗退シタテアロウ、只タ佛軍ノ元氣ニ依ツテ辛ウシテ現状ヲ維持シツツアル状態デアツタ、

埃軍ハ初期ノ計畫タルオート(Oudinot)軍ノ方面ニ佛ノ主力ヲ牽制スルコトハ目下ノ處

出來ナイ様テアルカ、展開状態ニ於テハ遙カニ有利テアル、ソコテ、猛烈ニ攻勢ヲ續行シ其ノ騎兵一旅團ハ健氣ニモ佛軍ノ最左翼ニ向ツテ襲撃ヲ試ミタ、佛ノ左翼ハ爲メニ瓦解セントシタ、然シ佛軍ニハ勇者カ揃ツテオル、友軍ノ危急ト見タル、ケルレルマン(Kellermann)騎兵旅團ハ直ニ之ニ向テ逆撃ニ轉シタ、此ノ機宜ニ適シタル

真ノ騎兵的活動ニ依リ埃軍騎兵ハ撃退セラレ、左翼ハ一時的な安全トナツタ、

佛軍ノ不利ハ打續キツツ午前十一時ト爲ルヤ、恰モ奈翁ハ戰場ニ現ハレタ、彼ハ此ノ悲觀的情況ヲ望見シタ、如何ナル妙策カ演セラレタカ、否ナ、奈翁ニモ已ニ他ニ策ノ施コスヘキ餘地カナカツタト見エル、只タ到着スル後續團隊ヲ増加シテ戰勢ヲ挽回セントスルニ在ツタノテアル、先ツ奈翁ノ親衛兵タル近衛ノ小部隊ハ敵騎ノ襲撃ニ對シテ方陣ヲ作り、防戦之レ努メテオル最中ニ、最後尾タルモンニエ(Monnier)師團ハ先頭ヲ以テ戰場ニ現出シタ、此師團ハ直ニ最右翼ニ使用セラレタ、是レテ右翼方面ノ危急カ幾分カハ緩和シタカ、殆ント焼石ニ水テ、攻勢ノ原動力ト爲ルニハ未タ遙ニ力カ足ラナイ、然ルニ左翼方面ハ一層危険カ増シタ、ビクトル(Victor)軍團ハ朝以來ノ苦戦ニ今ヤ力支フル能ハス、ビクトル(Victor)將軍必死ノ努力モ如何ン



トモスル能ハス、午後ニ入ツテカラハ全ク潰亂ノ状態ニ陥ツタ、其ノ右翼ニ於ケル  
 ランヌ(Lannes)モ奮闘大ニ努力シタカ、ビクトル(Victor)軍團ノ潰亂ニツレテ遂ニ其  
 ノ位置ヲ保ツ能ハスシテ、撃退セラルルニ至ツタ、只タランヌ(Lannes)將軍ノ非凡ナ  
 ル努力ト勇氣トニ依ツテ辛ウシテ潰走ニ陥ルヲ免レタノミテアル、  
 佛軍ハ斯ノ如クシテ全線敗退ノ已ムナキニ至ツタ、流石ノ奈翁モ、已ムヲ得ス敵ニ  
 背面ヲ見セ、東方サンギウリアノ(St. Giuliano)方向ニ退却シタ、

埃將メラス(Melas)ハ是レテ戦争ハ勝利ヲ占メタト思ツタ、然リ目下ノ戦闘ハ確カ  
 ニ勝利テアツタ、但シ戦闘第一幕ノ勝利ニ過キナカッタノテアル、然ラハ爾後如何  
 ニ區署セラレネハナラヌカ、メラス(Melas)ハ如何シタカ、彼ハ老齡已ニ七十歳、今迄  
 テニ最大ノ努力ヲ費シタ、此老將ハ心神共ニ其ノ高度ノ喜悅ノ情ト同時ニ大ナル  
 疲労カ一時ニ到來シタノテアロウ、ソコテ、此ノ老將ハ本國政府ニ呈出スヘキ戦勝  
 報告ノ起草ヲ爲スヲ口實トシテ、直ニアレッサンドリア(Alessandria)ニ引キ揚ケ、爾後  
 ノ指揮ヲ其ノ參謀長タルツァッハ(Zach)ニ委任シタノテアル、

ツァッハ(Zach)ハ如何ニシタカ、彼ハ戦勝各隊ニ對シ現場ニ休憩ヲ命シ、其ノ隊伍ノ

整頓ヲ爲シメタ、佛軍ハ此ノ御蔭テ退却カ比較的容易ニ出來タ、

休憩數時午後四時頃カラ前進開始カ命セラレタ、主力ハ一縱隊ト爲ツテ、サンギウ  
 リアノ(St. Giuliano)街道ヲ、オット(Ott)ハ其ノ集合地タルカステル、チエリオロ(Castel-  
 Verolo)ヲ出發シテ東南方ニ向ツタ、ツマリ、所謂軍ノ戰略追撃ノ形テアル、

午後四時南方ヨリ急行シタル勇將デゼー(Desaix)ハ後レ馳セナカラ五千ノ兵ヲ率  
 ヒテ、到着シタ、彼ハ奈翁ヲ動かシテ切ニ恢復攻撃ノ壯舉ニ出テシメタ、奈翁モ即チ  
 奈翁テアル、甚シク敗退シタル悲況ニ在ツテ、尙ホ樂觀的態度カ消失シナイ、彼ハ直  
 ニ恢復攻撃ニ決シタ、即チ馬ヲ馳セテ戦線ヲ巡視シ、衆ヲ勵マシテ、西面セシメタ、曰  
 ク「汝等ハ充分ニ退却セリ、今ヤ攻勢ニ轉スルノ機ハ到レリ」ト、

デゼー(Desaix)本道ニ沿フテ敵ニ向ツテ突進シタ、マルモン(Marmont)ノ砲兵(十八門  
 ハ敵ノ先頭ニ向ツテ近距離ヨリ不意ニ砲火ヲ開イタ、勇敢ナルケルレルマン(Ko-  
 lermann)ノ騎兵旅團ハ本道北側ヨリ急進シ、狼狽シテ砲列ヲ布キタル、埃軍砲兵ヲ  
 急襲シテ潰亂セシメタ、恰モ手負ヒノ獅子ノ如ク、デゼー(Desaix)モケルレルマン(Ke-  
 lermann)モ縦横無盡ニ敵ノ先頭、側面、背後ニ馳突シタ、

痛マシキ哉堂々トシテ前進セル埃軍、豫期セサル此ノ不意打ニ對シ、手モ、足モ出テ

ス所謂將棋倒シニ覆滅セラレ、殘兵ハ吾レ勝チニト、敗走シタ、  
勇敢ナルデゼー (Desaix)ハ奮闘中ニ敵彈ニ中ツテ可惜名譽ナル戰死ヲ遂ケタ、佛軍  
ハ益、奮激シテ前進ヲ續ケタ、間モナク、ランヌ (Lannes)モ戰闘ニ參加シタ、佛軍ノ勢ヒ  
ハ愈、猛烈トナツタ、

埃軍ニハ尙ホ打撃ヲ受ケサルオト (Ober)ノ兵團カ現存シテオル、彼ハ此ノ危急ヲ聞  
イテ如何ニ決心シタカ、先ツ南方ニ急進シテ友軍ヲ救ハント欲シタ、次テ敵ノ整然  
タル姿ヲ望見シテ、直ニ退却ニ決シタ、彼ハ其ノ身ニ打撃ヲ受ケサル目的ノ爲メニ  
ハ適時ノ退却テアツタテアロウ、吁、

斯クシテ埃ノ全軍ハ大部支離滅裂トナツテ、ボルミダ (Bornida)ノ渡河ヲ爭ヒ、河中  
ニ溺死シタルモノモ澤山アツタ、砲二十餘門モ河中ニ葬ラレタ、而シテ其ノ損害ハ  
無窮九千ノ多キニ達シ、其ノ内、三千ハ捕獲セラレタ、捕虜ノ中ニハ參謀長ツア、ハ (Sa  
ch)モ仲間入りヲシテオツタ、

マレンゴ (Marengo)ノ會戰ハ實ニ佛軍ノ爲メニハ不意ノ攻勢ニ惹起セラレ次テ、埃

軍ノ爲メニハ不意ノ出來事ニ終ツタ、而シテ其結果ハ奈翁ノ盛名ト、デゼー (Desaix)  
ノ名譽ト埃軍ノ失敗トヲ青史ニ遺シタ、

メラス (Melas)ハ敗報ヲ聞イテ如何ニ落膽シタカ、彼ハ最早駄目タト思ヒ切ツタ、ソ  
シテ直ニ和ヲ請フタ、奈翁ハミンチオ (Mincio)河 (Garda湖ヨリ南方ニ流ル)以西ヲ佛國  
ニ割讓スルノ條件ノ下ニ之ヲ許シタ、奈翁ハメラス (Melas)ト休戰ヲ約スルト同時  
ニ、死屍累々タルマレンゴ (Marengo)ノ戰場カラ、埃國皇帝ニ書ヲ贈ツテ、痛切ニ平和  
ノ必要ヲ説イタ、埃國政府モ此ノ悲況ニ於テハ平和ノ意切ナルモノカアツタ、然シ  
彼ヲ手先キニ利用シツツアル英國ハ同意シナイ、百方媾和ニ妨害ヲ與ヘ、且ツ喰ハ  
スニ例ノ手段タル金穀ノ援助ヲ以テシタ、爲メニ平和ハ一時往キ惱ンタカ、此年十  
二月佛將モロー (Morau)モ亦タ大ニ埃軍ヲ擊破シ埃都近ク迄押シ寄セタ、於是埃國  
モ愈、力屈シテ不本意ナカラモ、リュネビル (Luneville)條約ヲ結ビ、茲ニ始メテ平和ノ  
光リカ現ハレタ、而シテ佛國ノ隆盛ハ奈翁ノ偉名ト共ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタ、

附記

マレンゴ (Marengo)ノ會戰ハ奈翁ノ諸戰役中テモ變化ニ富ミ興味多キ會戰ヲ奈

翁自身モ亦大ニ得意トシ、誇リトシタ所ロテアル、其ノ會戰ノ際ニ自カラ用ヒタ武裝ノ諸具ハ大切ニ保存セラレ彼レカ其後、皇帝ノ榮冠ヲ載イタ年ニ愛后ジヨセフインヲ連レテ此ノ得意ナル古戰場ヲ訪ヒ當時ノ戰鬪經過ヲ其ノ儘演習セシメテ欣ンタト云フコトテアル、要スルニ青年將校諸君ノ爲メニハ特ニ研究ノ材トシテ有益ナル戰例トスルニ足ルト信スル、

### マレンゴ(Marengo)會戰ノ所見

一 奈翁カ十四日朝、其ノ豫期ニ反シ突然マレンゴ(Marengo)方面ニ激烈ナル砲聲ヲ聞クヤ、敵主力ノ攻撃ナラント判断シタ、此ノ時ノ處置トシテハ如何ニスヘキカ、先ツ各隊ニ命シテ速ニマレンゴ(Marengo)方面ニ轉進ヲ命スルト同時ニ、親カラ戰場ニ急進シテ實際ノ情況ヲ視察スルノカ至當テアロウ、而シテ其ノ情況ヲ視察シテビクトル(Victor)軍團カ優勢ナル敵ヨリ攻撃セラレアルヲ知ツタナラハ如何ニスヘキカ、我操典ニハ遭遇戰ノ場合ニ於ケル展開法ヲ示シタル中ニ左ノ條アリ、敵兵若我ニ先ンシテ展開ヲ終ヘントスル虞アルトキハ適宜敵ト離隔シテ戰鬪準備ヲ整ヘ敵ノ包圍ヲ豫防シ且終始優勢ナル敵ト對戰スルノ不利ヲ免レンカ爲十分ナル兵力ヲ展開シ得ルニ至ルマテ眞面目ノ戰鬪ヲ避クルヲ要ス〔步兵操典第二部第四十七〕ト、即チ當時ノ情況ハ此ノ條ヲ適用スヘキ場合デアル、故ニ指揮官ハ先ツ多少敵ト離隔シテ展開ヲ完了シ然ル後、彼我ノ大勢ニ依リ前衛ノ線ニ進出スヘキカ、或ハ已ムヲ得ス前衛ヲシテ後退セシムヘキカヲ決定

スヘキテアル、徒ラニ逐次ノ兵力増加ハ絶エス劣勢ヲ以テ敵ニ對スルコトナリ大ナル危険ニ陥ルモノテアル現ニ佛軍ノ勇敢精銳ヲ以テシテ敗退ノ已ムヘカラサルニ至ツタノハ此ノ間ノ原則ヲ證スルモノテアル、

二 塙軍カ戰勝後、直ニ追撃ヲ行フコトナク徒ラニ其ノ隊ヲ集合シ、敵ニ退却ノ餘裕ヲ與ヘタノハ原則ヲ無視シタル大過失テアルハ言フ迄テナイ、吾人ハ決シテ戰勝ニ氣ヲ弛ムルコトナク、必ス果敢ナル追撃ヲ行フコトヲ忘レテハナラス、

三 敗退セル佛軍カ、假令敵ノ急追ナカリシトハ云ヘ、戰場ヨリ二里ニ足ラサル地點ニ集合整頓シ、再ヒ敵ニ向ヒ恢復攻撃ヲ爲シ得ルニ至ツタノハ佛軍ノ精銳ナル所以テアツテ奈翁ノ非凡ナル偉力ニ因ル、殊ニ勇敢ナルデゼー(Dessia)將軍ノ到着ハ奈翁ヲシテ此ノ決心ヲ執ラシムルニ與ツテ力アツタコトハ爭ハレス、要スルニ佛軍ニハ多クノ勇將ト、精銳ナル軍隊トカ、偉大ナル奈翁ノ統率ニ依ツテ赫々タル功績ヲ顯ハシタモノト言ハサルヲ得ナイ、

四 然シ奈翁タルモノカマレンゴ(Marengo)ノ會戰ニ於テ斯ク迄、危険極マル角力ヲ取ツタノモ、其ノ大因ハ即チ過度ニ兵力ヲ分散セシメ爲メニ、戰場ノ兵力カ塙

軍ヨリ劣勢テアツタコトテアル、吾人ハ此ノ間ノ消息ニ鑑ミ能ク戰略ト戰術トノ關係ヲ稽ヘ、以テ適當ニ按配スルコトヲ忘レテハナラス、殊ニ巧妙ナル戰略モ、戰術上ニ於テ勝利ヲ獲得シナケレハ役ニ立タスト言フコトニ注意スルコトカ緊要テアル、

結言 以上十數回ニ亘リ研究セル諸戰役ヲ列記スレハ

- 一七九六年伊太利戰役
- 一七九七年伊太利戰役
- 一七九八—九九年埃及遠征
- 一八〇〇年伊太利戰役

テアツテ特ニ奈翁ノ年少氣銳ナル時代ニ於ケル神出鬼沒ノ状態ヲ窺知スルコトカ出來タロウト思フ、而シテ爾後ノ諸戰役ニ就テハ奈翁カ皇帝ノ榮位ニ昇ルト共ニ其ノ行動モ漸次圓熟シ來ル状態ヲ知ルコトカ出來ルノテアル、實ハ予モ續イテ筆ヲ執ル心算テアツタカ、急ニ已ムコトナキ事情カ起ツテ、茲ニ中止スルノ餘儀ナキ場合トナツタノハ甚タ遺憾ノ極ミテアル、依テ他日ヲ期シテ再ヒ諸彦ニ見ユル、

コト、シ、暫ク御別レヲ告クル次第テアル、然シ、セメテ多少ノ御參考ニモナランカト思意シ爾後ニ於ケル奈翁ノ諸戰役ニ就テ其ノ主ナル研究項目ナリトモ掲ケ、篤學ナル諸彦ノ研究ニ便セント思フ讀者請フ予ノ微意ノ存スル所ヲ諒セラレシトコトヲ。

一八〇五年(Austerlitz, Ulm)戰役

ウルム(Ulm)役ハ佛軍ノ戰略展開、開進地ノ變化、各軍團ノ連繫的長途行軍、戰略的包圍ノ模範的戰例ト爲ル、

アウステルリッツ(Austerlitz)戰役ハ、長途ノ追撃、一部隊ヲ以テスル脅威牽制ノ利害、攻勢終末點ノ撰定殊ニ攻勢防禦ノ模範的戰例ナリ、

一八〇六年(Tena, Auerslehd)戰役

イエナ(Tena)戰役ハ大軍ノ集中及山地進出、敵情不明ノ際ニ處スル奈翁ノ決心處置、會戰場裡ノ變化、殊ニ大々的追撃ニ就テハ模範的戰例ニ價ス、

アウエルスラット(Auerslehd)會戰ハ不期戰ノ戰例トシテ面白シ、

一八〇六年晩秋(Pultusk)戰役

河川ノ攻防殊ニ他ノ諸戰役ト連繫シテ露軍戰法ノ一斑ヲ研究スルニ適ス、

一八〇七年(普領 Eylau, Friedlaed) 戰役

普領アイラウ(普領 Eylau) 戰役ニ於テハ露軍司令官ノ攻勢前進ニ對スル奈翁ノ對進法、アイラウ會戰ノ激烈ト最後ノ五分間、佛軍團長ネイ(Ney)ノ敵情判斷ノ誤リ等要スルニ對露軍戰法ニ就テ研究ノ價値多シ、

フリードランド(Friedland) 戰役ハ、ハイルスベルヒ(Heilberg) 附近ニ於ケル佛軍ノ逐次攻撃ノ失敗、フリードランド會戰ニ於ケル露軍司令官ノ不決心等要スルニ普領アイラウ會戰ト同様ニ對露戰法ノ研究ニ適ス、

一八〇七年—九年西班牙戰役

戰略的中央突破、佛軍兵力分離ニ因スル大失敗等、

一八〇九年(Regensburg, Aspern, Wagram) 戰役

レーゲンスブルグ(Regensburg) 戰役ハ、佛、埃兩軍司令官ノ統帥能力ノ懸隔ト奈翁ノ咄嗟ニ際スル秩序的行動、佛軍強行軍ノ一例、

アスペルン(Aspern)ノ會戰ハ、河川ノ攻防ニシテ、佛軍敵前渡河ノ失敗、

ワグラム(Wagram)ノ會戰ハ同シク河川ノ攻防ニシテ佛軍ノ敵前渡河ニ成功ス、

以上ノ二戰例ハ河川ノ攻防研究ニ大ナル參考トナルモテアツテ、現歐洲戰ニ於ケルマツケンゼン將軍ノダニユーブ渡河ト併セ研究スレハ大ニ得ル所ロカアロウト思フ、

一八一二年(露國侵入)戰役

此ノ戰役ハ誰レモ知レル如ク、奈翁沒落ノ第一步トシテ四十有餘萬ノ大軍ヲ全滅セシメタル悲惨極マル大悲劇テアル、軍事上首要ナル研究項目トシテモ随分アルガ先ツ其ノ二、三ヲ舉クレハ  
大軍ノ戰略開進奈翁ハ國境附近ニ巧妙ナル開進ヲ行ヒ、敵ヲシテ其ノ意思ヲ窺知シ難カラシメタ、聯合軍ノ統帥法、長途ノ連續行軍、ベレジナ渡河戰、露軍作戰法等枚擧ニ暇アラス、讀者ハ一度ハ此ノ戰役ノ梗概ヲ研究セラルレハ吾人ノ將來ニ對シ得ル所多カラシ、(大正三年一月發行偕行社記事四百七十二號附錄ニ其ノ大要ヲ研究セラレアリ)、

一八一三年(Leipzig)戰役

奈翁ハ新募未熟ノ兵ヲ率ヒ而カモ敵ノ聯合軍ヲ各個ニ擊破シツツ各地ニ轉戰シ大ニ活動シタル後、終ニライプチヒ(Leipzig)ニ於テ敗戦スル迄、其ノ行動ノ敏活巧妙ナル處、多大ノ教訓ニ富ム、

一八一四年戰役

此役モ亦タ奈翁ハ劣弱軍ヲ以テ敵ノ聯合軍ニ當リ各地ニ轉戰シ數次ノ敗戦ニ屈セス能ク優勢ナル敵軍ヲ支フルコト三ヶ月ノ久シキニ及ヒタリ、彼、カ常ニ攻勢的ニ凡テヲ解決セントスルノ跡ヲ究ムヘキテアル、

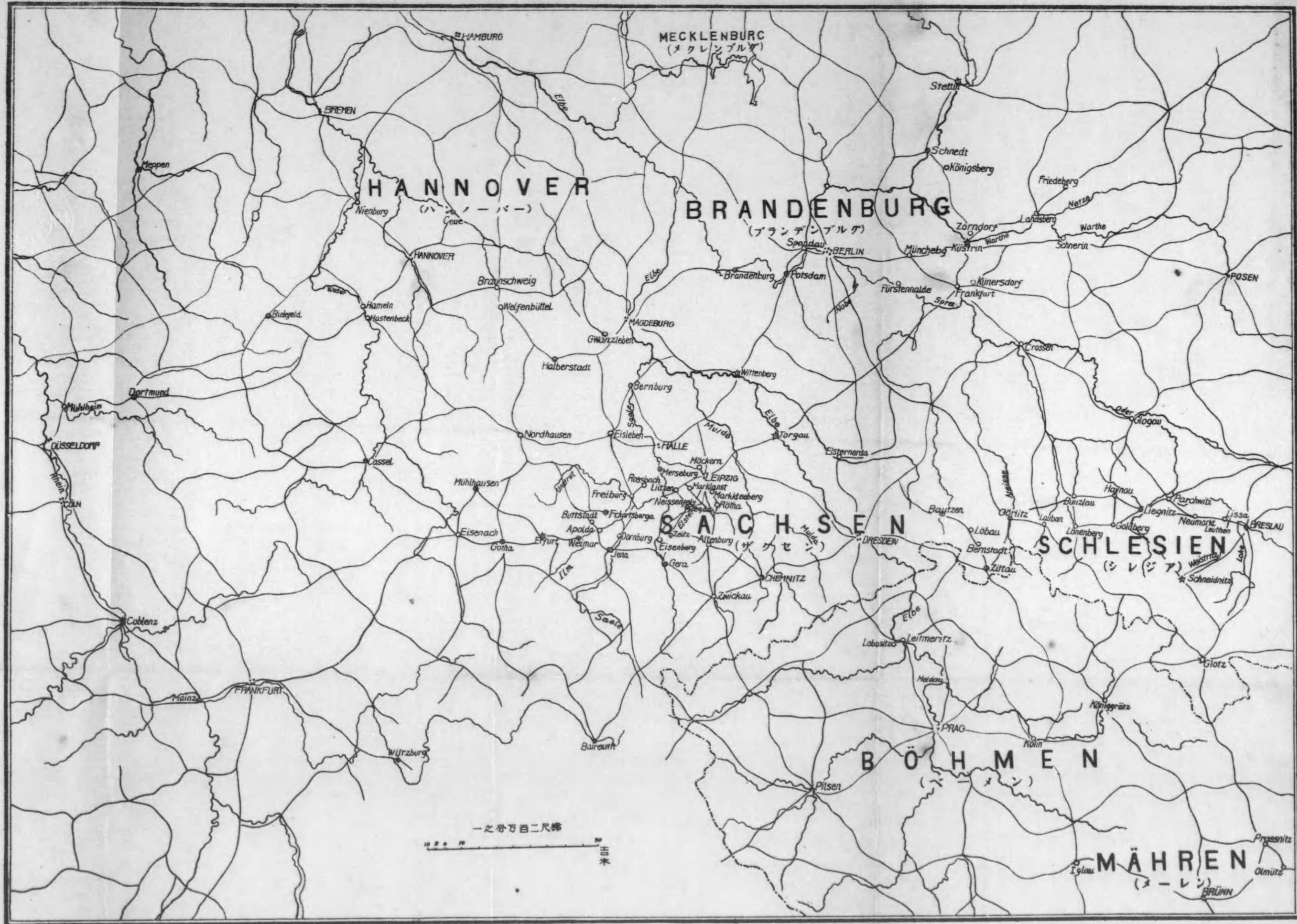
一八一五年(Waterloo)戰役

此ノ役ハ即チ奈翁戰役最後ノ悲劇テアツテ、最初普、英軍ヲ各個ニ擊破セントシテ其ノ目的ノ一部ヲ達シタカ部將グルシーノ失策ニ依リテ、却テ各個擊破ノ悲運ニ陥ツタノテアル、往年ニ於ケル奈翁ノ盛時ト此ノ最終ノ沒落トヲ對照スレハ誠ニ無量ノ感カ起ル、此ノ感想ノ中ニ亦タ大ナル教訓カ宿ルテアロウ、

以上ハ固ヨリ極メテ大體ノ項目テアツテ、實際此等ノ諸戰役ヲ具體的ニ研究スレ  
ハ無量ノ教訓ト感想トカ湧出スルノテアル、其ノ湧出ノ程度ハ一ニ研究ノ深淺ト  
研究方法ノ當不當トニ依リテ差ヲ生スルノテアル、諸君願クハ一度此等ノ諸戰役  
ニ就テ少クモ其ノ大要ナリトモ玩味セラレ、以テ他日再ヒ本紙ノ上ニ見ユルノ際  
ニ當リ、高論卓說ヲ寄セラレ、ンコトヲ切望スル次第テアル。



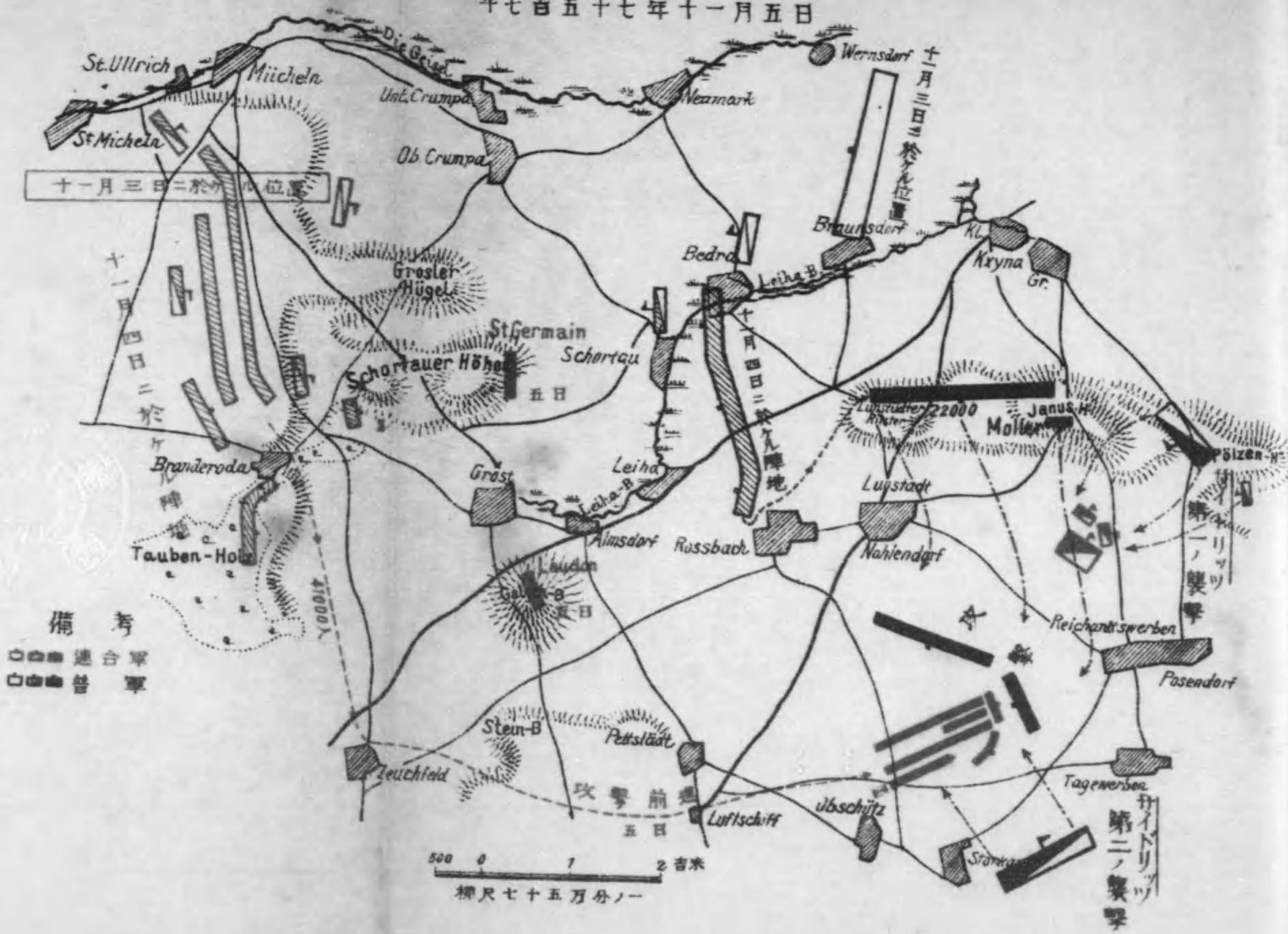
# 七年戦一般圖





# ロースバッハ(Roszbach)の戦闘

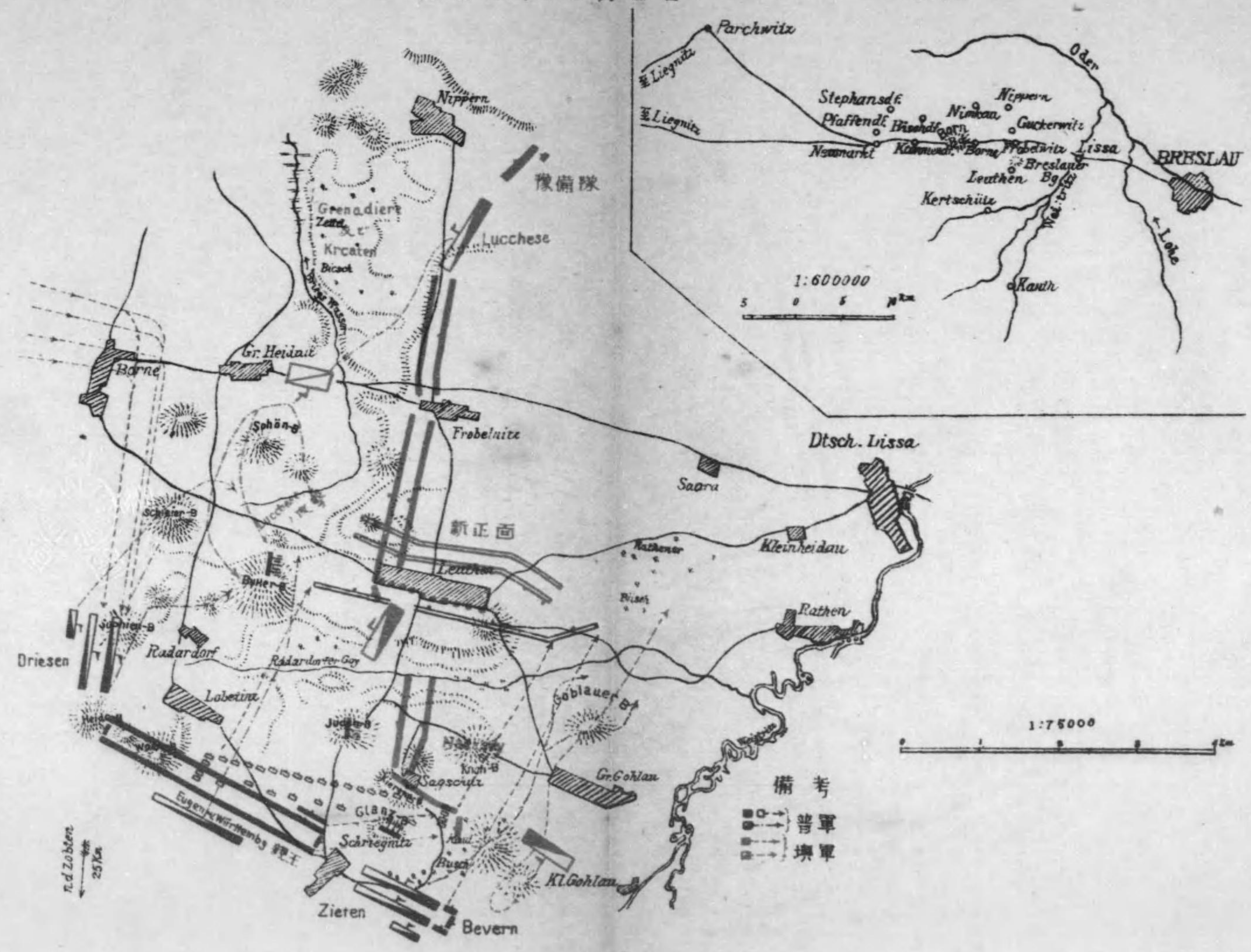
十七百五十七年十一月五日



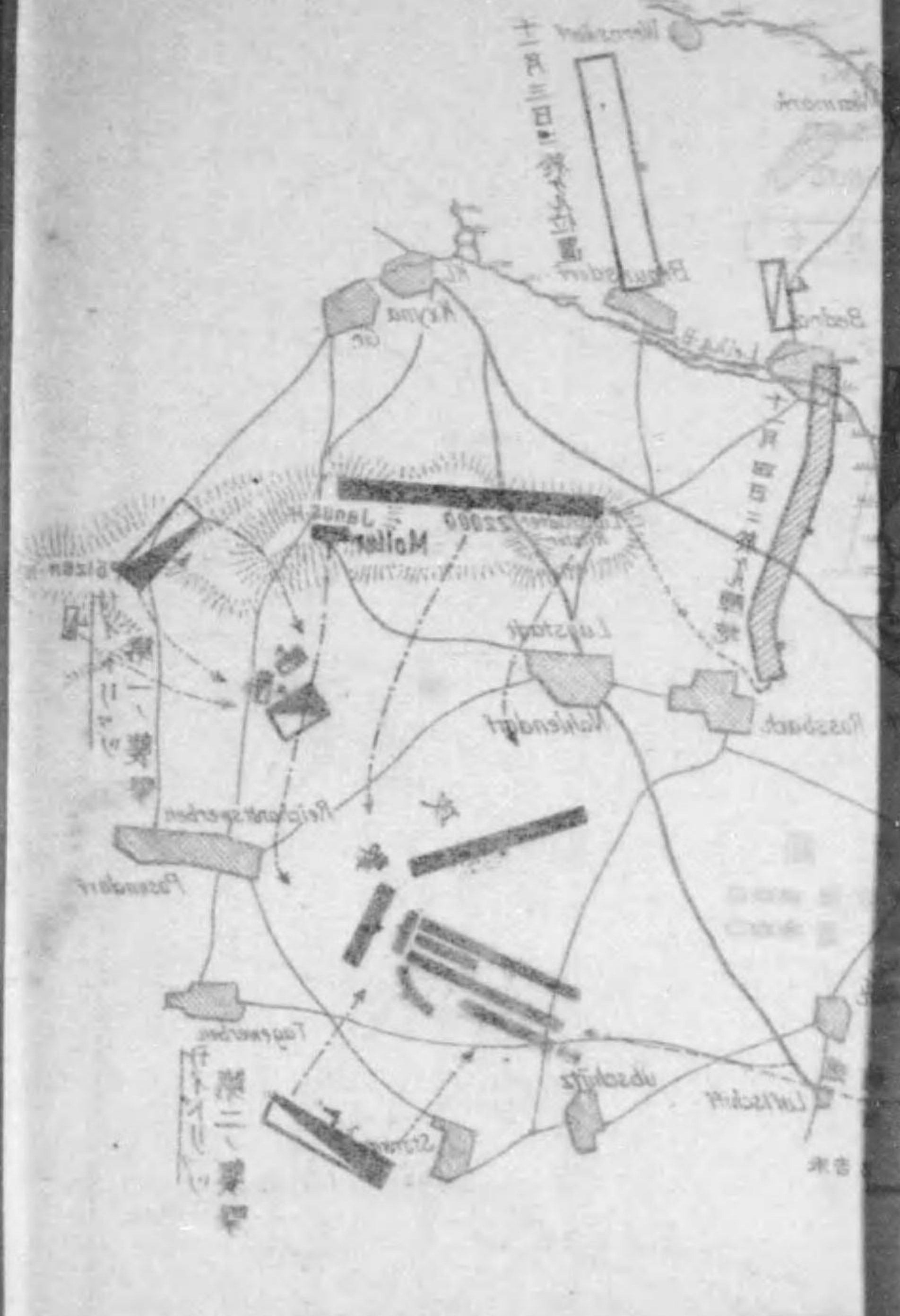
# ロイテン (Leuthen) 附近ノ 戦闘 一般圖

一八五七年十二月五日

一般圖



# 關輝 (Leuthen) 附近ノ 戦闘 一般圖





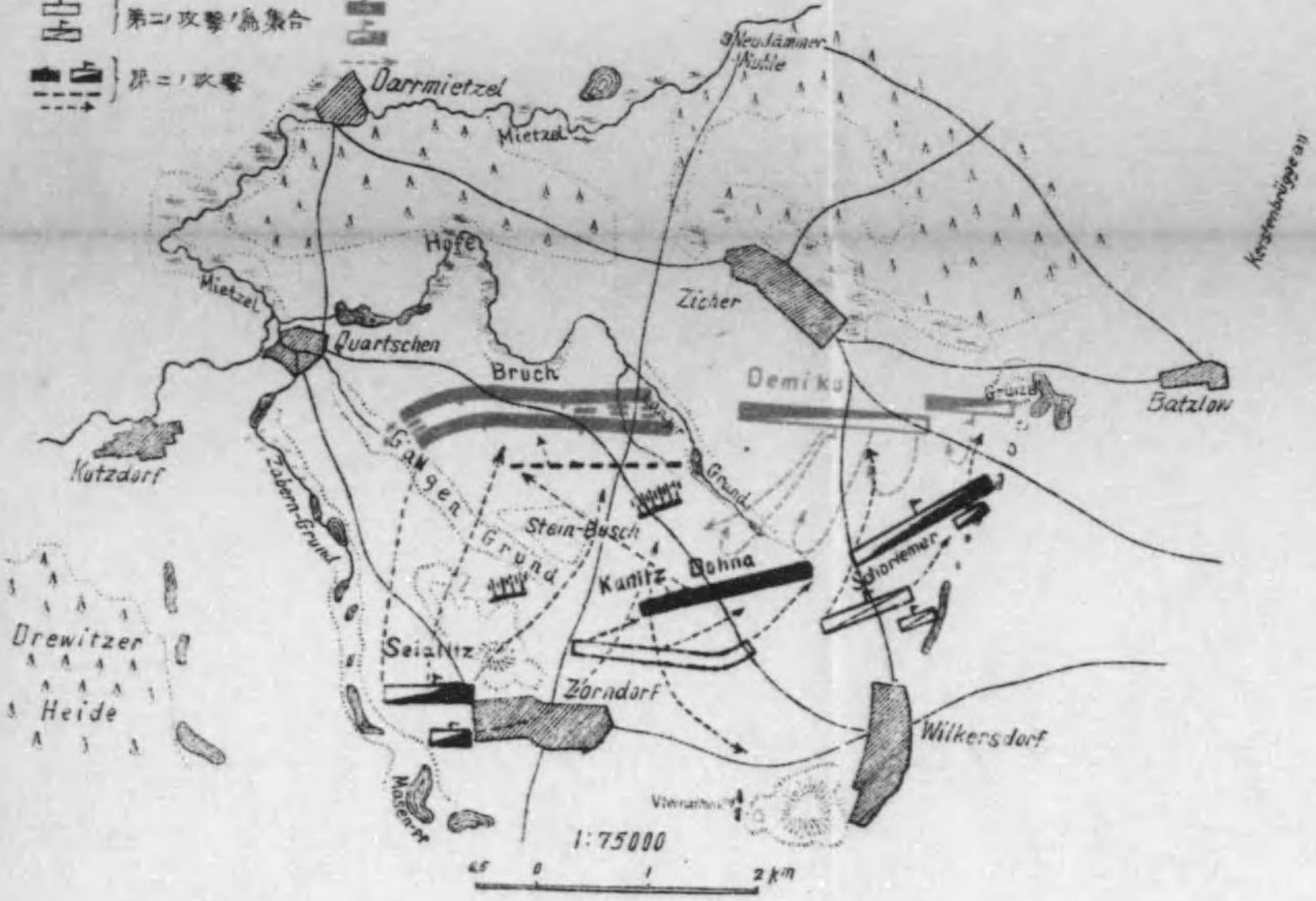
說明

普軍 露軍  
第一、攻擊  
第二、攻擊

其二

Zorndorf, 之 戰 闘

一七五八年八月二十五日



一般圖

說明

普軍 露軍  
八月二十一日  
前進 退却  
Quartzen 附近陣地

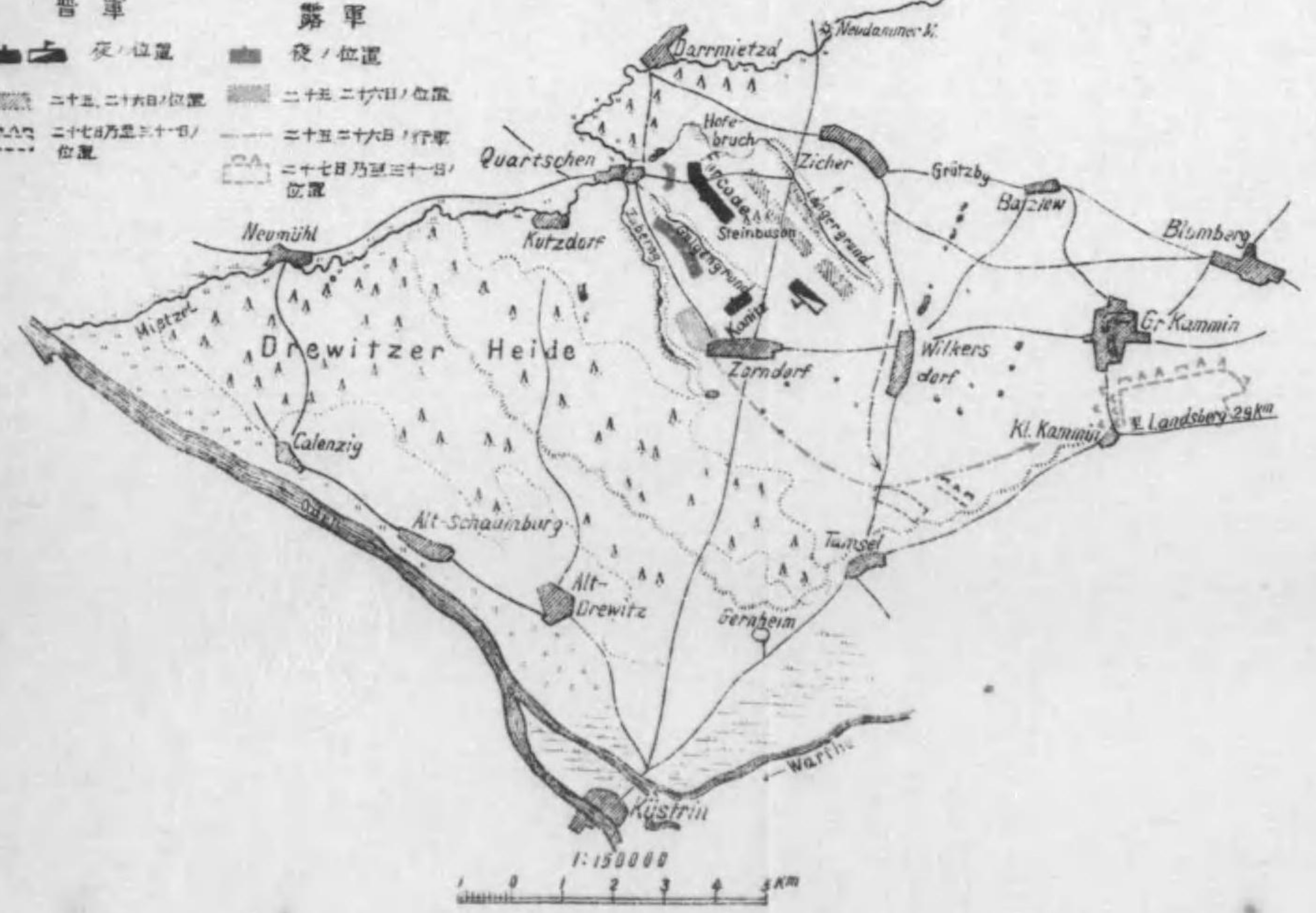
1:75000  
5 0 5 10 15 km



說明

普軍 露軍  
夜、位置  
二十、二十六日、位置  
二十七日、位置  
二十七日、位置

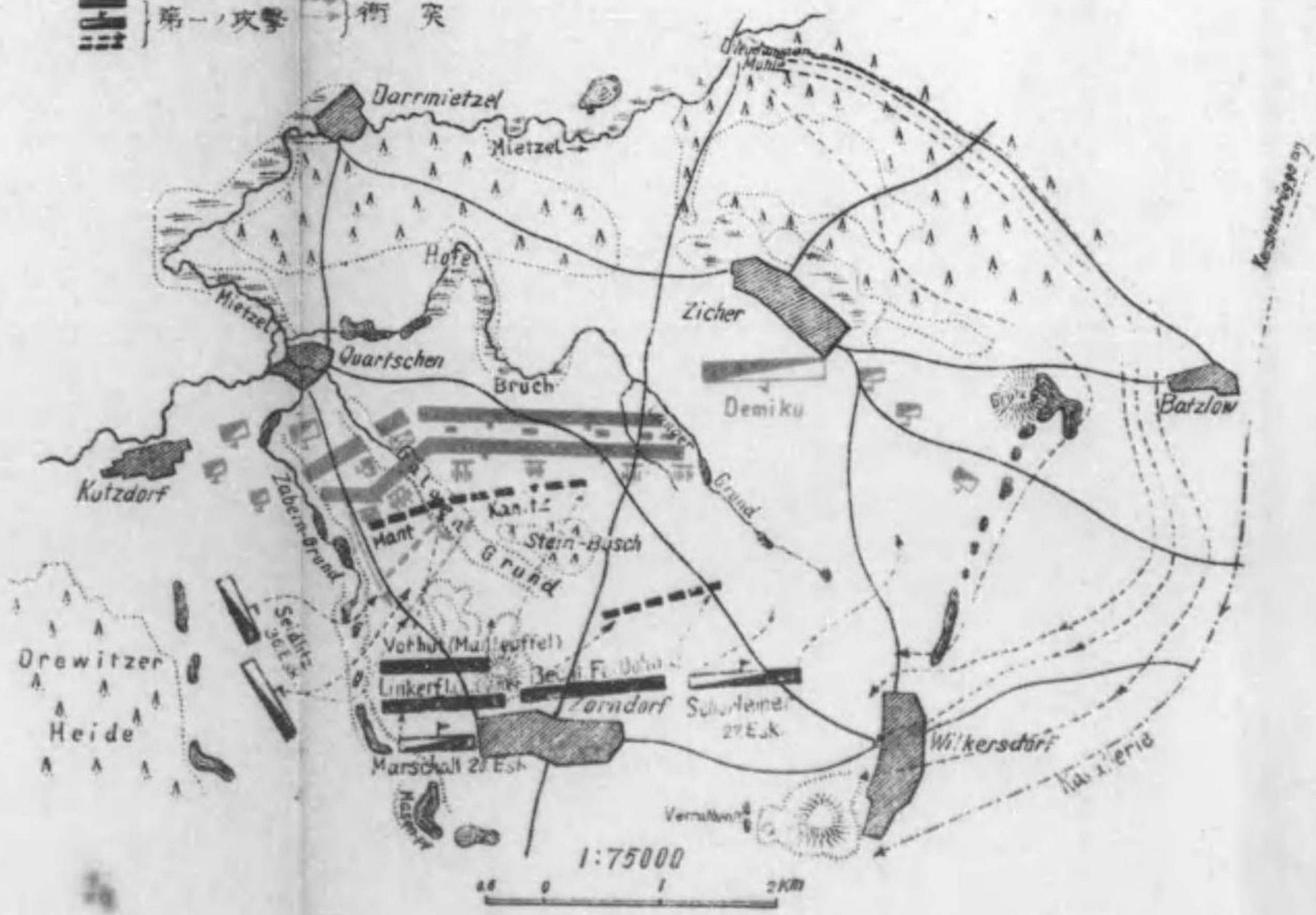
其三



說明

普軍 露軍  
前進 退却  
第一、攻擊 衝突

其一



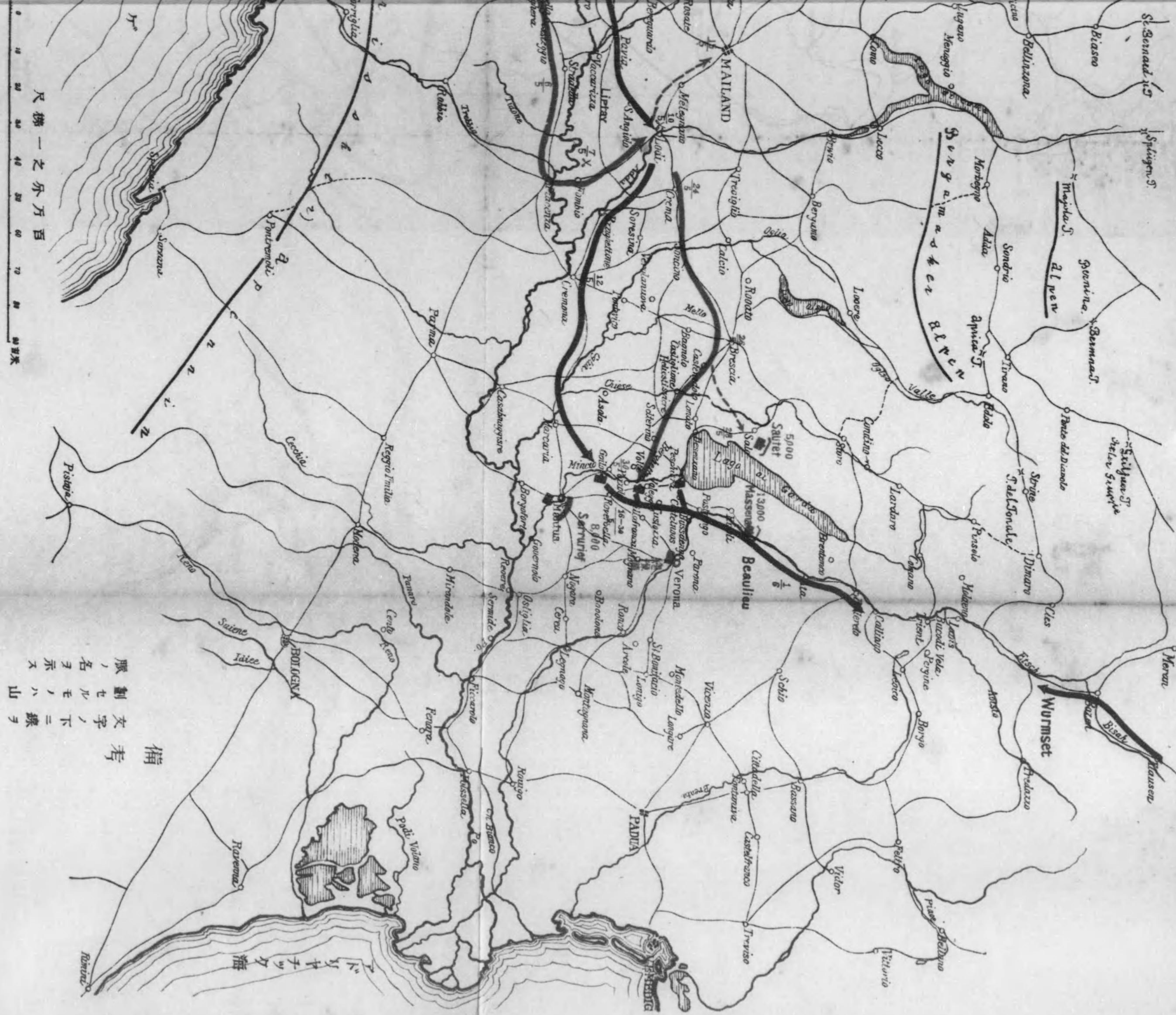


一其圖覽一役戰利太  
戰作ノ迄ル至ニ旬下月



尺梯一之尔

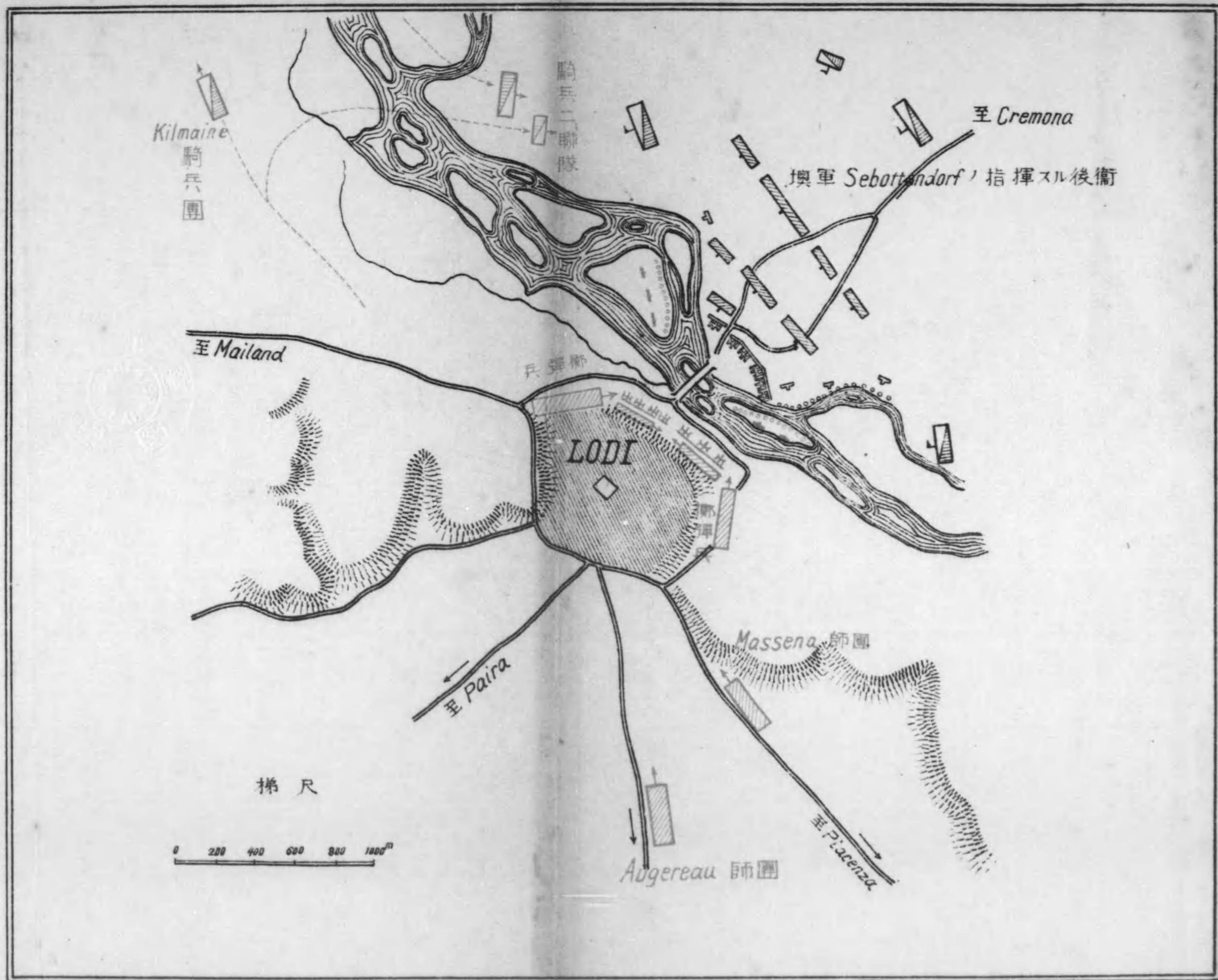
後戰利太伊年六十九百七千  
 迄九至二旬下月五リヨ旬中月四



備考  
 文字ノ下ニ線ヲ  
 劃セラルモノハ山  
 脈ノ名ヲ示ス



# LODI附近ノ戦鬪 (千七百九十六年五月十日)

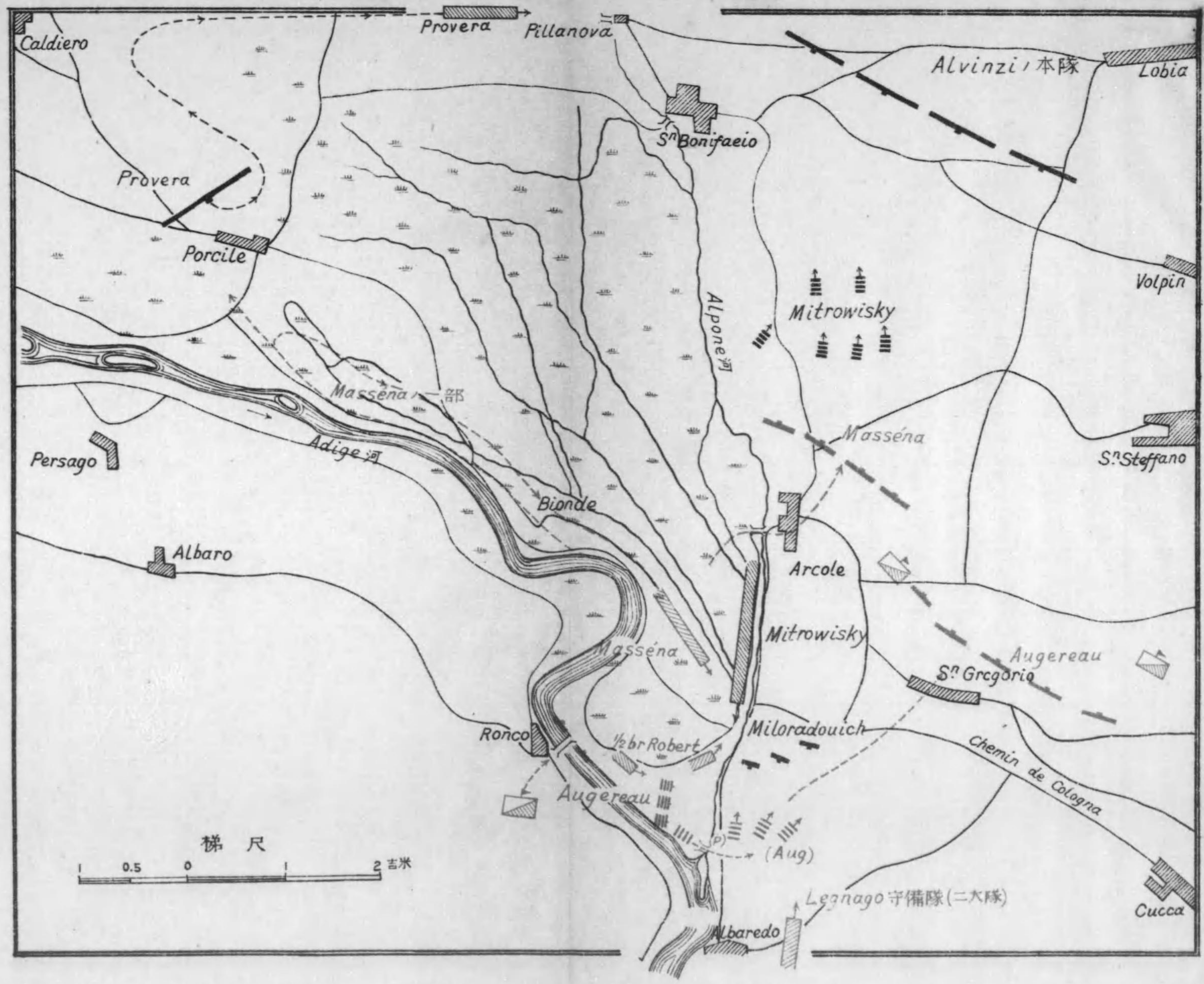






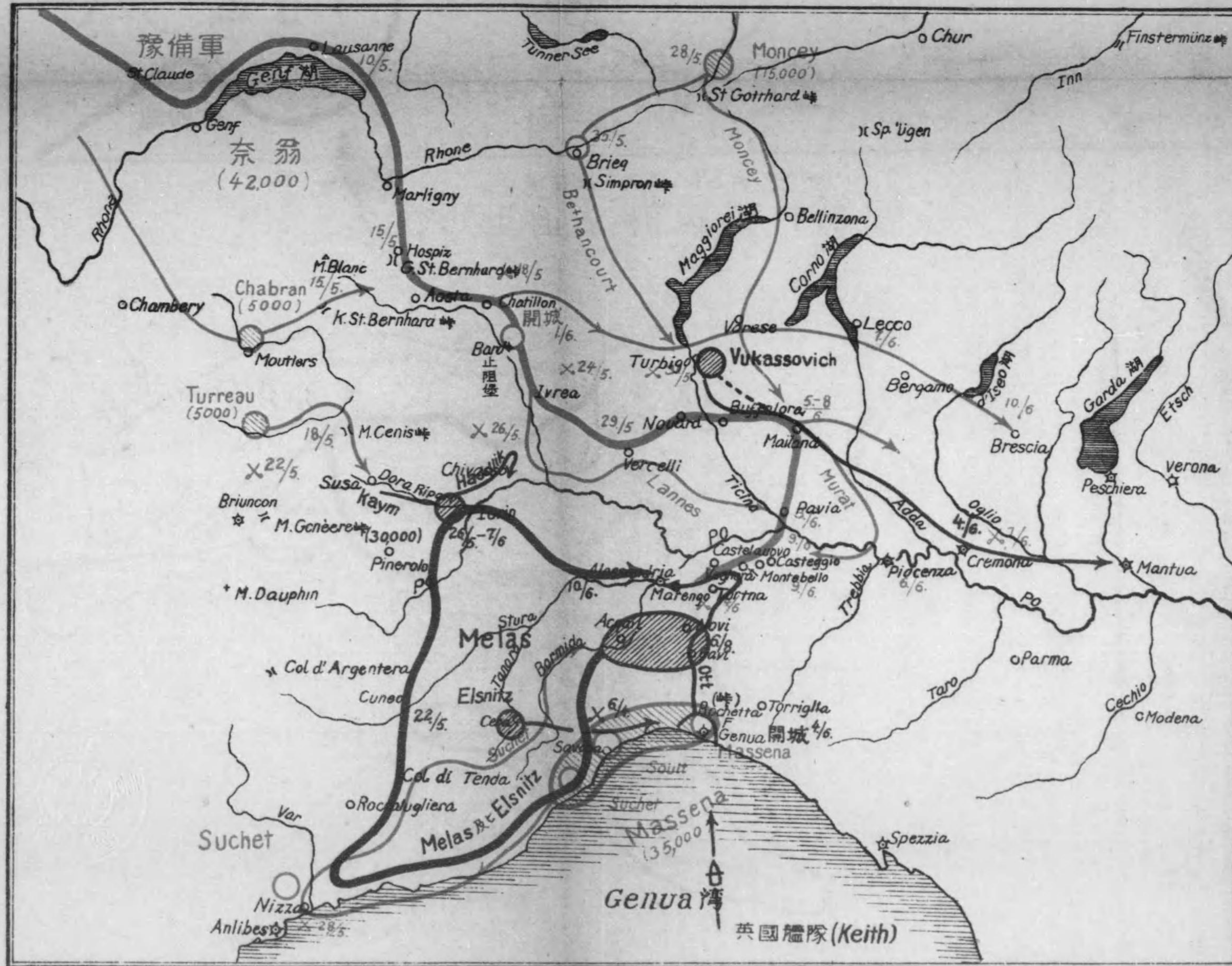


# ARCOLE 附近ノ戦闘(第三日十一月十七日)



# 一八〇〇年伊太利戰役一覽圖

自五月上旬至六月中旬

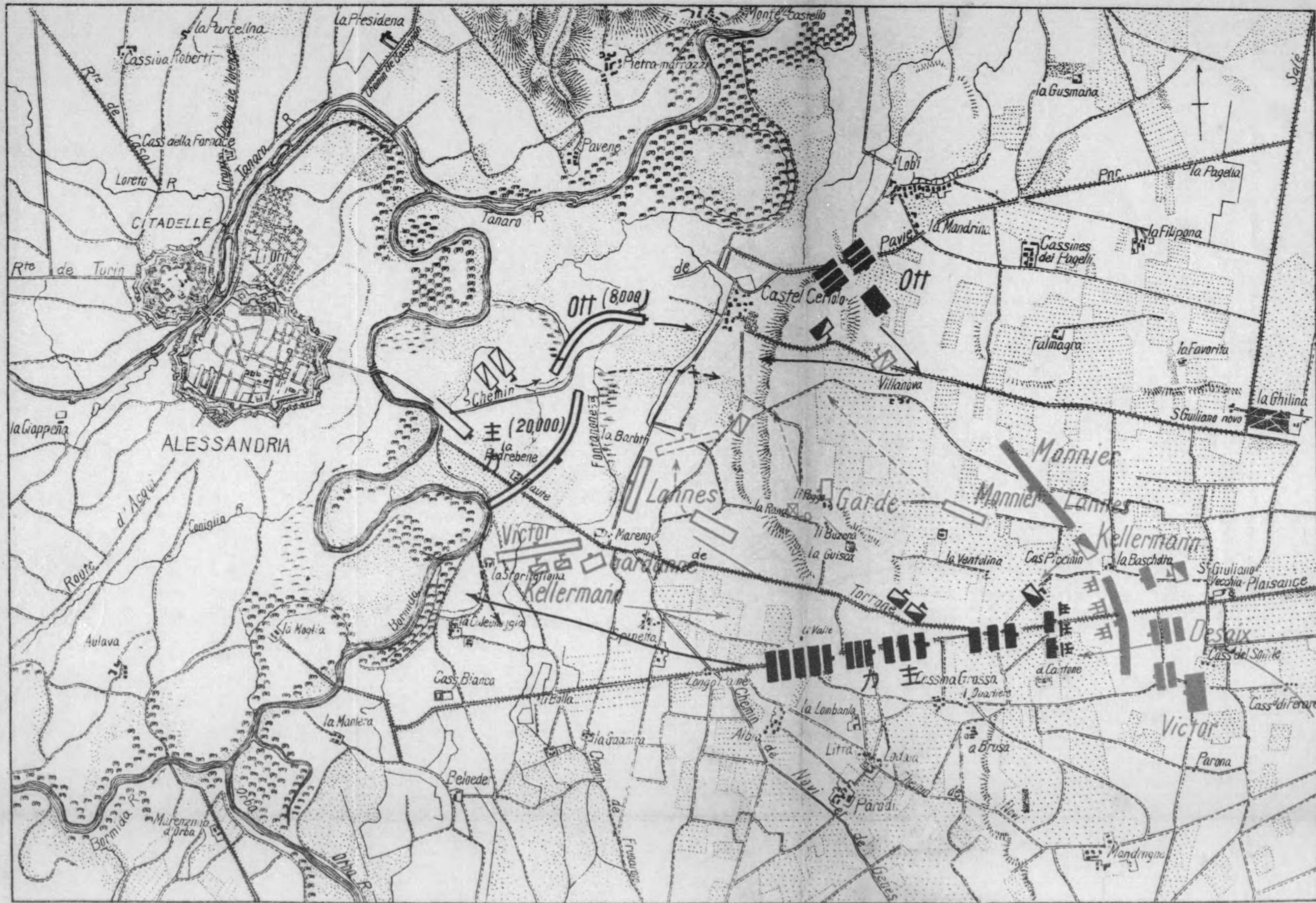


一分万百二 尺標  
 20 10 0 20 40 60 80 100 吉米

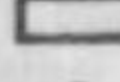



# Marengo 會戰圖

於一八〇〇年六月十四日



標尺四万分之一  
米 1000 500 0 1000 2000 米

備考 午前十一時  午後五時 



大正六年十一月十三日印刷  
大正六年十一月十八日發行

編輯  
印刷發行者

東京市四谷區荒木町二番地

前田岩太郎

東京市麴町區下六番町十七番地

印刷所 同 勞 舍

東京市四谷區荒木町二番地

發行所 前田干城堂

(振替口座東京一六九八五番 電話番町一四九六番 干城堂内)

319
390

7

終